

高

1

クラス		受験番号	
出席番号		氏名	

3 高1
手引き

2014年度

第3回 全統高1模試

学習の手引き

(解答・解説集)

2014年11月実施

英語 1

数学 27

国語 87

本冊子巻末に「自己採点シート」と「学力アップ・志望校合格のための復習法」を掲載していますので、志望校合格へむけた効果的な復習のためにご活用ください。

河合塾



1465630319501000

【英語】

『学習の手引き』を読むにあたって

(1) 『学習の手引き』について

この『学習の手引き』はすべての問題に対して、原則として、問題がそのまま印刷されています。したがって、この『学習の手引き』をもう一度しっかり読み直すことで、問題のねらいを確認し、その定着をはかることができるようになっています。どうか、皆さんの学習に十分役立てて下さい。その際、この『学習の手引き』で用いた記号・略号について理解した上で、読み進んで下さい。

(2) 『学習の手引き』の組み立て

各設問の冒頭にある☆☆☆のマークはその設問の難易度を示しています。現時点での自分の学力を確かめて、今後の学習の指針にして下さい。

★☆☆ 基本

★★☆ 標準

★★★ 発展

【設問別解説】 問題を解くために必要な知識と解き方の解説です。

Ⓐ 解答のポイントや正解に至る筋道を示してあります。

▷ 参考例文

File この枠内では問題を解く上で前提となる基本的知識や発展的情報をまとめてあります。

【本文解説】 長文問題での英文本体の文ごとの訳と解説です。①, ②, ③…は文番号を示します。

(3) 『学習の手引き』で用いた略号と表記

S 主語(原則として名詞)

V 動詞

O(O₁ / O₂) 動詞の目的語(原則として名詞)

C 補語(原則として名詞・形容詞・分詞)

A / B (原則として)名詞

to do to不定詞

do 原形不定詞(to のつかない不定詞)

doing 現在分詞もしくは動名詞

done 過去分詞

does 現在形

did 過去形

have done 完了形

イタリック体(ななめになっている文字)の部分にはさまざまな動詞がくることを示す。

that節 接続詞 that によって導かれる節

(that S V ...)

wh-節 when / where / why / how / whether

などに導かれる節

[] 言い換えることができる語(句)

() 省略することができる語(句)

/ 2つ以上の単語あるいは表現を併記する場合

1 リスニング

【解答】

- A (1) (a) looked (b) too
(2) (a) turned (b) it (c) up
B (1) ウ (2) エ (3) ア
C (1) エ (2) エ

【配点】(20点)

A 各1点×5 B 各3点×3

C 各3点×2

【設問別解説】

A [ディクテーション]

★★★

【読み上げられた英文と訳】

- (1) The boy (a)looked (b)too young to operate the machine, but he did it pretty well.
(2) My favorite song was playing on the radio, so I (a)turned (b)it (c)up a little.

- (1) 少年はその機械を操作するには幼すぎるよう見えたが、わりと上手にやってのけた。
(2) 私のお気に入りの曲がラジオでかかっていたので、音量を少し上げた。

【語句解説】

- operate O 「O を操作する」
- pretty 「わりと、かなり」
- turn O up / turn up O 「O(音量など)を上げる」

- (1) (a) looked のように 2 つの破裂音 /k/, /t/ が連続する場合、最初の /k/ はほとんど発音されなくなることがある。また、語尾の /t/ は直後の (b) too と音がつながって 1 つに聞こえることがあるので注意。
(2) (a) turned, (b) it, (c) up の 3 語は音がつながって 1 つの単語のように聞こえるがあるので注意。その際、(b) it の語尾の /t/ は 2 つの母音に挟まれることになり、/d/ のように聞こえることがある。

B [ダイアローグ]

- (1) ★☆☆

【読み上げられた英文と選択肢】

- W: I can't find my earphones.
M: Did you look in your desk drawer? You found them there last time.

W: I already did. I just can't seem to remember where I put such things.

Question: What will the man probably say next?

- ア. "I can find my way without your help."
イ. "I can't decide which ones are better."
ウ. "You should have a special place for them."
エ. "You should report it to the police first."

【読み上げられた英文と選択肢の訳】

女性: 私のイヤホンが見つからないわ。

男性: 机の引き出しの中は見たのかい? この前はそこで見つけたよ。

女性: もう見たわ。こういう物ってどこに置いたかどうも覚えていられないよね。

質問: 男性は次におそらく何と言うか。

- ア. 「君の助けがなくても道はわかるよ」
イ. 「どちらのほうがいいか決められないなあ」
ウ. 「そのための特別な場所を決めておくといいよ」
エ. 「まずは警察に届けるべきだよ」

【語句解説】

- look in A 「A の中を見る」
- drawer 「引き出し」

イヤホンが見つからないという女性が 2 回目の発話を I just can't seem to remember where I put such things. 「こういう物ってどこに置いたかどうも覚えていられないよね」と言っているのを聞き取る。このことから、女性は日常的にイヤホンのような小物をどこに置いたか忘れてしまう傾向があることを理解し、男性の応答として適切なものを選ぶ。したがって、正解はウ。

- (2) ★★☆

【読み上げられた英文と選択肢】

M: It's already 9:50.

W: Our favorite historical drama starts in ten minutes.

M: Let's turn on the TV.

W: Oh! The news program before the drama has been extended for thirty minutes to cover the typhoon over the weekend.

Question: What time will the drama start tonight?

- ア. 9:50
イ. 10:00

ウ. 10:20
エ. 10:30

【読み上げられた英文と選択肢の訳】

男性：もう9時50分だ。

女性：私たちのお気に入りの歴史ドラマがあと10分で始まるわね。

男性：テレビをつけよう。

女性：あら！ ドラマの前のニュース番組が週末の台風の報道のため30分延長されているわ。

質問：ドラマは今夜、何時に始まるか。

ア. 9時50分

イ. 10時

ウ. 10時20分

エ. 10時30分

【語句解説】

- historical 「歴史の」
- turn O on / turn on O 「O(テレビ・ラジオ・明かりなど)をつける」
- extend O 「O を延長する, O を伸ばす」
- cover O 「O を報道する」

冒頭のやり取りから、ドラマがふだんは10時に始まることになっているのを押された上で、女性の2回目の発話にある The news program before the drama has been extended for thirty minutes ... 「ドラマの前のニュース番組が30分延長されているわ」を聞き取る。このことから、ドラマは30分遅れて始まることを理解する。したがって、正解はエ。

(3) ★★☆

【読み上げられた英文と選択肢】

W: How do you count to three on your fingers?

M: In Japan, you start with an open palm and bend your thumb, and index and middle fingers.

W: In America, you start with a closed hand and hold up your index, middle and ring fingers.

M: My German friend holds up his thumb first, and then his index and middle fingers.

Question: When the man's friend counts to three on his fingers, what does his hand look like?



【読み上げられた英文の訳】

女性：あなたは指でどうやって3まで数えるの？

男性：日本では手のひらを広げたところから始めて、親指、そして人差し指、中指と折り曲げていくんだ。

女性：アメリカでは手は閉じておいて、人差し指、中指、薬指と立てていくの。

男性：僕のドイツ人の友人はまず親指を立てて、そして次に人差し指、中指と立てていくんだ。

質問：男性の友人が指で3まで数えるとき、その手はどうになるか。

【語句解説】

- start with A 「A から始める」
- palm 「手のひら」
- bend O 「O を曲げる」
- thumb 「親指」
- index finger 「人差し指」
- middle finger 「中指」
- closed 「閉じた」
- hold O up / hold up O 「O を立てる」
- ring finger 「薬指」

男性の2回目の発話 My German friend holds up his thumb first, and then his index and middle fingers. 「僕のドイツ人の友人はまず親指を立てて、そして次に人差し指、中指と立てていくんだ」を聞き取り、その状態を表すイラストを選ぶ。したがって、正解はア。

C [モノローグ]

(1) ★★☆ (2) ★★★

【読み上げられた英文】

A recent survey of 500 teachers in the UK showed an alarming number of children skipping breakfast. The teachers said four out of five children go to school without eating breakfast, and the problem is getting worse. Without eating a healthy breakfast, many

children behave badly at school and are unable to focus on studying.

In the survey, the teachers blamed parents' lack of interest the most. They said parents are often too busy or do not make an effort to prepare meals in the morning. Some parents give their children junk food such as chocolate and soda for breakfast. The survey suggests financial hardship could be another reason why a lot of children are skipping breakfast. Parents who have economic difficulties may not have enough money to provide good food to their children.

【読み上げられた英文の訳】

イギリスの500人の教師に対するある最近の調査で、驚くほどの数の子どもたちが朝食を抜いていることがわかった。教師たちが言ったところによると、5人のうち4人の子どもたちが朝食を食べずに学校に通っており、この問題は悪化しつつある。体によい朝食を摂らないことで、多くの子どもたちは学校での行儀が悪く、勉強にも集中して取り組むことができない。

調査の中で、教師たちが最も非難したのは親の関心の無さであった。親たちはしばしば忙しすぎて朝は食事を用意できないことがあり、またその努力をしていないと彼らは言った。親の中には、朝食にチョコレートや炭酸飲料といったジャンクフードを子どもに与えるものもいる。調査が示唆するところによると、家計の苦しさもまた、多くの子どもたちが朝食を抜いているもう1つの理由でありそうだ。経済的困難を抱えた親は、子どもによい食べ物を与えるのに十分なお金を持っていないのかもしれない。

【語句解説】

- ・ survey 「調査」
- ・ alarming 「驚くべき、不安にさせる」
- ・ a ... number of A 「…な数の A」
- ・ skip O 「O を抜く、O を飛ばす」
- ・ four out of five ... 「5つの…のうち4つ」
- ・ behave badly 「行儀が悪い」
- ・ focus on doing 「…に集中して取り組む」
- ・ blame O 「O を非難する」
- ・ lack 「欠如、不足」
- ・ make an effort to do 「…する努力をする」
- ・ prepare a meal 「食事を用意する」

- ・ junk food 「ジャンクフード」
- ・ A such as B 「Bのような A, Bなどの A」
- ・ suggest that S V ... 「…だと示唆する」
- ・ financial 「家計の、財政面の」
- ・ hardship 「困難」
- ・ economic 「経済上の」
- ・ provide O 「O を与える、O を提供する」

【読み上げられた質問と選択肢の訳】

(1) According to the survey, what percentage of children skip breakfast?

- ア. Less than 10 percent.
- イ. About 20 percent.
- ウ. About 50 percent.
- エ. About 80 percent.

調査によると、何パーセントの子どもが朝食を抜いているか。

- ア. 10パーセント未満。
- イ. 約20パーセント。
- ウ. 約50パーセント。
- エ. 約80パーセント。

(2) According to the teachers, what is the biggest reason for the problem?

- ア. Children are going on a diet to lose weight.
- イ. Children are oversleeping and don't have time.

教師たちは、この問題の最大の理由は何か。

- ア. 子どもたちが痩せるためにダイエットをしている。
- イ. 子どもたちが寝坊していて時間がいる。
- ウ. 親たちが家計で苦しんでいる。
- エ. 親たちが忙しすぎて関心を欠いている。

(1) 英文前半の The teachers said four out of five children go to school without eating breakfast, ... 「教師たちが言ったところによると、5人のうち4人の子どもたちが朝食を食べずに学校に通っており…」を聞き取る。four out of five children 「5人のうち4人の子どもたち」をパーセントで表すと80パーセントになる。したがって、正解はエ。

(2) 英文中程にある In the survey, the teachers blamed parents' lack of interest the most. They said parents are often too busy or do not make an effort to prepare meals in the morning. 「調査の中

で、教師たちが最も非難したのは親の関心の無さであった。親たちはしばしば忙しすぎて朝は食事を用意できないことがあり、またその努力をしていないと彼らは言った」を聞き取る。このことから、忙しさから来る親の関心の無さが最も大きな要因だと教師たちが言っていることがわかる。したがって、正解は工。

2 語い・熟語

【解答】

- | | | |
|---------------|---------------|-------|
| A (1) silent | (2) expensive | |
| (3) dangerous | (4) common | |
| (5) unique | | |
| B (1) ウ | (2) オ | (3) イ |
| (4) ア | (5) エ | |

【配点】(20点)

A 各2点×5 B 各2点×5

【設問別解説】

A [形容詞の定義]

(1) ★★☆

If someone is not saying anything although you expect him or her to speak, this means that he or she is s□□□□t.

問題文の意味は次のとおり。

「こちらが相手が話すことを期待しているにもかかわらず、その人が何も言わなければ、これは、その人が()ことを意味する」

したがって、「沈黙している」に相当する英単語 **silent** が正解。

(2) ★★☆

If the price of something you want is so high that you cannot buy it, this means that it is too e□□□□□□e for you.

問題文の意味は次のとおり。

「もし欲しいものの価格が、とても高くて買えなければ、これは、それがあなたにはあまりにも()ことを意味する」

したがって、「高価である、値段が高い」に相当する **expensive** が正解。

(3) ★★☆

If something is likely to cause harm or makes you worry about your safety, this means that it is d□□□□□□s.

問題文の意味は次のとおり。

「もし何かが危害を及ぼす可能性があったり、自分の安全について不安にさせるならば、これは、それが()ことを意味する」

したがって、「危険である」に相当する英単語 **dangerous** が正解。

(4) ★★☆

If something happens or is done often, or if something is widely used or is well known, this means that it is c□□□□n.

問題文の意味は次のとおり。

「もし何かが頻繁に起こったりなされたり、あるいは広く使われたり、よく知られたりしているのであれば、これは、それが()ことを意味する」

したがって、「ありふれている」に相当する英単語 **common** が正解。

(5) ★★☆

If something is the only one of its kind or exists as the only example, this means that it is u□□□□e.

問題文の意味は次のとおり。

「もし何かがその種のうちの唯一のものであったり、そのただ1つの事例として存在するのであれば、これは、それが()ことを意味する」

したがって、「独特である」に相当する英単語 **unique** が正解。

B [熟語]

(1) ★★☆

The new album, in a (), was the most shocking music the singer ever made.

What you are saying is too difficult and does not make () to me.

「その新しいアルバムは、ある意味で、その歌手が今まで制作した中で最も衝撃を与えるような音楽だった」

「あなたの言っていることは難しすぎて、私はさっぱりわかりません」

Ⓐ in a sense で「ある意味で」の意味。make sense で「意味をなす」の意味。

Ⓑ したがって、ウ. sense が正解。

(2) ★★☆

This guidebook is of no () today because it was written ten years ago.

If you want to succeed, you must try to make () of every chance you get.

「このガイドブックは10年前に書かれたので、今日では役に立たない」

「もし成功したいなら、あなたが得るあらゆる機会を活かすようにしなければならない」

Ⓐ of no use で「役に立たない」の意味。make use of A で「A を利用する」の意味。

Ⓑ したがって、オ. use が正解。

(3) ★★☆

Do you know when and where the accident took ()?

As Jack had caught a bad cold, I had to attend a meeting in his ().

「いつどこでその事故が起ったのかを知っていますか」

「ジャックはひどい風邪をひいていたので、彼の代わりに私が会議に出席しなければならなかつた」

Ⓐ take place で「起こる」の意味。in one's place で「…の代わりに」の意味。

Ⓑ したがって、イ. place が正解。

(4) ★★☆

After failing in business, I made up my () to start a new life.

What first comes to () when you think of ancient Egypt?

「事業に失敗した後、私は新たな生活を始める決心をした」

「古代エジプトについて考えると、真っ先に何

が思い浮かびますか」

Ⓐ make up one's mind to do で「…しようと決心する」の意味。come to mind で「(…が)思い浮かぶ」の意味。

Ⓑ したがって、ア. mind が正解。

(5) ★★★

The police lost () of the thief in the darkness.

The naughty boy ran away at the () of his teacher.

「警察は、暗闇の中で泥棒の姿を見失った」

「先生の姿を見て、そのいたずらな少年は逃げ出した」

Ⓐ lose sight of A で「A を見失う」の意味。at the sight of A で「A を見て」の意味。

Ⓑ したがって、エ. sight が正解。

3 文法

【解答】

A (1) ア (2) ウ (3) エ

(4) ウ (5) ウ

B (1) イ → singing

(2) ア → to have been

(3) ウ → disappointed

(4) ア → to whom

(5) エ → by

【配点】 (20点)

A 各2点×5 B 各2点×5

【設問別解説】

A

(1) ★★★ [形容詞の意味を限定する不定詞]

I don't know the rules of curling very well, but the game is interesting ().

ア. to watch イ. to watch it

ウ. watching エ. watching it

「私はカーリングのルールをあまりよく知らないが、その試合は見ていて面白い」

Ⓐ I don't ... very well は「私はカーリングのルール

をあまりよく知らない」という内容。この後に逆接の接続詞 but を用いてつながれていることや与えられている語句の意味から、the game 以下は「その試合は見ていて面白い(=その試合を見るのは面白い)」という内容だと考えることができる。

【例】「Aを見るのは面白い」は、Aを主語にした場合、形容詞 interesting を to不定詞で修飾し、A is interesting to watch. と表現することができる。この表現では、他動詞 watch の意味上の目的語が文の主語 A になるため、watch の後ろには A は不要であることに注意。同じ内容の文を形式主語の It を用いて、It is interesting to watch A. と表現することも可能である。

【例】したがって、正解はア. to watch.

形容詞の意味を限定する不定詞

不定詞の副詞用法の1つに、「…するには、…する上で」という意味で、easy, difficult, hard, impossible, safe, dangerous, interestingといった形容詞の意味を限定する用法がある。この用法は、不定詞句内の他動詞、あるいは前置詞の目的語が主語に移動したものとも考えられる。

【例1】 That book is difficult to understand.

「あの本は理解しにくい」

- That book が、他動詞 understand の意味上の目的語として働いている。

【例2】 This river is dangerous to swim in.

「この川は泳ぐには危険だ」

- This river が前置詞 in の意味上の目的語として働いている。

なお、このような形容詞の意味を限定する用法の不定詞を用いた文は、形式主語構文を用いて書き換えることができる。上記の【例1】、【例2】は、次のように書き換えられる。

【例1】=It is difficult to understand that book.

【例2】=It is dangerous to swim in this river.

File 1

(2) ★★☆ [動名詞の意味上の主語]

His mother is always complaining about () lazy.

- | | |
|--------------|--------------|
| ア. he is | イ. he being |
| ウ. his being | エ. him to be |

「彼の母は、彼が怠け者であることについてい

つも不満を述べている」

【例】動詞 complain は、complain about A の形で用いると「Aについて不満を述べる」という意味になる。about は前置詞なので、Aには名詞または動名詞(句)を用いる。

【例】動名詞の前に所有格または目的格の代名詞を置くと、動名詞の意味上の主語を表すことができる。

【例】したがって、正解はウ. his being.

動名詞の意味上の主語

(1) 意味上の主語が代名詞の場合

〈所有格+doing〉または〈目的格+doing〉
(主に口語体)が用いられる。

▷ We objected to his [him] joining the team.
「彼がチームに入ることに私たちは反対した」

(2) 意味上の主語が名詞で「人」の場合

〈所有格+doing〉または〈そのままの形+doing〉だが、後者の方がよく用いられる。

▷ I still remember your mother [your mother's] coming to see us.
「あなたのお母さんが私たちに会いに来たときのことを今でも覚えています」

(3) 意味上の主語が名詞で「もの・事柄」の場合 〈そのままの形+doing〉が用いられる。

▷ We are proud of our school having a long history.
「母校に長い歴史があることを我々は誇りに思っている」

File 2

(3) ★★☆ [make O done]

The room was so noisy that I could not ().

- ア. hear me
- イ. be heard me
- ウ. make myself hear
- エ. make myself heard

「その部屋はあまりにも騒々しかったので、私は自分の話を聞いてもらうことができなかった」

【例】目的語 O が主語 S と同一のものを指す場合には、O には再帰代名詞 oneself を用いなければならないので、アとイは不可。

動詞 make には、make O do 「O に(強制的に)…させる」という使い方があるが、make oneself hear では「自分自身を(強制的に)耳が聞こえるようにさせる」という不自然な意味になってしまうので、これは不可。動詞 make は、make O done の形で用いると「O が…されるようにする」という意味になる。この構文の O の部分に oneself 「自分自身」を、done の部分に hear O 「O(の話)が聞こえる」の過去分詞 heard を用い、make oneself heard とすると「自分の話が聞こえるようにする(=自分の話を聞いてもらう)」という意味になる。

したがって、正解はエ. make myself heard.

使役動詞 make の用法

(1) make O do 「O に…させる」

▷ I made my son do it at once.

「私は息子にすぐにそれをさせた」

・ my son と do it の間に「息子がそれをする」という能動関係がある。

(2) make O done 「O が…されるようにする」

▷ I made myself understood in English.

「英語で私が言ったことが通じた」

・ myself と understood の間に「私の言ったことが理解される」という受動関係がある。

※ただし、make O done は通例、make oneself understood 「自分の意志を伝える」、make oneself heard 「自分の話が聞こえるようにする」、make O known 「O を知らせる」などの慣用表現で用いている。

File 3

(4) ★★☆ [関係代名詞 what]

My grandfather gave me () looked like an old coin.

- | | |
|--------------|----------|
| ア. something | イ. that |
| ウ. what | エ. which |

「祖父は私に古いコインのように見えるものをくれた」

空所から an old coin までが、述語動詞 gave の目的語にあたる名詞節だと考えられる。また、looked like ... 「…のように見えた」には主語がないので、空所の部分がその主語の働きをしていると判断する。

節全体が文の中で「目的語」になっていて、空所

は節の中で「主語」の働きをしている。また、空所の前には先行詞となる名詞がないので、空所には先行詞を含む関係代名詞の what が入る。

したがって、正解はウ. what.

先行詞を含む関係代名詞 what

what は先行詞をその中に含んだ関係代名詞として用いられ、「…すること・もの」の意味を表す。what 節全体は文の中で「主語」・「目的語」・「補語」・「前置詞の目的語」になり、what は節の中で「主語」・「目的語」などの働きをする。

▷ What surprised me was his cold attitude.

S V O

[what surprised me は文の主語]

「私を驚かせたのは彼の冷淡な態度だった」

▷ You can do what you want.

O S V

[what you want は動詞 do の目的語]

「あなたは好きなことをしてよいです」

▷ This is what she needs.

O S V

[what she needs は文の補語]

「これは彼女が必要としているものです」

▷ She was surprised at what he said.

O S V

[what he said は前置詞 at の目的語]

「彼の言ったことに彼女は驚いた」

※接続詞 that が名詞節を導く場合、節内には完全文(文を構成する要素が欠けていない文)がくる。

▷ That he likes cooking is known to

S V O

everybody.

[That he likes cooking は文の主語]

「彼が料理好きなのは皆に知られている」

File 4

(5) ★★☆ [比較級を強める表現]

This book is () easier than that one.

- | | |
|---------|---------|
| ア. as | イ. more |
| ウ. much | エ. very |

「この本は、あの本よりもずっと簡単だ」

空所の後ろには形容詞 easy の比較級 easier が続

いている。比較級の前に much を置くと「ずっと…」という強調の意味になる。

④ as, more, very は、いずれも比較級を強調することはできない。

⑤ したがって、正解はウ. **much**.

比較級を強める表現

(1) much / far / a lot 「はるかに / ずっと」

▷ You are **much** more tolerant than I am.
「あなたは私よりもずっと寛容ですね」

(2) even / still 「さらに / 一層」

▷ Your sister is **even** more charming than before.
「あなたの妹は以前にも増して魅力的ですね」

File 5

B

(1) ★★★ [be used to *doing*]

He had a good voice but was not used to sing in public, so he made some mistakes in the audition.

「彼はいい声をしていたが、人前で歌うこと慣れていなかったので、オーディションでいくつか失敗をした」

④ 「A に慣れている」という意味の be used to A では、A に名詞または動名詞(句)を用いる。そこで、sing in public を singing in public にする必要がある。

⑤ したがって、正解はイ → **singing**.

⑥ in public は「人前で」という表現。

used を含む表現

(1) **used to do** 「(以前は)…したものだった」

(過去の「習慣」、または「状態」を表す)

▷ He **used to drink** a lot of beer.

「彼は以前はビールをたくさん飲んだものだ」

▷ He **used to be** a boxer.

「彼は以前はボクサーだった」

(2) **be used to do** 「…するのに使われる」

(動詞 use の受動態に不定詞が続き、「…するのに使われる」という意味を表す)

▷ This pan is **used to cook** potatoes.

「この鍋はジャガイモを調理するのに使われる」

(3) **be used to A / be used to doing** 「A に慣れている / …することに慣れている」

▷ She **is used to** our ways of doing business.
「彼女は私たちのビジネスのやり方に慣れている」

▷ I'm **not used to operating** a bulldozer.
「私はブルドーザーの運転に慣れていない」

File 6

(2) ★★☆ [完了不定詞]

He seems to be rich when he was in his forties, but now he lives in a small house by himself.

「彼は40代だったときには裕福だったようだが、今は小さな家にひとりで暮らしている」

④ when he was ... 「彼が…だったとき」は過去を示す表現であり、現在形の述語動詞 seems よりも前の事柄だとわかる。述語動詞の表す時点より前の事柄を不定詞を使って表現する場合は完了不定詞 to have done を用いる。そこで、to be rich を to have been rich にする必要がある。

⑤ したがって、正解はア → **to have been**.

⑥ in one's forties は「40代で」、by oneself は「(自分)ひとりで」という表現。

完了不定詞

to have done の形をした不定詞を完了不定詞と呼ぶ。完了不定詞は文の述語動詞の表す時点より「前の事柄」を表す場合に用いられる。

▷ He is said to be single.

= It is said that he is single.

「彼は独身だそうだ」

• to be single は、is said 「言われている」と同じ時点の事柄を表す不定詞。

▷ He is said to have found the fact by accident.

= It is said that he found the fact by accident.

「彼はその事実を偶然に発見したと言われている」

• to have found the fact by accident は、is

said 「言われている」よりも前の時点の事柄を表す完了不定詞。

File 7

(3) ★★☆ [分詞形容詞]

My little brother had been looking forward to the trip, so he was disappointing when he got up to find it was raining.

「私の弟はその旅行をずっと楽しみにしていたので、朝起きて雨が降っていることに気づいたとき、がっかりした」

下線部ウの disappointing は「(人を)がっかりさせるような」という意味。旅行を楽しみにしていたのに朝になって雨が降っていることに気づいた弟が主語 he になっているので、disappointed 「(人が)がっかりしている」にする必要がある。

したがって、正解はウ → **disappointed**。

look forward to A は「A を楽しみにする」、get up to do は「朝起きて…する」という表現。

分詞形容詞

現在分詞・過去分詞の中には、完全な形容詞として用いられるものがある。分詞から派生したこれらの形容詞を分詞形容詞と呼ぶ。このような分詞形容詞で特に重要なのは、「(人を)…させる」という感情を表す他動詞から派生した分詞形容詞である。

1. 現在分詞から派生した分詞形容詞

他動詞「(人を)…させる」の意味から、現在分詞から派生した分詞形容詞は「(人を)…させるような」という意味になる。

2. 過去分詞から派生した分詞形容詞

他動詞の受け身「(人が)…させられる・させられている」の意味から、過去分詞から派生した分詞形容詞は「(人が)…している」という意味になる。

surprising と surprised

surprising news

「(人を)驚かせる知らせ」⇒「驚くべき知らせ、びっくりする知らせ」

a surprised person

「驚かされた人」⇒「驚いている人」

exciting と excited

▷ an exciting story

「(人を)興奮させる話」⇒「興奮するような話、わくわくする話」

▷ an excited audience

「興奮させられた観客たち」⇒「興奮している観客たち」

*分詞形容詞には他に以下のようなものがある。

amazing 「驚くべき」

amazed 「驚いている」

boring 「退屈な」

bored 「退屈している」

disappointing 「がっかりさせるような」

disappointed 「がっかりしている」

File 8

(4) ★★★ [前置詞+関係代名詞]

The man whom she introduced me was a famous pitcher, and he gave me a lesson on how to throw a fastball.

「彼女が私を紹介してくれた男性は有名な投手で、彼は私に速球の投げ方についてレッスンをしてくれた」

下線部アから introduced me までは、先行詞 The man を修飾する関係詞節だと考えることができる。

動詞 introduce は、第4文型 S V O₁ O₂ の形をとることができない。introduce O to A で「O を A に紹介する」という意味なので、「彼女が私をその男性に紹介した」であれば She introduced me to the man. となる。ここでは、この to the man を to whom に変えて関係詞節を作るのが正しい。そこで、The man whom S V ... を The man to whom S V ... にする必要がある。

したがって、正解はア → **to whom**。

「前置詞+関係代名詞」の用法

▷ Hanako is a girl **with whom** Taro went shopping yesterday.

「ハナコは昨日タロウが買い物に一緒に行つた女の子です」

・関係詞節のもととなる文 Taro went shopping with her (=the girl). の with her が with whom の形になり先行詞の後に置かれている。

▷ This is the house **in which** Fukuzawa Yukichi was born.
「ここが福沢諭吉が生まれた家です」
・関係詞節のもととなる文 Fukuzawa Yukichi was born in it (=the house). の in it が in which の形になり先行詞の後に置かれている。

File 9

(5) ★★☆ [until と by の区別]

Some researchers on global warming say that the temperature will have risen by at least two degrees until the end of the 21st century.

「地球温暖化の研究者には、21世紀末までには気温が少なくとも2度上昇しているだろうと言う者もいる」

Ⓐ 前置詞 until は、「継続の終了時」を表し、「…まで(ずっと)」という意味になる。前置詞 by を完了形の表現とともに用いると、「完了の期限」を表し、「…までに(は)」という意味になる。この文で until the end of the 21st century 「21世紀末まで(ずっと)」を用いても、will have risen by at least two degrees 「少なくとも2度上昇しているだろう」は継続的な動きを表さないので文として成立しない。until を by にすれば、「21世紀末」という期限までに起きるであろうことを述べた文になる。

Ⓑ したがって、正解は工 → by。

Ⓐ の on は「…に関する」という意味の前置詞。イの say の主語は、global warming ではなく、Some researchers (on global warming) なので、問題ない。ウの at least は「少なくとも」という表現で two degrees を修飾している。ここでは「差」を表す前置詞 by とともに用いられ、by at least two degrees で、「少なくとも2度」という気温の上昇幅を示している。

by と until [till] の用法

1. by

S V ... by A で「Aまでには」という意味を表し、finish / start / returnなどの持続的意味を持たない動詞とともに使う。

▷ I will finish the job **by** half past seven.

「7時半までにはその仕事を終わらせるつもりだ」

2. until / till

S V ... until [till] A で「Aまでずっと」という意味を表し、work / continue / stayなどの持続的意味を表す動詞とともに使う。

▷ We are going to stay here **until** Monday.

「私たちは月曜日までここに滞在する予定である」

File 10

4 英作文

【解答】

- A (1) I'm afraid [you don't know any of them].
(2) Will you [let me have another look at] the note?
(3) As she grew up, the [girl became more and more beautiful].
(4) Momoko [gave the matter a second thought at hearing] his opinion.
(5) [There is nothing like the pleasure we] get from a good book.
- B (1) I told my son to write a letter to me at least once a month, but he hasn't even called me.
(2) I was kept waiting for more than five hours at the airport because of heavy snow.
[別解]
I had to wait at the airport over five hours because it was snowing heavily.

【配点】(40点)

A 各4点×5 B 各10点×2

【設問別解説】

A

- (1) ★★☆ [not ... any]

あなたたちは彼らの誰とも知り合いでないですよね。

I'm afraid [don't / them / any / you / know / of].

Ⓑ 「…ではないですよね」は「(残念ながら)…ではな

いと思う」と考え、〈be afraid (that) + 否定文〉を用いて表すことができる。

④ 「あなたたちは彼らの誰とも知り合いではない」は not ... any of ~ 「～の誰も[何も]…ない」を用いて you don't know any of them で表せる。

⑤ したがって、正解は **I'm afraid you don't know any of them.**

(2) ★★☆ [let O do]

そのメモをもう1度見せていただけますか。

Will you [another / at / me / have / let / look] the note?

④ 「…させていただけますか」は let me do 「私に…させる」を用いて、Will you let me do ...? で表すことができる。

④ 「もう1度見る」は have a look at ... 「…を見る」を用いて have another look at ... で表すことができる。

⑤ したがって、正解は **Will you let me have another look at the note?**

(3) ★★☆ [比較級+and+比較級「ますます…」]

成長するにつれて、その少女はますます美しくなった。

As she grew up, the [more / more / beautiful / girl / and / became].

④ 「その少女は…になった」は the girl became ... で表すことができる。

④ 「ますます美しく」は〈比較級+and+比較級〉「ますます…」を用いて more and more beautiful で表せる。

⑤ したがって、正解は **As she grew up, the girl became more and more beautiful.**

比較級+and+比較級「ますます…」

形容詞〔副詞〕の比較級を and でつなげると「ますます…」の意味になる。語尾に er をつけて比較級をつくるものは〈原級-er + and + 原級-er〉、前に more を置いて比較級をつくるものは〈more and more + 原級〉の形で表す。

▷ Life is getting **harder and harder** these days.

「この頃はますます暮らしにくくなっている」

▷ It is becoming **more and more difficult** to

find jobs.

「仕事を見つけるのがますます難しくなっている」

File 11

(4) ★★★ [give ... a second thought]

彼の意見を聞いてモモコはその問題を考え直した。

Momoko [hearing / thought / gave / a second / at / the matter] his opinion.

④ 「その問題を考え直した」は give ... a second thought 「…を再考する」を用いて gave the matter a second thought で表すことができる。

④ 「彼の意見を聞いて」は at hearing ... 「…を聞いて」を用いて表すことができる。

⑤ したがって、正解は **Momoko gave the matter a second thought at hearing his opinion.**

(5) ★★★ [there is nothing like A]

良書から得られる楽しみに勝るものはない。

[like / nothing / we / there / the pleasure / is] get from a good book.

④ 「…に勝るものはない」は There is nothing like ... 「…に匹敵するものはない」を用いて表すことができる。

④ 「良書から得られる楽しみ」は、the pleasure 「楽しみ」の後ろに目的格の関係代名詞を省略した we get from a good book 「私たちが良書から得る」を置いて、the pleasure we get from a good book で表すことができる。

⑤ したがって、正解は **There is nothing like the pleasure we get from a good book.**

B

(1) ★★☆ 「[手紙を書く]」「[電話する]」の表現

月に1度は私に手紙を書くように息子に言ったのに、電話すらかけてきたことがない。(Iで始めて)

④ 「…するように息子に言った」は tell ~ to do 「～に…するように言う」を用いて I told my son to do で表す。「私に手紙を書く」は write a letter to me / write me a letter、または write to me で表す。「月に1度は」は「少なくとも1ヶ月につき1回は」

と考え, at least once a month で表せる。

〔B〕「…したのに, ~」は ... but ~ とすればよい。 「…すらしたことがない」は「(これまでに)…していない」と考え, 現在完了形を用いて he hasn't even done ... で表せる。「…に電話をする」は call ... / phone ..., または give [make] ... a callなどを用いる。

〔B〕したがって, *I told my son to write a letter to me at least once a month, but he hasn't even called me.* と訳せばよい。

(2) ★★★ 「待たされる」, 「…のため」の表現】

大雪のため, 空港で5時間以上待たされた。(I で始めて)

〔B〕「空港で待たされた」は keep ... waiting 「…を待

たせる」の受動態を用いて I was kept waiting at the airport で表せる。または「待たなければならなかつた」と考え I had to wait at the airport としてもよい。 「5時間以上」は (for) more than five hours あるいは (for) over five hours で表せる。

〔B〕「大雪のため」は because of ... 「…のせいで」を用いて because of (a) heavy snow で表せる。because of の代わりに owing to ... / due to ... / on account of ... を用いてもよい。また, because it was snowing [had been snowing] heavily 「雪が激しく降っていたので」とすることもできる。

〔B〕したがって, *I was kept waiting for more than five hours at the airport because of heavy snow.* あるいは *I had to wait at the airport over five hours because it was snowing heavily.* と訳せばよい。

5 総合問題

【解答】

- 問1 人々は, 1日あたり平均しておよそ4, 5時間をテレビを見て過ごしている。
問2 テレビが攻撃性を増大させることがあるということ。(24字)
問3 ア
問4 ウ
問5 したがって, これらの研究の結果がくい違う理由の1つは, それらの中で用いられる方法となんらかの関係があるのかもしれない。
問6 ア
問7 イ, ウ, キ(順不同)

【要旨】

テレビが普及して以来, テレビの暴力場面が視聴者に影響を及ぼすか否かの研究がなされているが, 決定的な証拠を示すものはほとんどない。その理由としては, その研究があくまでも実験室で行われているものであり, 人々がある行為を模倣するのは, 模倣することで得られる実益のためだという点を無視しているからである。もう1つの理由としては, そうした研究は集団への影響を重視しすぎて, 個人への影響を無視しているからである。

【配点】(60点)

問1 10点 問2 10点 問3 5点 問4 5点 問5 10点 問6 5点 問7 各5点×3

【出典】

Teach Yourself—Psychology, Nicky Hayes (原文を一部改変しています)

【本文解説】

【第1段落】

①In Western society, watching television is a very large part of our relaxation activities.
②Over 98 percent of homes in Britain have televisions, and over half have more than one television set. ③People spend on average about four or five hours a day watching television.
④This makes it a significant cultural activity.
⑤But ever since television became popular, people have been concerned about it. ⑥So

①西洋社会では, テレビを見ることは息抜きの非常に大きな部分である。 ②イギリスの98パーセントを超える世帯にテレビがあり, 半数を超える世帯に複数のテレビがある。 ③人々は, 1日あたり平均しておよそ4, 5時間をテレビを見て過ごしている。 ④これによってテレビを見ることが重要な文化活動になっている。 ⑤しかし, テレビが普及して以来ずっと, 人々はテレビに対して不安を感じている。 ⑥したがって, 心理学者はかねてから

psychologists have been studying its effects for some time.

テレビの影響を研究している。

- Western 「西洋の」 · part 「部分, 一部」 · relaxation activity 「息抜き, 娯楽」 · over ... 「…を超える」
- home 「世帯, 家庭」 · Britain 「イギリス」 · more than one A(可算名詞の単数形) 「複数の A」
- television set 「テレビ(受像機)」 · spend O doing 「O を…して過ごす」 · on average 「平均して」
- make O C 「O を C にする」 · significant 「重要な」 · cultural 「文化的な」
- ever since S V ... 「…してからずっと」 · popular 「普及している, 人気のある」
- be concerned about A 「A を心配している, A を不安に思う」 · psychologist 「心理学者」
- effect 「影響, 効果」

① watching television は動名詞句で is の主語。

③ 【設問別解説】 問 1 参照。

④ 1. This は前文の内容を指している。

2. it は前文の watching television を指している。

[第 2 段落]

⑦ One debate, of course, is whether or not television increases aggression. ⑧ Most psychologists firmly believe that it can do so. ⑨ However, it is difficult to find clear evidence. ⑩ That is because there are so many other things which also influence people's lives and can make people more aggressive.

⑦もちろん、1つの議論はテレビが攻撃性を増大させるかどうかである。 ⑧大部分の心理学者がそれはありうると固く信じている。 ⑨しかしながら、明らかな証拠を見つけるのは困難である。 ⑩なぜかというと、人々の生活に影響を与えて、人々をより攻撃的にする可能性のあるものごとが他にも数多く存在するからである。

- debate 「議論」 · whether or not S V ... 「…かどうか」 · increase O 「O を増す」
- aggression 「攻撃性」 · firmly 「固く」 · evidence 「証拠」
- that is because S V ... 「それは…だからだ」 · influence O 「O に影響を及ぼす」
- aggressive 「攻撃的な」

⑦ whether or ... increases aggression は名詞節で is の補語。

⑧ 【設問別解説】 問 2 参照。

⑨ it は形式主語で、to find clear evidence が真主語。

⑩ 1. which also ... more aggressive は関係詞節 (which は主格の関係代名詞) で、先行詞は so many other things。

2. influence people's lives と can make people more aggressive が and によって結ばれている。

[第 3 段落]

⑪ The earliest studies of television's influence on aggressive behavior were laboratory experiments. ⑫ These were designed to measure a sudden change in people's behavior when they were shown aggressive images on television. ⑬ Typically, research participants would be shown a piece of film which showed distinctively violent behavior, and then they would be observed to see whether they copied that behavior, or showed increased aggression after they had watched the aggressive images. ⑭ These studies did show some modeling effects,

⑪攻撃的な行動へのテレビの影響に関する最も初期の研究は研究室での実験であった。 ⑫これらの実験は、テレビの暴力的な映像を見せられた時、人々がとる行動の急な変化を測定するよう意図されたものであった。 ⑬一般的には、実験の参加者は、著しく暴力的な行動を映した一篇の映像を見せられ、それからその暴力的な映像を見た後で、そのような行動を模倣するか、また、攻撃性の増大を示すかどうかを調べるために観察された。 ⑭これらの研究は、たしかにある程度のモデリング効果を示した。とはいっても、それは一部の人々が予想したほどはっきりとはなかったし、また、他の研究の

although not as strongly as some people expected them to, and some other studies failed to find the same results.

中には同じ結果を示さないものもあった。

- A's influence on B 「A が B に与える影響」 • laboratory 「実験室, 研究室」 • experiment 「実験」
- be designed to do 「…するよう意図されている」 • measure O 「O を測定する」
- sudden 「突然の, 急な」 • behavior 「行動」 • image 「映像」 • typically 「一般的に, 概して」
- research participant 「実験の参加者」 • a piece of film 「一篇の映像」
- distinctively 「はっきりと, 著しく」 • observe O 「O を観察する」
- see whether S V ... 「…かどうか調べる」 • copy O 「O を模倣する」 • increased A 「増大した A」
- modeling effect 「モデリング効果(他者の行動を観察し, それをモデルとして学ぶこと)」
- expect O to do 「O が…すると予想する」 • fail to do 「…できない」

- ⑫ when they ... on television は形容詞節で a sudden change in people's behavior を修飾している。
- ⑬ 1. which showed ... violent behavior は関係詞節 (which は主格の関係代名詞) で, 先行詞は a piece of film。
2. to see ... aggressive images は「目的」を表す副詞用法の不定詞句。
3. whether they ... aggressive images は名詞節で see の目的語。
4. copied that behavior と showed increased aggression が or によって結ばれている。
5. after they ... aggressive images は「時」を表す副詞節。
- ⑭ 1. did show の did は動詞の肯定の意味を強調している。
2. although not ... them to については 【設問別解説】問3 参照。

【第4段落】

⑮ But these laboratory studies were really very artificial. ⑯ Even if people are influenced by violence on television, it is unlikely to show up immediately. ⑰ Rather, as a scientist has shown in his studies of modeling effects, we are not likely to show the aggressive behavior until we think it is worthwhile or appropriate for us to do so. ⑯ So one reason why the results of these studies disagree may have something to do with the methods used in them.

⑮しかし, このような研究室での研究は実際にはずいぶん人為的なものであった。⑯たとえ人々がテレビの画面上の暴力に影響を受けるとしても, その影響がすぐに現れる可能性は低い。⑰むしろ, ある学者が, モデリング効果に関する研究で示したように, 攻撃的な行動を示すことが, 私たちにとって価値があり, 適切だと思うようになって初めて, 私たちがそれを示す可能性が高まるのだ。⑯したがって, これらの研究の結果がくい違う理由の1つは, それらの中で用いられる方法となんらかの関係があるのかもしれない。

- artificial 「人為的な, 不自然な」 • even if S V ... 「たとえ…だとしても」
- be unlikely to do 「…する可能性が低い」 • show up 「現れる, 出現する」 • immediately 「すぐに」
- rather 「むしろ」 • be likely to do 「…する可能性が高い」 • worthwhile 「価値がある」
- appropriate 「適切な」 • disagree 「くい違う, 意見が合わない」
- have something to do with A 「A となんらかの関係がある」 • method 「方法」

- ⑯ 1. Even if ... on television は「譲歩」を表す副詞節。
2. it is ... up immediately については 【設問別解説】問4 参照。
- ⑰ 1. as は目的格の関係代名詞で, 主節の内容を指している。as S V ... で「…するように」の意味。
2. until we ... do so は「時」を表す副詞節。not ~ until S V ... で「…するまで~ない/…して初めて~する」の意味。
3. it は形式主語で, to do so が真主語。
- ⑱ 【設問別解説】問5 参照。

[第5段落]

⑯Another problem with these studies is that they tend to look for group influences, rather than for specific effects on individuals. ⑰They study a large number of people and see whether, on the whole, their behavior seems to be influenced by the type of programs that they watch. ⑱By studying people as a whole, they aim to remove individual differences and just look at general trends. ⑲But when it comes to something as important as this, it is individuals who matter. ⑳We must not allow even one extremely mentally-troubled person out of six million viewers to copy a television murderer.

- tend to do 「…する傾向がある, …しがちである」
- ... rather than ~ 「～よりもむしろ…」
- a large number of A 「多数の A」
- seem to do 「…するようだ」
- aim to do 「…しようとする, …することを目指す」
- general 「一般的な」
- matter 「重要である」
- mentally-troubled 「精神的に錯乱した」
- murderer 「殺人犯」
- look for A 「A に目を向ける, A を探す」
- specific 「特定の」
- on the whole 「全体的に, 概して」
- by doing 「…することによって」
- when it comes to A 「A ということになると」
- allow O to do 「O が…することを許す」
- out of A 「A のうちで」
- as a whole 「全体として」
- remove O 「O を取り除く」
- extremely 「きわめて」
- viewer 「視聴者」

⑯このような研究の別の問題点は、個人に対する特定の影響よりもむしろ、集団への影響にそれらが目を向ける傾向があるということだ。 ⑰それは多数の人々を研究し、全体的に、視聴する番組の種類によって、人々の行動が影響を受けていそうかどうかを調べるものだ。 ⑱人々を全体として研究することによって、それらの研究は個人差を取り除き、一般的な傾向だけに目を向けようとしている。 ⑲しかし、これほど大切なこととなると、重要なのは個人である。 ⑳私たちは、600万人の視聴者の中のたった1人であっても、きわめて精神的に錯乱した人がテレビの殺人犯を模倣することを許してはならないのだ。

- ⑯ that they ... on individuals は名詞節で、is の補語。
⑰ 1. study a ... of people と see whether ... they watch が and によって結ばれている。
2. whether, on ... they watch は名詞節で see の目的語。
3. that they watch は関係詞節 (that は目的格の関係代名詞) で、先行詞は programs.
⑱ remove individual differences と just look at general trends が and によって結ばれている。
⑲ it is individuals who matter は強調構文 (it is ~ who ... 「…なのは～だ」) で、individuals が強調されている。
⑳ We must ... television murderer については 【設問別解説】 問6 参照。

【設問別解説】

問1 ★★☆

下線部(1)People spend on average about four or five hours a day watching television. を和訳せよ。

Ⓐ spend O doing は「…して O(時間)を過ごす」の意味。O が about four or five hours a day 「1日あたりおよそ4, 5時間」になっている。on average は「平均して」という意味。

Ⓑ したがって、下線部全体は「人々は、1日あたり平均しておよそ4, 5時間をテレビを見て過ごしている」と訳せばよい。

問2 ★★★

下線部(2)it can do so の内容を it と do so の内容を明らかにして、句読点も含め25字以内の日本語で説明せよ。

Ⓐ 下線部(2)を含む文全体は「大部分の心理学者がそれはありうると固く信じている」という意味。下線部(2)の前の文は「もちろん、1つの議論はテレビが攻撃性を増大させるかどうかである」という意味。

Ⓑ it は television の言い換えであり、do so が increase aggression の代用表現であると考えられるので、it can do so の具体的な内容は television can increase aggression となる。

〔B〕したがって、解答は「テレビが攻撃性を増大させることがあるということ。」(24字)とすればよい。

問3 ★★☆

下線部(3)although not as strongly as some people expected them to の内容として、最も適当なものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えよ。

- ア. 一部の人々が予想したほどには、これらの研究はその効果を強く示さなかったが
- イ. 一部の研究が予想したほどには、これらの効果はその研究を強く支持しなかったが
- ウ. 一部の人々が予想したほどには、人々はその効果を強く支持しなかったが
- エ. 一部の効果が予想したほどには、人々はこれらの研究を強く示さなかったが

〔B〕接続詞 although のあとに主語や動詞が省略されているのは、直前の主語や動詞の繰り返しを避けたものだと考えられる。下線部(3)の直前に These studies did show some modeling effects とあるので、省略された部分を補うと although these studies did not show some modeling effects as strongly as ... となり、その意味は「…ほどこれらの研究はその効果を強く示さなかっただけども」となる。

〔B〕expect them to は expect O to do 「O が…すると予想する」のかたちから、to 以下が省略されているのは直前の動詞の繰り返しを避けたものだと考える。them は直前の複数名詞の言い換えと考えられるので、some people 以下は expected these studies to show some modeling effects 「これらの研究がある程度のモデリング効果を示すと予想した」と考えよ。

〔B〕以上から、下線部全体の内容は「一部の人々が、これらの研究がいくらかのモデリング効果を示すと予想したほどには、これらの研究はその効果を強く示さなかっただけども」となる。

〔B〕したがって、正解はア。

問4 ★☆☆

下線部(4)it is unlikely to show up immediately の意味に最も近いものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

- ア. the influence of the study is unlikely to appear at once
- イ. television is unlikely to influence the study results

ウ. the influence of television is unlikely to appear at once

エ. the study is unlikely to influence violence on television

〔B〕選択肢の意味は以下のとおり。

- ア. 研究の影響がすぐに現れる可能性は低いだろう。
- イ. テレビが研究結果に影響を及ぼす可能性は低いだろう。
- ウ. テレビの影響がすぐに現れる可能性は低いだろう。
- エ. その研究がテレビの画面上の暴力に影響を及ぼす可能性は低いだろう。

〔B〕下線部(4)は「それがすぐに現れる可能性は低い」という意味。下線部(4)の前には「たとえ人々がテレビの画面上の暴力に影響を受けるとしても」とあるので、「すぐに現れる可能性が低い」ものである it とは、前出内容である「人々に対してテレビの暴力的な場面が与える影響」だと考えられる。it を簡潔に言い換えれば the influence of television となる。

〔B〕show up は「現れる」の意味、また immediately は「すぐに」の意味でそれぞれ appear, at once に言い換えることができる。

〔B〕したがって、正解はウ。

問5 ★★★

下線部(5)So one reason why the results of these studies disagree may have something to do with the methods used in them. を和訳せよ。

〔B〕主語は one reason で、why the results of these studies disagree は one reason を先行詞とする関係詞節。one reason ... studies disagree までは「これらの研究の結果がくい違う理由の1つ」という意味になる。

〔B〕have something to do with A で「A となんらかの関係がある」という意味。used in them は the methods を修飾する過去分詞句。the methods used in them で「それにおいて用いられる方法」の意味。them は these studies を指している。

〔B〕したがって、下線部全体は「したがって、これらの研究の結果がくい違う理由の1つは、それの中で用いられる方法となんらかの関係があるのかもしれない」と訳せばよい。

問6 ★★☆

下線部(6)の主張に最も近い内容を述べたものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. Such extreme case should be worth studying.
イ. Such extreme case should be ignored.
ウ. Such extreme case can be regarded as an exception.
エ. Such extreme case would be the least important.

Ⓐ 選択肢の意味は以下のとおり。

- ア. そのような極端な事例は研究する価値があるはずだ。
イ. そのような極端な事例は無視すべきだ。
ウ. そのような極端な事例は例外とみなすことができる。
エ. そのような極端な事例は最も重要性が低いだろう。

Ⓑ 下線部(6)を含む文全体は「私たちは、600万人の視聴者の中のたった1人であっても、極めて精神的に錯乱した人がテレビの殺人犯を模倣することを許してはならないのだ」という意味。

Ⓒ 第5段落⑯～⑰文では、これらの研究の問題点として、「個人への影響よりもむしろ集団への影響に目が向けられていること」が挙げられている。筆者が下線部(6)の直前の⑰文で「これほど大切なことになると、重要なのは個人である」と述べていることをふまえると、下線部(6)の内容は「個人的で極端な事例であっても研究の対象とする意義がある」という主張だと考えられる。

Ⓓ したがって、正解はア。

問7 ★★☆

本文の内容と一致するものを、次のア～キの中から3つ選び、記号で答えよ。

ア. テレビが普及したので、人々は文化的な活動に興味を持ち始めた。
イ. 心理学者がテレビを研究し始めた理由は、テレビの影響に不安を感じている人々がいたからだ。
ウ. テレビの影響以外にも日常生活の中には暴力衝動を引き起こすような出来事が多い。
エ. テレビの暴力的な場面に関する初期の研究は人々の行動の変化を促すよう意図されたものであった。

オ. 実験の参加者がたずねられたのは、人間の暴力的な側面がテレビに反映されているかどうかであった。

カ. 暴力的な事件が起こって初めて、テレビの影響を研究することに価値や意義が生まれる。

キ. テレビの暴力場面の影響を探るには、集団よりも個人への影響を考えるべきである。

Ⓐ 正解はイ、ウ、キ。以下に各選択肢のポイントを示す。

ア. 第1段落④に「これによってテレビを見ることが重要な文化活動になっている」とあるが、テレビの普及と人々が文化的な活動に興味を持つことの因果関係を記述した部分はないので、不一致。

イ. 第1段落⑤・⑥に「しかし、テレビが普及して以来ずっと、人々はテレビに対して不安を感じている。したがって、心理学者はかねてからテレビの影響を研究している」とあるので、一致。

ウ. 第2段落⑩に「人々の生活に影響を与えて、人々をより攻撃的にする可能性のあるものごとが他にも数多く存在するからである」とあるので、一致。

エ. 第3段落⑪・⑫に「攻撃的な行動へのテレビの影響に関する最も初期の研究は研究室での実験であった。これらの実験は、テレビの暴力的な映像を見せられた時、人々がとる行動の急な変化を測定するよう意図されたものであった」とあり、「行動の変化を促すよう意図されたもの」ではない。したがって、不一致。

オ. 第3段落⑬に「実験の参加者は、著しく暴力的な行動を映した一篇の映像を見せられ、それからその暴力的な映像を見た後で、そのような行動を模倣するか、また、攻撃性の増大を示すかどうかを調べるために観察された」とあり、テレビに特定のものが反映されているかどうかについて「たずねられた」のではない。したがって、不一致。

カ. 第4段落⑯に「むしろ、ある学者が、モデリング効果に関する研究で示したように、攻撃的な行動を示すことが、私たちにとって価値があり、適切だと思うようになって初めて、私たちがそれを示す可能性が高まるのだ」とあるが、テレビの影響の研究に価値や意義が生まれるのがいつなのかという記述は本文にはない。よって、不一致。

キ. 第5段落⑯に「このような研究の別の問題点は、個人に対する特定の影響よりもむしろ、集団への影響にそれらが目を向ける傾向があるという

ことだ」とあり、さらに㉔に「しかし、これほど大切なこととなると、重要なのは個人である」とあるので、筆者の主張は「集団よりも個人への影響を考えるべきだ」と判断できる。したがって、一致。

6 総合問題

【解答】

A 問1 ウ 問2 ア 問3 エ
問4 イ 問5 エ
B オ, キ, ク(順不同)

【要旨】

世界中に約5億人の佛教徒がいるが、これまで佛教がいつ始まったのかはっきりとしていなかった。しかしながら、最近の研究者たちが行ったネパールの仏陀生誕の地と言われるルンビニ遺跡の発掘によって、仏陀が誕生した時期と初期の佛教寺院が建立された時期が紀元前6世紀にさかのぼるのではないかと考えられている。

【配点】(40点)

A 各5点×5 B 各5点×3

【出典】

Oldest Buddhist Shrine Holds Clues to Buddha's Birth, Elizabeth Landau (原文を一部改変しています)

【本文解説】

[第1段落]

①There are about 500 million Buddhists worldwide, but it's unclear exactly when in history this religion began. ②Buddha's life story spread first through oral tradition, and little physical evidence about Buddhism's early years has been found.

①世界中には約5億人の佛教徒がいるが、正確には歴史上いつこの宗教が始まったのか定かではない。②仏陀の生涯は初め口伝で広まつたので、佛教の創生期についての物理的証拠はほとんど発見されていなかった。

- ・million 「100万(の)」 ・Buddhist 「佛教徒」 ・worldwide 「世界中に」
- ・unclear 「定かではない、はっきりしていない」 ・exactly 「正確に」 ・religion 「宗教」
- ・Buddha 「仏陀、釈迦牟尼」 ・life story 「生涯」 ・spread 「広まる」 ・through A 「Aを通して」
- ・oral tradition 「言い伝え、口伝による伝承」 ・physical 「物理的な」 ・evidence 「証拠」
- ・Buddhism 「佛教」

① it は形式主語で、exactly when ... religion began が真主語。

[第2段落]

③Now, scientists for the first time have discovered archaeological evidence of when Buddha's life occurred. ④Excavations in Nepal date a Buddhist shrine located at what is said to be Buddha's birthplace to the sixth century B.C. ⑤The research, published in the journal *Antiquity*, describes the remains of a wooden structure about the same size and shape as a temple built at the same site in the third century B.C. ⑥Archaeologists also found a reason to think that a tree grew at the center of this ancient structure, lending support to the traditional story

③今や、科学者たちは仏陀の生涯がいつ始まったのかに関する考古学的証拠を初めて発見したのだ。④ネパールでの発掘によって、仏陀の生誕の地だと言わわれている場所に位置している仏堂の年代が紀元前6世紀だと定められた。⑤『アンティクイティ』誌で発表されたその調査では、紀元前3世紀に同じ場所で建立された寺院と同一の大きさと形をしていたある木造の建築物の遺跡のことが説明されている。⑥考古学者たちはまた、この古代の建築物の中心には1本の木が生えており、仏陀の母親が彼を出産したときに木の枝をつかんでいたという伝統的な話の裏づけにもなると考える根拠を

that Buddha's mother held onto a tree branch while giving birth to him. ⑦"This is one of those rare occasions when belief, tradition, archaeology and science actually come together," said Robin Coningham, professor at Durham University in the United Kingdom.

見出した。 ⑦「これは信仰と伝統と考古学と科学が実際に結びつくまれな場合のひとつなのです」とイギリスにあるダラム大学の教授であるロビン・カニンガムは言った。

- for the first time 「初めて」 · archaeological 「考古学的な」 · excavation 「発掘」
- date O to A 「O の年代を A と定める」 · shrine 「仏堂(仏教的な建造物)」
- (be) located at A 「A に位置している」 · be said to do 「…すると言われている」
- birthplace 「生誕の地」 · B.C. 「紀元前」 · publish O 「O を発表する」 · journal 「雑誌」
- describe O 「O を説明する」 · remain 「遺跡、遺構」 · wooden 「木造の」 · structure 「建築物」
- about the same A as B 「B とだいたい同一の A」 · shape 「形」 · temple 「寺院」 · site 「遺跡、場所」
- archaeologist 「考古学者」 · reason to do 「…する根拠」 · lend support to A 「A を裏づける」
- traditional 「従来の、伝統的な」 · hold onto A 「A をしっかりとつかむ」 · tree branch 「木の枝」
- while doing 「…している間に」 · give birth to A 「A を産む」 · rare 「まれな」 · occasion 「場合」
- belief 「信仰」 · archaeology 「考古学」 · come together 「結びつく」 · professor 「教授」
- the United Kingdom 「イギリス」

- ③ when Buddha's life occurred は名詞節で of の目的語。
④ 1. located at ... Buddha's birthplace は過去分詞句で a Buddhist shrine を修飾。
2. what is ... Buddha's birthplace は名詞節で at の目的語。
⑤ 1. published in the journal *Antiquity* は過去分詞による副詞句。
2. built at ... century B.C. は過去分詞句で a temple を修飾。
⑥ 1. that a ... to him は名詞節で think の目的語。
2. lending support ... to him は現在分詞による副詞句。
3. that Buddha's ... to him が the traditional story を補足的に説明している。
⑦ 1. when belief ... come together は関係副詞節 (when は関係副詞) で、先行詞は one of those rare occasions。
2. belief, tradition, archaeology, science が and によって結ばれている。

[第3段落]

⑧If this study is correct, Buddha's actual life probably overlapped with a generally recognized time period of 563-483 B.C. ⑨But lots of other date ranges for Buddha have been discussed—some scholars say 448 to 368 B.C., for instance. ⑩"We know the first of the shrines was built in the sixth century B.C., and this has added greatly to our understanding of Buddha's life story," Coningham said.

⑧もしこの研究が正しければ、仏陀の実際の生涯は紀元前563年から483年という一般に認められている時期とおそらく重なっていたのだ。 ⑨しかし、仏陀の生涯には他にもたくさんの年代が議論されている一例えば、紀元前448年から368年だと言う学者もいる。 ⑩「仏堂の最初のものが紀元前6世紀に建立されたことが私たちにはわかっており、このことが仏陀の生涯に関して理解するのに大いに役立っているのです」とカニンガムは言った。

- study 「研究」 · correct 「正しい」 · actual 「実際の」 · probably 「おそらく」
- overlap with A 「A と重なる」 · generally 「一般的に」 · recognized 「認められた」
- time period of A 「A という期間」 · date range 「生存していた年代」 · scholar 「学者」
- for instance 「例えば」 · add to A 「A を増やす」

- ⑩ the first ... century B.C. は、接続詞 that の省略された名詞節で know の目的語。

[第4段落]

⑪The Lumbini site in Nepal is one of the

⑪ネパールのルンビニ遺跡は仏陀の生涯と関わ

principal locations that are believed to be connected with Buddha's life. ⑫Lumbini is located between Nepal's border with India and the Siwalik Range of the Himalayas. ⑬Historical documents from Chinese travelers show that pilgrims made the journey to Lumbini for many centuries. ⑭The site was lost and stopped attracting pilgrims after the 15th century — no one knows why — but Lumbini was rediscovered in 1896. ⑮It was declared the birthplace of Buddha because of a sandstone post there, dating from the third century B.C. ⑯The writing on the post says that Emperor Ashoka visited this site of Buddha's birth.

- principal 「主要な」 • location 「場所」 • be believed to do 「…すると信じられている」
- be connected with A 「A と関わりがある」 • between A and B 「A と B の間に」
- border with A 「A との国境」 • historical 「歴史的な」 • document 「資料」 • pilgrim 「巡礼者」
- make the journey to A 「A まで旅をする」 • be lost 「消滅する, 失われる」
- stop doing 「…することをやめる」 • attract O 「O をひきつける」 • rediscover O 「O を再発見する」
- declare O C 「O を C だと明言する」 • sandstone 「砂岩」 • post 「柱」
- date from A 「A にさかのぼる, A から始まる」

⑪ that are ... Buddha's life は関係詞節(that は主格の関係代名詞)で, 先行詞は the principal locations。

⑫ Nepal's border with India と the Siwalik Range of the Himalayas が and によって結ばれている。

⑭ was lost と stopped attracting pilgrims が and によって結ばれている。

⑮ dating from the third century B.C. は a sandstone post there を補足的に説明している。

りがあると信じられている主要な場所のひとつである。 ⑫ルンビニはネパールとインドの国境とヒマラヤのシワリク山脈の間に位置している。 ⑬中国人旅行者たちから伝わる歴史的資料によると, 何世紀にもわたって巡礼者たちがルンビニまで旅をしたということである。 ⑭なぜかはわからないが, その地は15世紀以降には消滅し, 巡礼者たちをひきつけなくなった。しかし, 1896年にルンビニは再発見された。 ⑮紀元前3世紀にさかのぼる砂岩の柱がそこにあったために, ルンビニは仏陀の生誕の地であると明言された。 ⑯その柱には, 仏陀生誕の地であるこの地をアショーカ王が訪れたと書いてある。

【第5段落】

⑰Scholars say the more modern Maya Devi Temple at Lumbini, named after the mother of Buddha, was built on top of the foundations of more than one earlier temple or stupa, which is a dome-shaped Buddhist monument. ⑱“One of those older temples dates back to the third century B.C., from the time of Emperor Ashoka. ⑲But there's also evidence of the even earlier temple,” Coningham said. ⑳Beneath the remains of the Ashokan temple, archaeologists found a series of postholes where wooden posts had once been. ㉑The central, open portion of the most ancient temple probably had a tree, and also had never been covered by a roof.

⑰学者たちの言うところによれば, 仏陀の母親の名前にちなんで名づけられた, ルンビニにあるより新しい様式のマヤデビ寺院は, それ以前の複数の寺院やドーム型の仏教建造物である仏舎利塔の土台の上に建立されたということである。 ⑱「それらのより古い寺院のひとつはアショーカ王の時代の紀元前3世紀にまでさかのぼる。 ⑲しかし, さらにそれ以前に寺院が存在したという証拠もある」とカニンガムは言った。 ⑲考古学者たちは, かつて木柱があった一連の柱穴をアショーカ時代の寺院の遺跡の下に発見した。 ⑳最古の寺院の中央の広々とした区域にはおそらく1本の木があり, 屋根で覆われたことは一度もなかった。

- modern 「現代に近い, より新しい」 • name O after A 「A にちなんで O を名づける」
- on top of the foundations of A 「A の土台の上に」 • more than one A (名詞の単数形) 「複数の A」
- stupa 「仏舎利塔」 • dome-shaped 「ドーム型の」 • monument 「(記念)建造物」
- date back to A 「A にさかのぼる」 • beneath A 「A の下に」 • a series of A 「一連の A」
- posthole 「柱穴, 柱を差し込むための穴」 • open portion 「広々とした区域」 • cover O 「O を覆う」

・ roof 「屋根」

- ⑯ 1. the more ... Buddhist monument は、接続詞 that の省略された名詞節で say の目的語。
2. named after the mother of Buddha は過去分詞による副詞句で、Maya Devi Temple at Lumbini を補足的に説明している。
3. which is ... Buddhist monument は関係詞節(which は主格の関係代名詞)で、先行詞は(more than one) stupa。
- ⑰ where wooden posts had once been は関係詞節(where は関係副詞)で、先行詞は a series of postholes。

[第6段落]

㉑ To establish the dates of the earliest Buddhist shrine at Lumbini, Coningham and colleagues analyzed charcoal found within postholes, as well as sand. ㉒ Different techniques used on each of these materials pointed to the same conclusion of the sixth century B.C., but the postholes showed a range of about 800 to 545 B.C. ㉓ "If the postholes at Lumbini are characteristic of a tree shrine, religious activity could have started either during or shortly after the life of Buddha," the study's authors wrote.

㉔ ルンビニの最も初期の仏堂の年代を立証するために、カニンガムは同僚たちと砂土ばかりでなく柱穴の中で発見された木炭を分析した。㉕ これらの物質のそれぞれに対して用いられた異なる技術でも紀元前6世紀という同じ結論が示された。しかし、柱穴の年代は紀元前約800年から545年という範囲を示した。㉖ 「もしルンビニの柱穴が中央に樹木のある建造物の特徴ならば、宗教的な活動は仏陀の入滅以前、あるいはその後まもなくして始まったのだろう」とその研究の著者たちは書いた。

・ establish O 「O を立証する、O を確立する」 ・ colleague 「同僚」 ・ analyze O 「O を分析する」
・ charcoal 「木炭」 ・ within A 「A の中の」 ・ A as well as B 「B ばかりでなく A も」 ・ technique 「技術」
・ each of A 「A のそれぞれ」 ・ material 「材料」 ・ point to A 「A を指示す」 ・ conclusion 「結論」
・ a range of A 「A という範囲、期間」 ・ be characteristic of A 「A の特徴である」
・ religious activity 「宗教的な活動」 ・ either A or B 「A か B のどちらか一方」
・ shortly after A 「A の後まもなくして」

- ㉗ 1. To establish ... at Lumbini は「目的」を表す副詞用法の to不定詞句。

2. found within postholes は過去分詞句で charcoal を修飾。

- ㉘ used on each of these materials は過去分詞句で Different techniques を修飾。

- ㉙ 前置詞 during と after が or で結ばれており、the life of Buddha が共通の目的語になっている。

[第7段落]

㉚ Julia Shaw, archaeologist at University College London, applauded the research but said that other religious ceremonies existed at the same time as early Buddhism. ㉛ "It would be difficult to determine whether the tree shrine in question was built for the worship of Buddha or had some other religious significance," she said. ㉜ But Coningham said that it's unlikely that this earlier structure belonged to a spiritual tradition other than Buddhism, because of the "continuity" of the site between the sixth century B.C. and third century B.C. structures. ㉝ The Ashokan temple is clearly Buddhist, and the earlier shrine had the same characteristics. ㉞ "Often when sites of one religious activity are replaced by another, quite

㉟ ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの考古学者であるジュリア・ショウはその研究を賞賛する一方で、他の宗教的な儀式が初期の仏教と同じ時期に存在した、と言った。㉟ 「問題となっている、中央に樹木のある建造物が仏陀崇拝のために建立されたのか、それとも他のなんらかの宗教的意義をもっていたのかを決定するのは難しいだろう」と彼女は言った。㉟ しかし、紀元前6世紀と紀元前3世紀の建築物の遺跡がもつ「連続性」のために、この初期の建築物が仏教以外の宗教的伝統に属していた可能性は低い、とカニンガムは言った。㉟ アショーカ時代の寺院は明らかに仏教的なものであり、より古い方の仏堂も同じ特徴をもっていた。㉟ 「ある宗教活動の場が別の宗教活動の場に取って代わられるときには、しばしば非常に劇的な変化が

dramatic changes occur," Coningham said.
⑩"Moreover, before the sixth century B.C., the area where the site is was just cultivated land."

起こるものです」とカニンガムは言った。⑩「さらに、その遺跡がある地域は紀元前6世紀より前は単なる耕作地にすぎなかったのですから」

- applaud O 「O を賞賛する」
- religious ceremony 「宗教的な儀式」
- exist 「存在する」
- determine O 「O を決定する」
- whether ... or ~ 「…なのかそれとも～なのか」
- A in question 「問題となっている A」
- worship of A 「A の崇拜」
- significance 「意義、意味」
- it is unlikely that S V ... 「…する可能性が低い、…ことはありそうもない」
- belong to A 「A に属している」
- spiritual 「宗教的な、精神的な」
- other than A 「A 以外の」
- continuity 「連続性」
- characteristic 「特徴」
- replace O 「O に取って代わる」
- dramatic 「劇的な」
- cultivated land 「耕作地」

- ㉕ applauded the research と said that ... early Buddhism が but によって結ばれている。
- ㉖ 1. It は形式主語で、to determine ... religious significance が真の主語。
2. whether the ... religious significance は名詞節で determine の目的語。
3. was built ... of Buddha と had some other religious significance が or によって結ばれている。
- ㉗ sixth century B.C. と third century B.C. が and で結ばれており、ともに structures を修飾している。
- ㉙ another の後に religious activity が省略されている。
- ㉚ where the site is は関係詞節(where は関係副詞)で、先行詞は the area。

【設問別解説】

A

問1 ★★☆

In the journal *Antiquity*, an archaeologist ()
ア. thought of Buddha's life story as untrue and fictional.
イ. claimed he found a tree at the center of a Buddhist temple.
ウ. referred to a wooden structure about as large as a temple built in the third century B.C.
エ. expressed doubts about how Buddha's mother gave birth.

『アンティクイティ』誌で、ある考古学者は()
ア. 仏陀の生涯は事実ではなく作り話だと考えた。
イ. 仏教寺院の中央にあった木を発見したと主張した。
ウ. 紀元前3世紀に建築された寺院とほぼ同じ大きさの木造建築について言及した。
エ. どのようにして仏陀の母親が出産したかについて疑問を呈した。

⑤に『アンティクイティ』誌で発表されたその調査では、紀元前3世紀に同じ場所で建立された寺院と同一の大きさと形をしていたある木造の建築物の遺跡のことが説明されている」とある。したがって、正解はウ。

⑥には「考古学者たちはまた、この古代の建築物の中心には1本の木が生えており、仏陀の母親が彼を出産したときに木の枝をつかんでいたという伝統的な話の裏づけにもなると考える根拠を見出した」とあるが、木そのものを発見したと主張したわけではないので、イは不正解。ア、エの内容は本文中に述べられていない。

問2 ★★☆

Lumbini ()

ア. is the site pilgrims visited before the 15th century.
イ. was rediscovered in the 18th century.
ウ. is the site where Buddha was born in the third century B.C.
エ. was discovered in the sixth century B.C.

ルンビニは()

ア. 15世紀以前に巡礼者が訪れた遺跡である。
イ. 18世紀に再発見された。
ウ. 紀元前3世紀に仏陀が生まれた場所である。

エ. 紀元前 6 世紀に発見された。

Ⓑ 第 4 段落⑬, ⑭に「中国人旅行者たちから伝わる歴史的資料によると、何世紀にもわたって巡礼者たちがルンビニまで旅をしたということである。なぜかはわからないが、その地は15世紀以降には消滅し、巡礼者たちをひきつけなくなった。しかし、1896年にルンビニは再発見された」とあり、15世紀以前には巡礼者たちがルンビニを訪れていたことがわかる。したがって、正解はア。

Ⓑ 第 4 段落⑭中の「1896年」から、ルンビニが再発見されたのは19世紀だとわかるのでイは不正解。また、第 4 段落⑯には「紀元前 3 世紀にさかのぼる砂岩の柱がそこにあったために、ルンビニは仏陀の生誕の地であると明言された」とあるが、仏陀が生まれたのが紀元前 3 世紀だという記述はないのでウは不正解。

問 3 ★☆☆

According to the passage, it is said that Emperor Ashoka ()

- ア. built more than one temple in the third century B.C.
- イ. dated one of the temples back to the third century B.C.
- ウ. constructed lots of Buddhist monuments.
- エ. went to the place where Buddha was born.

本文によれば、アショーカ王は()と言わわれている。

- ア. 紀元前 3 世紀に複数の寺院を建築した
- イ. ひとつの寺院が建てられた年代を紀元前 3 世紀に特定した
- ウ. たくさんの仏教建造物を建立した
- エ. 仏陀の生誕の地を訪れた

Ⓑ 第 4 段落⑯に「その柱には、仏陀生誕の地であるこの地をアショーカ王が訪れたと書いてある」とある。他の選択肢の内容をアショーカ王が行ったという具体的な記述は本文にはない。したがって、正解はエ。

問 4 ★☆☆

Maya Devi Temple at Lumbini ()

- ア. was named by Buddha's mother.
- イ. was named after the mother of a

religious leader.

ウ. was named by a religious leader.

エ. was named before Buddha was born.

ルンビニのマヤデビ寺院は()

ア. 仏陀の母親に名づけられた。

イ. 宗教の指導者の母親の名前にちなんで名づけられた。

ウ. 宗教の指導者によって名づけられた。

エ. 仏陀が生まれる前に名づけられた。

Ⓑ 第 5 段落⑰に「仏陀の母親の名前にちなんで名づけられた、ルンビニにあるより新しい様式のマヤデビ寺院」とある。name O after A は「A にちなんで O を名づける」の意味。選択肢中の a religious leader 「宗教の指導者」とは仏陀のことだと判断できる。したがって、正解はイ。

問 5 ★★★

Coningham believes that ()

- ア. an earlier shrine in Lumbini didn't belong to a Buddhist tradition.
- イ. the earliest Buddhist shrine was built in the third century B.C.
- ウ. the Ashokan temple belonged to a spiritual tradition other than Buddhism.
- エ. an earlier Buddhist shrine in Lumbini was not related to another religion.

カニンガムは()と信じている。

- ア. ルンビニの初期の仏堂は仏教の伝統に属していなかった
- イ. 最も初期の仏堂は紀元前 3 世紀に建立された
- ウ. アショーカ時代の寺院は仏教以外の宗教的伝統に属していた
- エ. ルンビニの初期の仏堂は、他の宗教とは関係がなかった

Ⓑ 第 7 段落⑲に「紀元前 6 世紀と紀元前 3 世紀の建築物の遺跡がもつ『連続性』のために、この初期の建築物が仏教以外の宗教的伝統に属していた可能性は低い、とカニンガムは言った」とある。したがって、正解はエ。

Ⓑ また、第 3 段落⑩に「仏堂の最初のものが紀元前 6 世紀に建立されたことが私たちにはわかっている」とあるのでイは不正解。

B ★★☆

本文の内容と一致するものを、次のア～クの中から3つ選び、記号で答えよ。

- ア. There are as many as five hundred million Buddhists who live in Nepal today.
- イ. A lot of physical evidence about the origin of Buddhism has been found.
- ウ. A tree at the center of a shrine built in the third century B.C. is the very one Buddha's mother held to when she gave birth to him.
- エ. Nowadays all the archaeologists agree on when and where Buddha was born.
- オ. Coningham thinks there is evidence that a Buddhist temple was constructed before the time of Emperor Ashoka.
- カ. Researchers don't believe that the postholes at Lumbini are typical of a tree shrine.
- キ. Shaw and Coningham don't agree on whether or not the tree shrine in Lumbini was built in order to worship Buddha.
- ク. The temple built in the third century B.C. has a lot in common with the one in the sixth century B.C.

- ア. 今日ネパールで生活している仏教徒は5億人もいる。
- イ. 仏教の起源についての物理的証拠がたくさん発見されてきた。
- ウ. 紀元前3世紀に建立された仏堂の中央にある木は、仏陀の母親が出生時につかんだまさにその木である。
- エ. 今日では、すべての考古学者たちがいつ、どこで仏陀が生まれたかについて意見が一致している。
- オ. アショーカ王の時代よりも前に仏教寺院が建立されたという証拠があるとカニンガムは考へている。
- カ. ルンビニの柱穴は、中央に樹木のある建造物に特有のものではないと研究者たちは信じている。
- キ. ショーとカニンガムはルンビニの中央に樹木のある建造物が仏陀を崇拝するために建築されたのかどうかについて意見が一致していない。

ク. 紀元前3世紀に建立された寺院は、紀元前6世紀に建立された寺院と多くの共通点がある。

□ 正解はオ、キ、ク。以下に各選択肢のポイントを示す。

- ア. 第1段落①に「世界中には約5億人の仏教徒がいる」とある。よって、不一致。
- イ. 第1段落②に「仏陀の生涯は初め口伝で広まっていたので、仏教の創生期についての物理的証拠はほとんど発見されていなかった」とある。よって、不一致。
- ウ. 第2段落⑥に「考古学者たちはまた、この古代の建築物の中心には1本の木が生えており、仏陀の母親が彼を出産したときに木の枝をつかんでいたという伝統的な話の裏づけにもなると考える根拠を見出した」とあるが、同段落④⑤からこの遺跡が紀元前6世紀のものであるとわかる。またそこにある木が実際に仏陀の母がつかんだ木であるという記述はない。よって、不一致。
- エ. 第3段落⑧、⑨に「もしこの研究が正しければ、仏陀の実際の生涯は紀元前563年から483年という一般に認められている時期とおそらく重なっていたのだ。しかし、仏陀の生涯には他にもたくさんの年代が議論されている—例えば、紀元前448年から368年だと言う学者もいる」とあり、仏陀が生きた年代についてはさまざまな意見があることがわかる。よって、不一致。
- オ. 第5段落⑯、⑰に「『それらのより古い寺院のひとつはアショーカ王の時代の紀元前3世紀にまでさかのぼる。しかし、さらにそれ以前に寺院が存在したという証拠もある』とカニンガムは言った」とある。よって、一致。
- カ. 第6段落⑭に「『もしルンビニの柱穴が中央に樹木のある建造物の特徴ならば、宗教的な活動は仏陀の入滅以前、あるいはその後もなくして始まったのだろう』とその研究の著者たちは書いた」とあるが、研究者たちが信じていないという記述はない。よって、不一致。
- キ. 第7段落⑮にショーの発言として「問題となっている、中央に樹木のある建造物が仏陀崇拜のために建立されたのか、それとも他のなんらかの宗教的意義をもっていたのかを決定するのは難しいだろう」とあり、その後に続く⑯にカニンガムの見解として「しかし、紀元前6世紀と紀元前3世紀の建築物の遺跡がもつ『連続性』のために、この初期の建築物が仏教以外の宗教的伝統に属し

ていた可能性は低い、とカニンガムは言った」とある。これらの内容から2人の意見が一致していないことがわかる。よって、一致。

ク. 第7段落②から、紀元前3世紀に建てられた、明らかに仏教的なものである「アショーカ時代の寺院」が、紀元前6世紀に建てられた「より古い方の仏堂」と同じ特徴をもっていたことがわかる。よって、一致。

模試を受験された後の学習のために、自宅で「リスニング問題」の音声を聞くことができます。以下のKei-Netホームページをご参照ください。

<http://www.keinet.ne.jp/onsei.html>

※お聴きいただくには、Kei-Net会員の登録(無料)が必要です。

【数学】

解答の理解に役立つように、

右欄に

枠囲み

… 解答で用いた公式、



… 解答を読む上で参考になる式、考え方、式の変形、図

解答の途中に



… 解法の糸口

を載せてあります。

さらに、

ポイントチェック … 復習して、理解したことを定着させるための練習問題

があります。

1 【数学Ⅰ 小問集合】

次の□にあてはまる数または式を求めよ。ただし、□ケ、□コ、□サは、選択肢①～⑥の中から1つずつ選び、その番号で答えよ。同じ番号を繰り返し選んでもよい。

(1) $(a+2b-c)^2$ を展開すると、

ア

である。

(2) $2b^2 - b - 6$ を因数分解すると、

イ

であり、 $2a^2 - (4b-1)a + 2b^2 - b - 6$ を因数分解すると、

ウ

である。

(3) $x = \frac{1}{\sqrt{2} + \sqrt{3}}$, $y = \frac{1}{\sqrt{2} - \sqrt{3}}$ のとき、

$$x+y = \text{□工}, \quad x^2+y^2 = \text{□オ}$$

である。

(4) 不等式

$$3 + \frac{1}{5}(n-3) > \frac{1}{3}n$$

を満たす最大の自然数nは、

カ

である。

(5) 等式

$$(\sqrt{2}a + \sqrt{3})(\sqrt{2} + \sqrt{3}b) = 5b + 5\sqrt{6}$$

を満たす正の有理数 a, b は,

$$a = \boxed{\text{キ}}, \quad b = \boxed{\text{ク}}$$

である。ただし、 $\sqrt{2}, \sqrt{3}, \sqrt{6}$ は、無理数である。

(6) 実数 x に対して、2つの条件 p, q を、

$$p: |x - 1| = 2, \quad q: x = 3$$

とするとき、

命題「 $p \Rightarrow q$ 」は、ケ。

命題「 $q \Rightarrow p$ 」は、コ。

したがって、

p は q であるためのサ。

(ケ, コ, サ の選択肢)

- ① 真である
- ② 偽である
- ③ 必要十分条件である
- ④ 必要条件であるが、十分条件ではない
- ⑤ 十分条件であるが、必要条件ではない
- ⑥ 必要条件でも十分条件でもない

● ● ○ 配点 (30点) ○ ○ ●

(1) 5点 (2) 5点 (3) 5点 (4) 5点 (5) 5点 (6) 5点

● ● ○ 問題のレベル ○ ○ ●

(1) から (6) まで、すべて基本から標準

解

答

(1) ア	$a^2 + 4b^2 + c^2 + 4ab - 4bc - 2ca$					
(2) イ	$(b - 2)(2b + 3)$			ウ	$(a - b + 2)(2a - 2b - 3)$	
(3) エ	$-2\sqrt{2}$	オ	10	カ	17	
(5) キ	2	ク	2	ケ	②	コ
					①	サ
						④

$$(1) \quad (a+2b-c)^2 = a^2 + (2b)^2 + (-c)^2 + 2 \cdot a \cdot 2b + 2 \cdot 2b \cdot (-c) + 2 \cdot (-c) \cdot a \\ = \boxed{a^2 + 4b^2 + c^2 + 4ab - 4bc - 2ca}. \quad \cdots \text{P}$$

$$(2) \quad 2b^2 - b - 6 = \boxed{(b-2)(2b+3)}. \quad \cdots \text{イ}$$

よって,

$$\begin{aligned} & 2a^2 - (4b-1)a + 2b^2 - b - 6 \\ &= 2a^2 - (4b-1)a + (b-2)(2b+3) \\ &= \{a-(b-2)\}\{2a-(2b+3)\} \\ &= \boxed{(a-b+2)(2a-2b-3)}. \quad \cdots \text{ウ} \end{aligned}$$

(3) x, y の分母を有理化すると,

$$\begin{aligned} x &= \frac{1}{\sqrt{2} + \sqrt{3}} \\ &= \frac{\sqrt{2} - \sqrt{3}}{(\sqrt{2} + \sqrt{3})(\sqrt{2} - \sqrt{3})} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= \frac{\sqrt{2} - \sqrt{3}}{(\sqrt{2})^2 - (\sqrt{3})^2} \\ &= \frac{\sqrt{2} - \sqrt{3}}{-1} \\ &= -\sqrt{2} + \sqrt{3}. \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} y &= \frac{1}{\sqrt{2} - \sqrt{3}} \\ &= \frac{\sqrt{2} + \sqrt{3}}{(\sqrt{2} - \sqrt{3})(\sqrt{2} + \sqrt{3})} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= \frac{\sqrt{2} + \sqrt{3}}{(\sqrt{2})^2 - (\sqrt{3})^2} \\ &= \frac{\sqrt{2} + \sqrt{3}}{-1} \\ &= -\sqrt{2} - \sqrt{3}. \end{aligned}$$

よって,

$$x+y = (-\sqrt{2} + \sqrt{3}) + (-\sqrt{2} - \sqrt{3}) \\ = \boxed{-2\sqrt{2}}. \quad \cdots \text{エ}$$

また,

$$\begin{aligned} xy &= (-\sqrt{2} + \sqrt{3})(-\sqrt{2} - \sqrt{3}) \\ &= (-\sqrt{2})^2 - (\sqrt{3})^2 \\ &= -1. \end{aligned}$$

◆ $(x+y+z)^2 = x^2 + y^2 + z^2 + 2xy + 2yz + 2zx.$

$$\begin{array}{r} 1 \\ 2 \\ \hline \end{array} \begin{array}{r} -2 \rightarrow -4 \\ 3 \rightarrow 3 \\ \hline -1 \end{array}$$

◆ $(2b+3)(b-2)$ でもよい.

$$\begin{array}{r} 1 \\ 2 \\ \hline \end{array} \begin{array}{r} -(b-2) \rightarrow -2b+4 \\ -(2b+3) \rightarrow -2b-3 \\ \hline -4b+1 \end{array}$$

◆ $(2a-2b-3)(a-b+2)$ でもよい.

◆ $(a+b)(a-b) = a^2 - b^2$ の公式を用いて、分母の有理化を行う。 $a > 0, b > 0, a \neq b$ のとき,

$$\begin{aligned} \frac{1}{\sqrt{a} + \sqrt{b}} &= \frac{\sqrt{a} - \sqrt{b}}{(\sqrt{a} + \sqrt{b})(\sqrt{a} - \sqrt{b})} \\ &= \frac{\sqrt{a} - \sqrt{b}}{a - b}, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{1}{\sqrt{a} - \sqrt{b}} &= \frac{\sqrt{a} + \sqrt{b}}{(\sqrt{a} - \sqrt{b})(\sqrt{a} + \sqrt{b})} \\ &= \frac{\sqrt{a} + \sqrt{b}}{a - b}. \end{aligned}$$

◆ $x+y = \frac{1}{\sqrt{2} + \sqrt{3}} + \frac{1}{\sqrt{2} - \sqrt{3}}$
 $= \frac{\sqrt{2} - \sqrt{3} + \sqrt{2} + \sqrt{3}}{(\sqrt{2} + \sqrt{3})(\sqrt{2} - \sqrt{3})}$
 $= \frac{2\sqrt{2}}{2-3}$
 $= -2\sqrt{2}$
 としてもよい.

◆ $xy = \frac{1}{\sqrt{2} + \sqrt{3}} \cdot \frac{1}{\sqrt{2} - \sqrt{3}}$
 $= \frac{1}{(\sqrt{2})^2 - (\sqrt{3})^2}$
 $= \frac{1}{-1}$
 $= -1$
 としてもよい.

したがって,

$$\begin{aligned}x^2 + y^2 &= (x+y)^2 - 2xy \\&= (-2\sqrt{2})^2 - 2 \cdot (-1) \\&= 8 + 2 \\&= \boxed{10}.\end{aligned}$$

…オ

(4) 不等式

$$3 + \frac{1}{5}(n-3) > \frac{1}{3}n$$

の両辺に 15 を掛けると,

$$45 + 3(n-3) > 5n.$$

$$45 + 3n - 9 > 5n.$$

$$3n + 36 > 5n.$$

$$-2n > -36.$$

$$n < 18.$$

これを満たす最大の自然数 n は, $\boxed{17}$.

…カ

(5) 等式

$$(\sqrt{2}a + \sqrt{3}b)(\sqrt{2} + \sqrt{3}b) = 5b + 5\sqrt{6}$$

より,

$$2a + \sqrt{6}ab + \sqrt{6} + 3b = 5b + 5\sqrt{6}.$$

$$(2a-2b) + (ab-4)\sqrt{6} = 0. \quad \cdots \textcircled{1}$$

a, b は有理数であるから, $2a-2b, ab-4$ はともに有理数であり, $\sqrt{6}$ は無理数である.

よって, (1) より,

$$\begin{cases} 2a-2b=0, \\ ab-4=0. \end{cases} \quad \cdots \textcircled{2} \quad \cdots \textcircled{3}$$

(2) より,

$$b=a. \quad \cdots \textcircled{4}$$

(4) を (3) に代入すると,

$$a^2 - 4 = 0.$$

$$a^2 = 4.$$

$a > 0$ より,

$$a = \boxed{2}. \quad \cdots \textcircled{5}$$

このとき, (4) より,

$$b = \boxed{2}. \quad \cdots \textcircled{6}$$

◆ x と y を入れ換えると元の式と変わらない式を x と y の対称式という.

x と y の対称式は, 基本対称式 $x+y, xy$ で表せる.

$$(x+y)^2 = x^2 + 2xy + y^2$$

より,

$$x^2 + y^2 = (x+y)^2 - 2xy.$$

◆ 両辺を -2 で割った.

—— 1次不等式の解 ——

a, b は実数で, $a \neq 0$ のとき,
 $ax > b$ の解は,

$$a > 0 \text{ のとき } x > \frac{b}{a},$$

$$a < 0 \text{ のとき } x < \frac{b}{a}.$$

◆ 与式を $p+q\sqrt{6}=0$ (p, q は有理数)の形に変形する.

p, q が有理数のとき,

$$p+q\sqrt{6}=0 \text{ ならば},$$

$$p=0, \text{かつ } q=0$$

が成り立つ.

【参考】

背理法を用いて、

「 p, q が有理数のとき、

$p+q\sqrt{6}=0$ ならば、 $p=0$, かつ $q=0$ が成り立つ」

ことを示すと、次の通りである。

(証明)

$q \neq 0$ と仮定する。

$p+q\sqrt{6}=0$ より、

$$q\sqrt{6} = -p.$$

$q \neq 0$ より、両辺を q で割ると、

$$\sqrt{6} = -\frac{p}{q} \quad \cdots (*)$$

となる。

p, q が有理数のとき $-\frac{p}{q}$ は有理数となるが、 $\sqrt{6}$ は無理数

であるから、等式 (*) は、矛盾する。

よって、 $q=0$ である。

このとき、 $p+0\cdot\sqrt{6}=0$ より、

$$p=0.$$

したがって、

$$p=q=0.$$

(証明終り)

(参考終り)

$$(6) \quad p : |x-1|=2, \quad q : x=3.$$

まず、

命題 「 $p \Rightarrow q$ 」

について考える。

条件 p を満たす x の値を求めるとき、 $|x-1|=2$ より、

$$x-1=2, -2.$$

$$x=3, -1.$$

$x=-1$ のとき、 $|x-1|=2$ は成り立つが、 $x=3$ は成り立たないから、

命題 「 $p \Rightarrow q$ 」 は、偽である。

よって、

命題 「 $p \Rightarrow q$ 」 は、②.

…ケ

次に、

命題 「 $q \Rightarrow p$ 」

について考える。

$x=3$ は、 $|x-1|=2$ を満たすから、

命題 「 $q \Rightarrow p$ 」 は、真である。

- ◆ 「命題が成り立たないと仮定して矛盾を導くことにより、もとの命題が真であることを示す方法」を背理法という。

- ◆ 整数 m と 0 でない整数 n を用いて分数 $\frac{m}{n}$ の形に表される数を有理数という。2つの有理数の和、差、積、商はつねに有理数である。

- ◆ 命題 $p \Rightarrow q$ が偽であることを示すには、「条件 p を満たすが、条件 q は満たさない」例を1つあげればよい。このような例を反例といいう。 $x=-1$ は(6)の命題 「 $p \Rightarrow q$ 」 の反例である。

よって、

命題「 $q \Rightarrow p$ 」は、①。 …コ

以上より、「 $q \Rightarrow p$ 」は真であるが、「 $p \Rightarrow q$ 」は偽であるから、 p は q であるための必要条件であるが、十分条件ではない。

したがって、

p は q であるための④。 …サ

- ◆ 2つの条件 p, q について、命題「 $p \Rightarrow q$ 」が真であるとき、 p は q であるための十分条件 q は p であるための必要条件という。

ポイントチェック

- (1) $(a+b-2c)^2$ を展開せよ。
- (2) $a^2 + (b+1)a - (b-2)(2b-1)$ を因数分解せよ。
- (3) $x = \sqrt{6} + \sqrt{2}$, $y = \sqrt{6} - \sqrt{2}$ のとき、 $x^2 + y^2$ の値を求めよ。
- (4) 不等式 $2 + \frac{n}{4} > \frac{n}{3}$ を満たす最大の自然数 n の値を求めよ。
- (5) 等式 $a - 2 + \sqrt{2} b = 3 - 2\sqrt{2}$ を満たす有理数 a, b の値を求めよ。ただし、 $\sqrt{2}$ は、無理数である。
- (6) 実数 x に対して、2つの条件 p, q を、

$$p : x = -2, \quad q : x^2 = 4$$

とするとき、以下のなかから正しいものを1つ選べ。

- ① p は q であるための必要十分条件である
- ② p は q であるための必要条件であるが、十分条件ではない
- ③ p は q であるための十分条件であるが、必要条件ではない
- ④ p は q であるための必要条件でも十分条件でもない

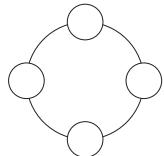
(答)

- (1) $a^2 + b^2 + 4c^2 + 2ab - 4bc - 4ca$.
- (2) $(a-b+2)(a+2b-1)$.
- (3) 16.
- (4) 23.
- (5) $a=5, b=-2$.
- (6) ③.

[2] 【数学A 場合の数／数学I 2次関数(2次関数の最大・最小)】

[1] 赤いボールが4個、青いボールが2個、白いボールが1個の合計7個のボールがある。ただし、同じ色のボールは区別しないものとする。

- (1) この7個のボールすべてを横一列に並べるとき、並べ方の総数を求めよ。
- (2) この7個のボールのうち4個だけを取り出して横一列に並べるとき、並べ方の総数を求めよ。
- (3) この7個のボールのうち4個だけを取り出して、右の図のように円形に配置するとき、配置の仕方の総数を求めよ。ただし、回転して重なる配置は、同じものとみなす。



[2] x の2次関数

$$f(x) = 2x^2 - 4ax + a^2 + 1 \quad (a \text{ は定数})$$

がある。

- (1) $a=2$ とする。
 - (i) $y=f(x)$ のグラフの頂点の座標を求めよ。
 - (ii) x の変域が $0 \leq x \leq 3$ のとき、 $f(x)$ の最大値と最小値を求めよ。
- (2) x の変域が $0 \leq x \leq 3$ のとき、 $f(x)$ の最大値を M とする。
 - (i) a の値で場合分けして、 M を求めよ。
 - (ii) $M=5$ となるような a の値をすべて求めよ。

● ● ○ 配点 (70点) ○ ○ ●

1 8点 (2) 12点 (3) 15点

[2](1)(i) 5点 (ii) 6点 (2)(i) 14点 (ii) 10点

● ● ○ 問題のレベル ○ ○ ●

1 基本 (2) 標準 (3) 応用

[2](1)(i) 基本 (ii) 基本 (2)(i) 標準 (ii) 応用

[1]

- (1) 7個のうち, 4個の同じもの(赤いボール), 別の2個の同じもの(青いボール)を含むものを横一列に並べるときの並べ方の総数は,

$$\frac{7!}{4!2!} = \frac{7 \cdot 6 \cdot 5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 1} = 105 \text{ (通り).} \quad \dots \text{(答)}$$

(2)

道しるべ

取り出した4個のボールの色の組合せを考える。

赤いボールを \textcircled{R} , 青いボールを \textcircled{B} , 白いボールを \textcircled{W} と表すことにする。

7個から4個を取り出したとき, 4個のボールの色の組合せは次のような6通りがある。

	組合せ
(ア)	{ \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{R} }
(イ)	{ \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{B} }
(ウ)	{ \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{W} }
(エ)	{ \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{B} \textcircled{B} }
(オ)	{ \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{B} \textcircled{W} }
(カ)	{ \textcircled{R} \textcircled{B} \textcircled{B} \textcircled{W} }

これらのそれぞれについて, 横一列に並べる並べ方を考える。

(ア) のとき, 並べ方は,

$$1 \text{ (通り).}$$

(イ) のとき, 4個のうち3個の同じものを含むものの並べ方であるから,

$$\frac{4!}{3!} = 4 \text{ (通り).}$$

(ウ) のとき, (イ) と同様に,

$$4 \text{ (通り).}$$

(エ) のとき, 4個のうち2個ずつの同じものを含むものの並べ方であるから,

$$\frac{4!}{2!2!} = 6 \text{ (通り).}$$

(オ) のとき, 4個のうち2個の同じものを含むものの並べ方であるから,

$$\frac{4!}{2!} = 12 \text{ (通り).}$$

(カ) のとき, (オ) と同様に,

同じものを含む順列

n 個のもののうち,
 p 個は同じもの,
 q 個は他の同じもの,
 r 個はさらに他の同じもの,

\vdots

$(p+q+r+\cdots=n)$
 であるときに, これら n 個のものを一列に並べる順列の総数は,

$$\frac{n!}{p!q!r!\cdots} \text{ (通り).}$$

$$(p+q+r+\cdots=n)$$

12 (通り).

以上から、求める並べ方は、

$$1 + 4 + 4 + 6 + 12 + 12 = 39 \text{ (通り).} \quad \cdots(\text{答})$$

(3)

道しるべ

(2) と同様にして、取り出した 4 個のボールの色の組合せを考え、それらを円形に並べる方法を考える。

7 個から 4 個を取り出したとき、4 個のボールの色の組合せは、(2)における(ア)~(カ)であり、これらのそれぞれについて、円形に並べる並べ方を考える。

(ア) のとき、円形に並べる並べ方は、

1 (通り).

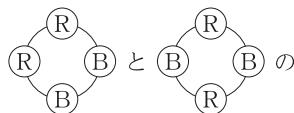
(イ) のとき、円形に並べる並べ方は、

1 (通り).

(ウ) のとき、円形に並べる並べ方は、

1 (通り).

(エ) のとき、2 個の \textcircled{R} と 2 個の \textcircled{B} の位置を考えると、



2 (通り).

(オ) のとき、 \textcircled{W} を固定して、残りの \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{B} を一列に並べると、3 個のうち 2 個の同じものを含むものの並べ方であるから、

$$\frac{3!}{2!} = 3 \text{ (通り).}$$

(カ) のとき、(オ) と同様に、

3 (通り).

以上から、求める並べ方は、

$$1 + 1 + 1 + 2 + 3 + 3 = 11 \text{ (通り).} \quad \cdots(\text{答})$$

ポイントチェック

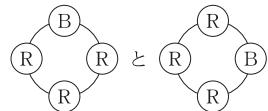
赤いボールが 3 個、青いボールが 2 個、白いボールが 1 個の合計 6 個のボールがある。ただし、同じ色のボールは区別しないものとする。

(1) この 6 個のボールすべてを横一列に並べるとき、並べ方の総数を求めよ。

(2) この 6 個のボールのうち 3 個だけを取り出して横一列に並べるとき、並べ方の総数を求めよ。

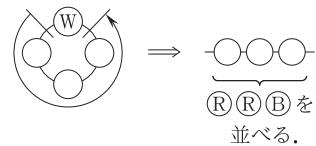
- ◆ (ア) : { \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{R} }
- (イ) : { \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{B} }
- (ウ) : { \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{W} }
- (エ) : { \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{B} \textcircled{B} }
- (オ) : { \textcircled{R} \textcircled{R} \textcircled{B} \textcircled{W} }
- (カ) : { \textcircled{R} \textcircled{B} \textcircled{B} \textcircled{W} }

- ◆ (イ) のとき、たとえば、



のように回転して重なるものは同じ並べ方である。

- ◆ (オ) のとき、



[2]

(1) $a=2$ のとき,

$$f(x) = 2x^2 - 8x + 5.$$

$$(i) \quad f(x) = 2x^2 - 8x + 5$$

$$= 2(x^2 - 4x) + 5$$

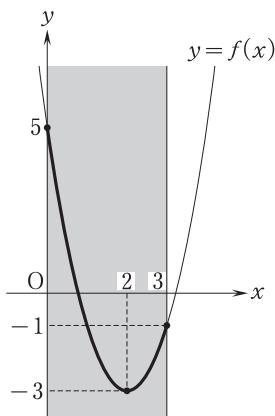
$$= 2\{(x-2)^2 - 4\} + 5$$

$$= 2(x-2)^2 - 3.$$

よって, $y=f(x)$ のグラフの頂点の座標は,

$$(2, -3). \quad \cdots (\text{答})$$

(ii) (i) より, $0 \leq x \leq 3$ における $y=f(x)$ のグラフは次の太線部分のようになる。



◆ 放物線

$$y = a(x-p)^2 + q$$

の頂点の座標は,

$$(p, q).$$

したがって, x の変域が $0 \leq x \leq 3$ のとき,

$$f(x) \text{ の最大値は } f(0) = 5, \quad \cdots (\text{答})$$

$$f(x) \text{ の最小値は } f(2) = -3. \quad \cdots (\text{答})$$

(2)(i)

道しるべ

$0 \leq x \leq 3$ の範囲の中央の値 $x = \frac{3}{2}$ に着目して,

M を a の値で場合分けして求める。

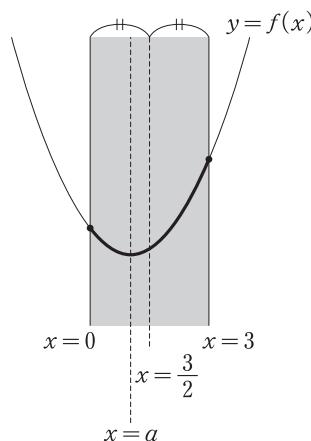
$$\begin{aligned} f(x) &= 2x^2 - 4ax + a^2 + 1 \\ &= 2(x^2 - 2ax) + a^2 + 1 \\ &= 2\{(x-a)^2 - a^2\} + a^2 + 1 \\ &= 2(x-a)^2 - a^2 + 1. \end{aligned}$$

よって, $y=f(x)$ のグラフは, 直線 $x=a$ を軸とする下に凸の放物線である。

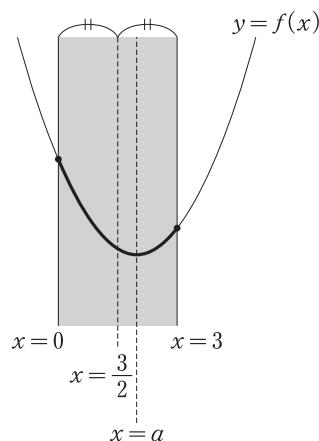
x の変域が $0 \leq x \leq 3$ のとき, $f(x)$ が最大値をとるのは区間の左端か右端に限られるから, $0 \leq x \leq 3$ の範囲の中央の値 $x = \frac{3}{2}$ に着目して, 次の図のように場合分けし

て考える。

(ア)

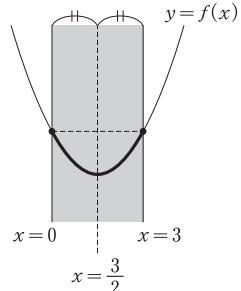


(イ)



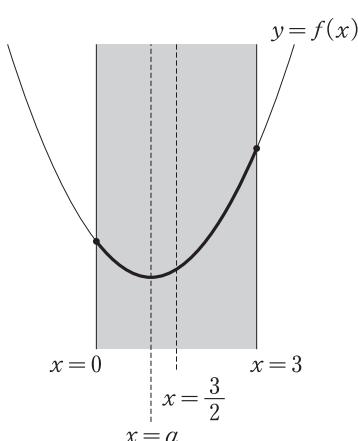
◆ $a = \frac{3}{2}$ のとき, $y = f(x)$ の

グラフは次のようになる。



この場合は, $x = 0, 3$ において $f(x)$ は最大となる。

(ア) $a < \frac{3}{2}$ のとき.



上の図より, $x = 3$ のとき $f(x)$ は最大となり, 最大値 M は,

$$M = f(3) = a^2 - 12a + 19.$$

◆ 場合分けは,

$$\begin{cases} (\text{ア}) & a \leq \frac{3}{2}, \\ (\text{イ}) & \frac{3}{2} < a, \end{cases}$$

または,

$$\begin{cases} (\text{ア}) & a \leq \frac{3}{2}, \\ (\text{イ}) & \frac{3}{2} \leq a \end{cases}$$

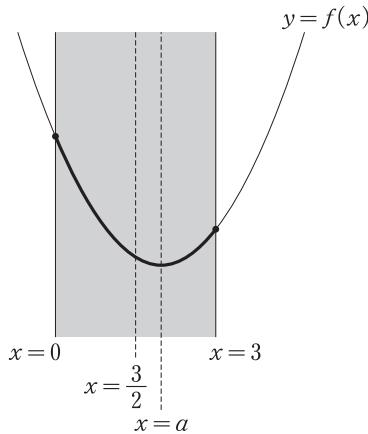
などでもよい。

◆ $f(x) = 2x^2 - 4ax + a^2 + 1$

より,

$$\begin{aligned} f(3) &= 2 \cdot 3^2 - 4a \cdot 3 + a^2 + 1 \\ &= a^2 - 12a + 19. \end{aligned}$$

(イ) $\frac{3}{2} \leq a$ のとき.



上の図より, $x=0$ のとき $f(x)$ は最大となり, 最大値 M は,

$$M = f(0) = a^2 + 1.$$

(ア), (イ) より, x の変域が $0 \leq x \leq 3$ のとき, $f(x)$ の最大値 M は,

$$M = \begin{cases} a^2 - 12a + 19 & \left(a < \frac{3}{2} \text{ のとき}\right), \\ a^2 + 1 & \left(\frac{3}{2} \leq a \text{ のとき}\right). \end{cases} \quad \cdots (\text{答})$$

(ii)

道しるべ

(i) の(ア), (イ)でそれぞれ求めた M の式より, 方程式 $M = 5$ を解く.

(ウ) $a < \frac{3}{2}$ のとき.

$$M = a^2 - 12a + 19$$

であるから, $M = 5$ のとき,

$$a^2 - 12a + 19 = 5.$$

$$a^2 - 12a + 14 = 0.$$

$$\begin{aligned} a &= \frac{-(-12) \pm \sqrt{(-12)^2 - 4 \cdot 1 \cdot 14}}{2 \cdot 1} \\ &= \frac{12 \pm \sqrt{88}}{2} \\ &= \frac{12 \pm 2\sqrt{22}}{2} \\ &= 6 \pm \sqrt{22}. \end{aligned}$$

$a < \frac{3}{2}$ より,

◆ $f(x) = 2x^2 - 4ax + a^2 + 1$
より,
 $f(0) = 2 \cdot 0^2 - 4a \cdot 0 + a^2 + 1$
 $= a^2 + 1.$

— 2 次方程式の解の公式 —

2 次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$
の解は,

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}.$$

$$a = 6 - \sqrt{22}.$$

(Ⅰ) $\frac{3}{2} \leq a$ のとき.

$$M = a^2 + 1$$

であるから, $M = 5$ のとき,

$$a^2 + 1 = 5.$$

$$a^2 = 4.$$

$$a = \pm 2.$$

$\frac{3}{2} \leq a$ より,

$$a = 2.$$

(Ⅱ), (Ⅰ) より, $M = 5$ となるときの a の値は,

$$a = 6 - \sqrt{22}, 2. \quad \dots(\text{答})$$

◆ $6 + \sqrt{22} > 6 > \frac{3}{2}$.

また,

$$4.5^2 (= 20.25) < 22 < 25$$

より,

$$4.5 < \sqrt{22} < 5.$$

$$-5 < -\sqrt{22} < -4.5.$$

各辺に 6 を加えて,

$$1 < 6 - \sqrt{22} < 1.5 = \frac{3}{2}.$$

よって, $a < \frac{3}{2}$ を満たすのは,

$$a = 6 - \sqrt{22}.$$

ポイントチェック

(1) x の変域が $0 \leq x \leq 3$ のとき,

$$f(x) = x^2 - 4x + 2$$

の最大値と最小値を求めよ.

(2) x の変域が $0 \leq x \leq 3$ のとき,

$$f(x) = x^2 - 2ax + 2a^2 + 1 \quad (a \text{ は定数})$$

の最大値を, a の値で場合分けして求めよ.

(答)

(1) 最大値 $f(0) = 2$.

最小値 $f(2) = -2$.

(2)
$$\begin{cases} 2a^2 - 6a + 10 & \left(a < \frac{3}{2} \text{ のとき}\right), \\ 2a^2 + 1 & \left(\frac{3}{2} \leq a \text{ のとき}\right). \end{cases}$$

3 【数学I 2次関数(2次方程式・2次不等式)】

x についての不等式

$$x^2 - 2x - 8 \leq 0 \quad \dots (*)$$

および、 x の2次関数

$$f(x) = x^2 - 2ax - 2a + 3 \quad (a \text{ は定数})$$

がある。

- (1) (*)を解け。
- (2) $y=f(x)$ のグラフが x 軸と共有点をもつような a の値の範囲を求めよ。
- (3) (2)のとき、 $y=f(x)$ のグラフと x 軸との共有点の x 座標のすべてが (*) の解に含まれるような a の値の範囲を求めよ。
- (4) (*)かつ $f(x) \leq 0$ を満たす x が存在しないような a の値の範囲を求めよ。

● ● ○ 配点(50点) ○ ○ ●

- (1) 8点 (2) 12点 (3) 15点 (4) 15点

● ● ○ 問題のレベル ○ ○ ●

- (1) 基本 (2) 標準 (3) 応用 (4) 発展

解 答

----- 2次不等式の解の求め方 -----

α, β は $\alpha < \beta$ を満たす定数とする。

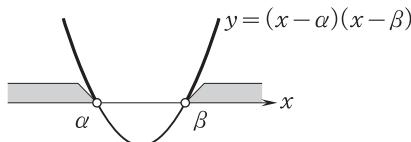
2次不等式

$$(x-\alpha)(x-\beta) > 0$$

を満たす x の範囲は、2次関数

$$y = (x-\alpha)(x-\beta)$$

のグラフで $y > 0$ となるような x の範囲である。



よって、

2次不等式 $(x-\alpha)(x-\beta) > 0$ の解は、
 $x < \alpha, \beta < x.$

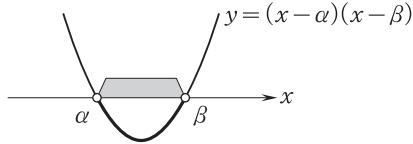
同様に、2次不等式

$$(x-\alpha)(x-\beta) < 0$$

を満たす x の範囲は、2次関数

$$y = (x-\alpha)(x-\beta)$$

のグラフで $y < 0$ となるような x の範囲である。



よって、

2次不等式 $(x - \alpha)(x - \beta) < 0$ の解は、
 $\alpha < x < \beta$.

$$(1) \quad x^2 - 2x - 8 \leq 0 \quad \dots (*)$$

より、

$$(x + 2)(x - 4) \leq 0.$$

よって、(*)の解は、

$$-2 \leq x \leq 4. \quad \dots (\text{答})$$

(2) 2次関数 $y = f(x)$ のグラフは下に凸であるから、 x 軸と共有点をもつ条件は、

$$(\text{頂点の } y \text{ 座標}) \leq 0$$

となることである。

$$\begin{aligned} y &= f(x) \\ &= x^2 - 2ax - 2a + 3 \\ &= (x - a)^2 - a^2 - 2a + 3 \end{aligned}$$

より、 $y = f(x)$ のグラフの頂点の y 座標は、

$$-a^2 - 2a + 3$$

であるから、求める条件は、

$$-a^2 - 2a + 3 \leq 0.$$

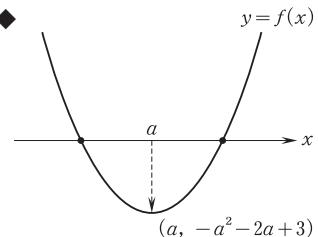
$$a^2 + 2a - 3 \geq 0.$$

$$(a + 3)(a - 1) \geq 0.$$

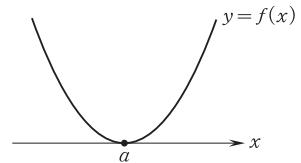
よって、求める a の値の範囲は、

$$a \leq -3, 1 \leq a. \quad \dots (\text{答})$$

- ◆ α, β が $\alpha < \beta$ を満たす定数のとき、2次不等式 $(x - \alpha)(x - \beta) \leq 0$ の解は、
 $\alpha \leq x \leq \beta$.



$y = f(x)$ のグラフは x 軸に接していてもよい。



【(2) の別解】

2 次関数 $y=f(x)$ のグラフと x 軸が共有点をもつとき、その x 座標は、 x の 2 次方程式 $f(x)=0$ の実数解である。

これより、2 次関数 $y=f(x)$ のグラフが x 軸と共有点をもつ条件は、

『 x の 2 次方程式 $f(x)=0$ 、すなわち、

$$x^2 - 2ax - 2a + 3 = 0 \quad \cdots (**)$$

が実数解をもつこと』

である。

よって、 $(**)$ の判別式を D とすると、 $D \geq 0$ となればよい。

ここで、

$$\begin{aligned} D &= (-2a)^2 - 4 \cdot 1 \cdot (-2a + 3) \\ &= 4a^2 + 8a - 12 \\ &= 4(a^2 + 2a - 3) \\ &= 4(a+3)(a-1) \end{aligned}$$

であるから、 $D \geq 0$ より、

$$(a+3)(a-1) \geq 0.$$

したがって、求める a の値の範囲は、

$$a \leq -3, 1 \leq a.$$

(2) の別解終り)

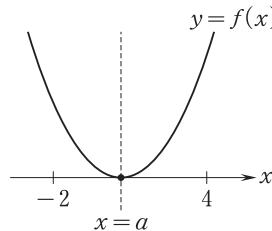
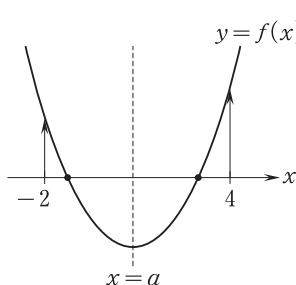
(3)

道しるべ

$y=f(x)$ のグラフが、 x 軸の $-2 \leq x \leq 4$ ($(*)$ の解) の部分と、「異なる 2 点で交わる」または「接する」ような条件を考える。

$y=f(x)$ のグラフと x 軸との共有点の x 座標のすべてが $-2 \leq x \leq 4$ の範囲に含まれるのは、 $y=f(x)$ のグラフが x 軸の $-2 \leq x \leq 4$ の部分と、「異なる 2 点で交わる」または「接する」ときである。

この条件を満たすのは、 $y=f(x)$ のグラフと x 軸の位置関係が次の図のようになるときである。



2 次方程式の解の判別

2 次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ の判別式を $D = b^2 - 4ac$ とするとき、次のことがいえる。

$D > 0 \Leftrightarrow$ 異なる 2 つの実数解をもつ。

$D = 0 \Leftrightarrow$ ただ 1 つの実数解 (重解) をもつ。

$D < 0 \Leftrightarrow$ 実数解をもたない。

◆ $\cdot D > 0$ のとき、



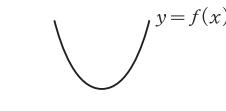
異なる 2 点で交わる。

・ $D = 0$ のとき、



接する。

・ $D < 0$ のとき、



共有点をもたない。

◆ (1) の結果より、 $(*)$ の解は、
 $-2 \leq x \leq 4$ 。

◆ $f(x) = (x-a)^2 - a^2 - 2a + 3$ より、 $y=f(x)$ のグラフの軸の方程式は、 $x=a$ である。

よって、次の(i)かつ(ii)かつ(iii)が成り立てばよい。

- (i) $y=f(x)$ のグラフが x 軸と共有点をもつ。
- (ii) $f(-2), f(4)$ の符号について,

$$f(-2) \geq 0, f(4) \geq 0.$$
- (iii) $y=f(x)$ のグラフの軸が $-2 \leq x \leq 4$ の範囲にある。

(i)のとき、

(2)の結果より、

$$a \leq -3, 1 \leq a. \quad \cdots \textcircled{1}$$

(ii)のとき、

$$f(-2) \geq 0, f(4) \geq 0.$$

$$\begin{aligned} f(-2) &= (-2)^2 - 2a(-2a) - 2a + 3 \\ &= 2a + 7 \end{aligned} \quad \blacklozenge \quad f(x) = x^2 - 2ax - 2a + 3.$$

より、 $f(-2) \geq 0$ を解くと、

$$2a + 7 \geq 0.$$

$$a \geq -\frac{7}{2}.$$

$$\begin{aligned} f(4) &= 4^2 - 2a \cdot 4 - 2a + 3 \\ &= -10a + 19 \end{aligned}$$

より、 $f(4) \geq 0$ を解くと、

$$-10a + 19 \geq 0.$$

$$a \leq \frac{19}{10}.$$

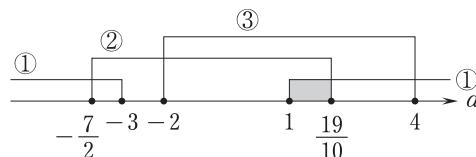
よって、 $f(-2) \geq 0$ かつ $f(4) \geq 0$ を満たす a の値の範囲は、

$$-\frac{7}{2} \leq a \leq \frac{19}{10}. \quad \cdots \textcircled{2}$$

(iii)のとき、

$y=f(x)$ のグラフの軸の方程式は $x=a$ であるから、

$$-2 \leq a \leq 4. \quad \cdots \textcircled{3}$$



①かつ②かつ③より、求める a の値の範囲は、

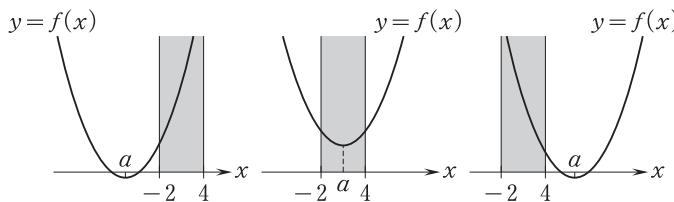
$$1 \leq a \leq \frac{19}{10}. \quad \cdots (\text{答})$$

(4)

道しるべ

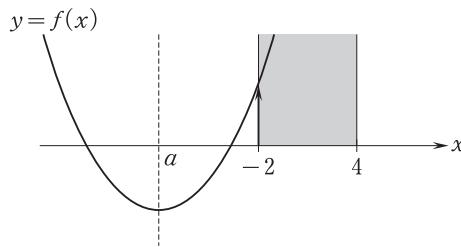
「(*) かつ $f(x) \leq 0$ 」すなわち 「 $-2 \leq x \leq 4$ かつ $f(x) \leq 0$ 」を満たす x が存在しないための条件は、
 $-2 \leq x \leq 4$ を満たすすべての x について,
 $f(x) > 0$
が成り立つことである。

$-2 \leq x \leq 4$ かつ $f(x) \leq 0$ を満たす x が存在しないための条件は、 $-2 \leq x \leq 4$ を満たすすべての x について $f(x) > 0$ が成り立つことである。このとき、次のいずれかの図のようになる。



$y = f(x)$ のグラフの軸、 $x = a$ の位置で場合分けして考える。

(i) $a < -2$ のとき。



条件を満たすのは、

$$f(-2) > 0$$

となるときであるから、

$$2a + 7 > 0.$$

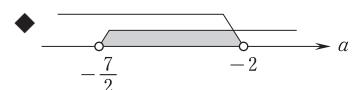
$$a > -\frac{7}{2}.$$

これと、 $a < -2$ より、

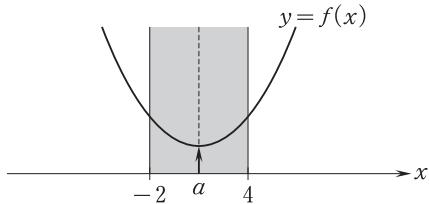
$$-\frac{7}{2} < a < -2.$$

◆ $y = f(x) = (x - a)^2 - a^2 - 2a + 3$
より、 $y = f(x)$ のグラフの軸は、
 $x = a$.

◆ $f(x) = x^2 - 2ax - 2a + 3$
より、
 $f(-2) = (-2)^2 - 2a(-2) - 2a + 3$
 $= 2a + 7.$



(ii) $-2 \leq a \leq 4$ のとき。



条件を満たすのは、

$$f(a) > 0$$

となるときであるから、

$$-a^2 - 2a + 3 > 0.$$

$$a^2 + 2a - 3 < 0.$$

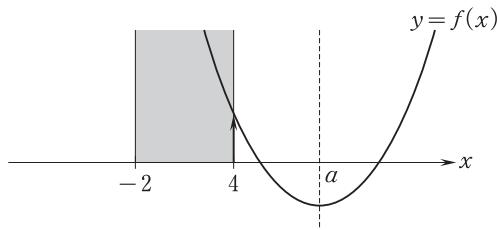
$$(a+3)(a-1) < 0.$$

$$-3 < a < 1.$$

これと、 $-2 \leq a \leq 4$ より、

$$-2 \leq a < 1.$$

(iii) $a > 4$ のとき。



条件を満たすのは、

$$f(4) > 0$$

となるときであるから、

$$-10a + 19 > 0.$$

$$a < \frac{19}{10}.$$

これと、 $a > 4$ を満たす a は存在しない。

(i), (ii), (iii) より、求める a の値の範囲は、

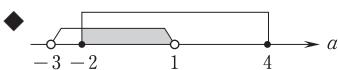
$$-\frac{7}{2} < a < 1.$$

…(答)

◆ $f(x) = (x-a)^2 - a^2 - 2a + 3$

より、

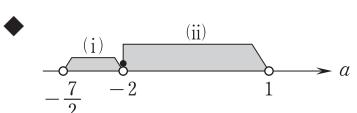
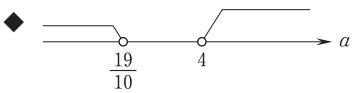
$$f(a) = -a^2 - 2a + 3.$$



◆ $f(x) = x^2 - 2ax - 2a + 3$

より、

$$\begin{aligned} f(4) &= 4^2 - 2a \cdot 4 - 2a + 3 \\ &= -10a + 19. \end{aligned}$$



———— ポイントチェック ————

- (1) x についての不等式 $x^2 + x - 6 \leq 0$ を解け.
(2) a を定数とし, x の 2 次関数

$$f(x) = x^2 + 2ax + 3a + 4$$

がある. $y = f(x)$ のグラフが x 軸と共有点をもつような a の値の範囲を求めよ.

(答)

- (1) $-3 \leq x \leq 2$.
(2) $a \leq -1, 4 \leq a$.

4 【数学 I 図形と計量(鋭角の三角比, 鈍角の三角比, 正弦定理・余弦定理)】

$AB = 5$, $BC = 7$, $AC = 8$ である三角形 ABC の辺 AB 上に $AD = 2$ となる点 D をとり, 三角形 BCD の外接円を K とする.

- (1) $\cos \angle ABC$, $\sin \angle ABC$ の値をそれぞれ求めよ.
- (2) 三角形 BCD の面積を求めよ.
- (3) K の半径を求めよ.
- (4) 直線 AC と K の C 以外の交点を E とする.
 - (i) 線分 DE の長さを求めよ.
 - (ii) 線分 BE と CD の交点を F とする. 三角形 BDF の面積を求めよ.

● ● ○ 配点 (50 点) ○ ○ ● ●

- (1) 8 点 (2) 6 点 (3) 12 点 (4)(i) 10 点 (ii) 14 点

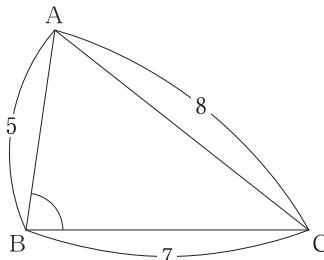
● ● ○ 問題のレベル ○ ○ ● ●

- (1) 基本 (2) 基本 (3) 標準 (4)(i) 応用 (ii) 発展

解

答

(1)



三角形 ABC に余弦定理を用いると,

$$\begin{aligned}\cos \angle ABC &= \frac{AB^2 + BC^2 - CA^2}{2 \cdot AB \cdot BC} \\ &= \frac{5^2 + 7^2 - 8^2}{2 \cdot 5 \cdot 7} \\ &= \frac{1}{7}. \quad \text{…(答)}$$

また, $\sin^2 \angle ABC + \cos^2 \angle ABC = 1$ より,

$$\begin{aligned}\sin^2 \angle ABC &= 1 - \cos^2 \angle ABC \\ &= 1 - \left(\frac{1}{7}\right)^2 \\ &= \frac{48}{49}.\end{aligned}$$

$0^\circ < \angle ABC < 180^\circ$ より, $\sin \angle ABC > 0$ であるから,

余弦定理

$$b^2 = c^2 + a^2 - 2ca \cos B,$$

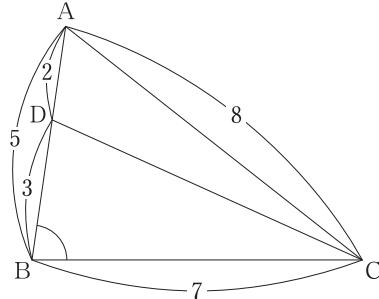
$$\cos B = \frac{c^2 + a^2 - b^2}{2ca}.$$

三角比の相互関係

$$\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1.$$

$$\sin \angle ABC = \sqrt{\frac{48}{49}} = \frac{4\sqrt{3}}{7}. \quad \dots(\text{答})$$

(2)



$BD = AB - AD = 5 - 2 = 3$ より、三角形 BCD の面積は、

$$\begin{aligned}\triangle BCD &= \frac{1}{2}BD \cdot BC \sin \angle DBC \\ &= \frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 7 \cdot \frac{4\sqrt{3}}{7} \\ &= 6\sqrt{3}.\end{aligned}\quad \dots(\text{答})$$

(3)

道しるべ

三角形 BCD の外接円 K の半径を正弦定理を利用して求めるために、まず線分 CD の長さを余弦定理を利用して求める。

三角形 BCD に余弦定理を用いると、

$$\begin{aligned}CD^2 &= BC^2 + BD^2 - 2BC \cdot BD \cos \angle DBC \\ &= 7^2 + 3^2 - 2 \cdot 7 \cdot 3 \cdot \frac{1}{7} \\ &= 52.\end{aligned}$$

$CD > 0$ より、

$$CD = \sqrt{52} = 2\sqrt{13}.$$

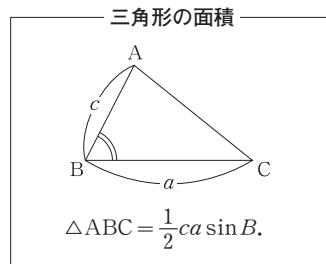
よって、円 K の半径を R として、三角形 BCD に正弦定理を用いると、

$$\begin{aligned}2R &= \frac{CD}{\sin \angle DBC} \\ &= \frac{2\sqrt{13}}{\frac{4\sqrt{3}}{7}} \\ &= \frac{7\sqrt{13}}{2\sqrt{3}} \\ &= \frac{7\sqrt{39}}{6}.\end{aligned}$$

したがって、 K の半径は、

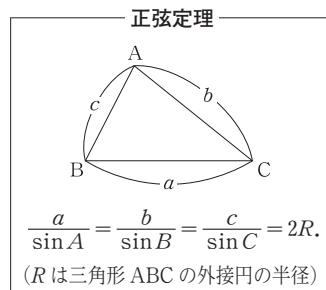
$$R = \frac{7\sqrt{39}}{12}.\quad \dots(\text{答})$$

◆ $\sin \angle DBC = \sin \angle ABC = \frac{4\sqrt{3}}{7}.$



$$\triangle ABC = \frac{1}{2}ca \sin B.$$

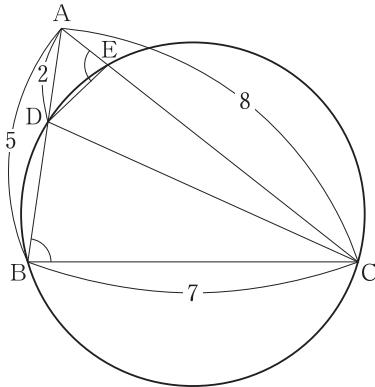
◆ $\cos \angle DBC = \cos \angle ABC = \frac{1}{7}.$



$$\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C} = 2R.$$

(R は三角形 ABC の外接円の半径)

(4)



(i)



三角形 ADE と相似な三角形に着目する。

四角形 BCED は円に内接するから,

$$\angle AED = \angle DBC. \quad \cdots \textcircled{1}$$

三角形 ADE と三角形 ACB において,

$$\angle DAE = \angle CAB \text{ (共通),}$$

$$\angle AED = \angle ABC \text{ (\textcircled{1} より).}$$

よって、2組の角がそれぞれ等しいから,

$$\triangle ADE \sim \triangle ACB.$$

したがって,

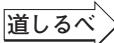
$$AD : DE = AC : CB.$$

$$2 : DE = 8 : 7.$$

$$8DE = 14.$$

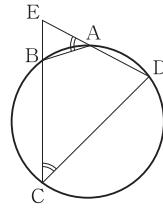
$$DE = \frac{7}{4}. \quad \cdots \text{(答)}$$

(ii)



三角形 BCD の面積と線分比 CF:FD から、三角形 BDF の面積を求める。

円に内接する四角形



円に内接する四角形 ABCD において,

$$\angle BAD + \angle BCD = 180^\circ$$

が成り立つ。

これより、上の図において、

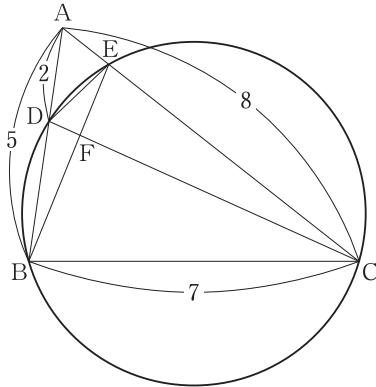
$$\angle BAE = 180^\circ - \angle BAD,$$

$$\angle BCD = 180^\circ - \angle BAD$$

であるから、

$$\angle BAE = \angle BCD$$

が成り立つ。



(2) で求めた三角形 BCD の面積を利用して、三角形 BDF の面積を求めるこころを考える。三角形 BCD, BDF の底辺をそれぞれ CD, DF とみると高さは等しいから、

$$\triangle BDF = \frac{DF}{CD} \cdot \triangle BCD$$

である。また、 $CD = CF + FD$ であるから、 $CF : FD$ がわかれれば、 $\frac{DF}{CD}$ も得られる。

さらに、面積比 $\triangle BCE : \triangle BDE$ は $CF : FD$ に等しいから、

$$CF : FD = \triangle BCE : \triangle BDE$$

$$= \left(\frac{1}{2} CB \cdot CE \sin \angle BCE \right) : \left(\frac{1}{2} DB \cdot DE \sin \angle BDE \right). \quad \cdots \textcircled{2}$$

ここで、 $\angle BDE + \angle BCE = 180^\circ$ より、

$$\begin{aligned} \sin \angle BCE &= \sin(180^\circ - \angle BDE) \\ &= \sin \angle BDE \end{aligned}$$

であるから、②より、

$$CF : FD = (CB \cdot CE) : (DB \cdot DE). \quad \cdots \textcircled{3}$$

さらに、 $\triangle ADE \sim \triangle ACB$ より、

$$AD : AE = AC : AB.$$

$$2 : AE = 8 : 5.$$

$$8AE = 10.$$

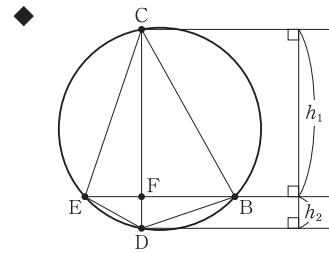
$$AE = \frac{5}{4}.$$

これより、

$$CE = AC - AE$$

$$= 8 - \frac{5}{4}$$

$$= \frac{27}{4}.$$



上の図において、

$$\triangle BCE = \frac{1}{2} BE \cdot h_1,$$

$$\triangle BDE = \frac{1}{2} BE \cdot h_2$$

であるから、

$$\triangle BCE : \triangle BDE = h_1 : h_2.$$

また、平行線の定理から、

$$h_1 : h_2 = CF : FD.$$

よって、

$$\triangle BCE : \triangle BDE = CF : FD.$$

$$\blacklozenge \quad \sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta.$$

よって、③より、

$$\begin{aligned} CF : FD &= \left(7 \cdot \frac{27}{4}\right) : \left(3 \cdot \frac{7}{4}\right) \\ &= 9 : 1. \end{aligned}$$

したがって、三角形 BDF の面積は、三角形 BCD の面積の $\frac{DF}{CD} = \frac{1}{9+1} = \frac{1}{10}$ 倍であるから、

$$\begin{aligned} \triangle BDF &= \frac{1}{10} \triangle BCD \\ &= \frac{1}{10} \cdot 6\sqrt{3} \\ &= \frac{3\sqrt{3}}{5}. \end{aligned} \quad \dots(\text{答})$$

◆ $CB = 7$, $CE = \frac{27}{4}$, $DB = 3$,
 $DE = \frac{7}{4}$.

◆ $\triangle BCD = 6\sqrt{3}$.

———— ポイントチェック ————

$AB = 3$, $BC = 7$, $CA = 5$ である三角形 ABC の辺 CA 上に $AD = 2$ となる点 D をとる。

- (1) $\cos \angle ACB$, $\sin \angle ACB$ の値をそれぞれ求めよ。
- (2) 三角形 BCD の面積を求めよ。
- (3) 三角形 BCD の外接円の半径を求めよ。

(答)

- (1) $\cos \angle ACB = \frac{13}{14}$,
 $\sin \angle ACB = \frac{3\sqrt{3}}{14}$.
- (2) $\frac{9\sqrt{3}}{4}$.
- (3) $\frac{7\sqrt{57}}{9}$.

5 【数学A 確率(確率とその基本的な法則、独立な試行と確率)】

箱の中に、1から6までの数字が書かれた6枚のカード[1], [2], [3], [4], [5], [6]が入っている。この箱から無作為に1枚のカードを取り出し、書かれている数字を記録して元に戻すことを1回の試行とする。

- (1) この試行を3回繰り返し、記録された数を順にa, b, cとする。
 - (i) a, b, cがすべて4以下となる確率を求めよ。
 - (ii) a, b, cのうち1つだけが6である確率を求めよ。
 - (iii) a, b, cの最大数が4である確率を求めよ。
- (2) この試行を4回繰り返し、記録された数を順にa, b, c, dとする。
 - (i) a, b, c, dのうち少なくとも2つが5以上となる確率を求めよ。
 - (ii) a, b, c, dの中に、和が10以上となる2つの数が含まれる確率を求めよ。

● ● ● 配点(50点) ● ● ●

(1)(i) 8点 (ii) 9点 (iii) 10点 (2)(i) 11点 (ii) 12点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

(1)(i) 基本 (ii) 基本 (iii) 標準 (2)(i) 応用 (ii) 発展

解 答

(1) 1回の試行において、カードの取り出し方は6通りである。

よって、試行を3回繰り返したときの記録された数字の組(a, b, c)は全部で、

$$6^3 = 216 \text{ (通り)}$$

あり、これらは同様に確からしい。

(i) a, b, cがすべて4以下となる数字の組(a, b, c)は、

aは1, 2, 3, 4のいずれかで4通り、

上ののおののaに対して、bは4通りずつ、

上ののおのの(a, b)に対して、cは4通りずつ

あるから、

$$4 \times 4 \times 4 = 64 \text{ (通り)}.$$

したがって、求める確率は、

$$\frac{64}{216} = \frac{8}{27}. \quad \dots \text{(答)}$$

(ii) a, b, cのうち1つだけが6である数字の組(a, b, c)の総数を考える。

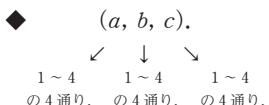
まず、a, b, cのうち6となるものは1つだけであるから、6となるものの決め方は、

$${}^3C_1 = 3 \text{ (通り)}$$

積の法則

事柄Pの起こり方がp通りあり、そのおののの場合について、事柄Qの起こり方がq通りあるとき、PとQがともに起こる場合の数は、

$$p \times q \text{ (通り)}$$



◆ 1回の試行で記録される数字が4以下となる確率は $\frac{4}{6}$ であるから、

$$\left(\frac{4}{6}\right)^3 = \frac{8}{27}$$

と考えてもよい。

◆ (a, b, c) = (6, b, c),
 (a, 6, c), (a, b, 6)
 の3(通り)。

ある。

たとえば $a=6$ のとき、すなわち $(a, b, c) = (6, b, c)$ のとき、 b, c はそれぞれ 6 以外の 5 通りずつあるから、 b, c の決め方は、

$$5 \times 5 = 25 \text{ (通り)}$$

ある。

よって、 a, b, c のうち 1 つだけが 6 である数字の組 (a, b, c) は全部で、

$$3 \times 25 = 75 \text{ (通り)}$$

ある。

したがって、求める確率は、

$$\frac{75}{216} = \frac{25}{72}. \quad \dots(\text{答})$$

(iii) (解答 1)

a, b, c の最大数が 4 となるのは、

$$\begin{cases} a, b, c \text{ がすべて } 4 \text{ 以下,} \\ \quad \text{かつ} \\ a, b, c \text{ の少なくとも } 1 \text{ つが } 4 \end{cases} \quad \dots(1)$$

$$\dots(2)$$

の場合である。①の中で、②を満たさないのは、

$$a, b, c \text{ がすべて } 3 \text{ 以下} \quad \dots(3)$$

となる場合であるから、①の場合から ③の場合を除けばよい。

a, b, c がすべて 4 以下となる (a, b, c) の組は、

$$4 \times 4 \times 4 \text{ (通り).}$$

a, b, c がすべて 3 以下となる (a, b, c) の組は、

$$3 \times 3 \times 3 \text{ (通り).}$$

よって、 a, b, c の最大数が 4 である数字の組 (a, b, c) は全部で、

$$4 \times 4 \times 4 - 3 \times 3 \times 3 = 37 \text{ (通り).}$$

したがって、求める確率は、

$$\frac{37}{216}. \quad \dots(\text{答})$$

(解答 2)

a, b, c の最大値が 4 である数字の組 (a, b, c) を 4 の個数によって、次のように場合分けする。

$$\begin{cases} (\text{ア}) \quad a, b, c \text{ のうち } 1 \text{ つだけが } 4, \\ (\text{イ}) \quad a, b, c \text{ のうち } 2 \text{ つが } 4, \\ (\text{ウ}) \quad a, b, c \text{ がすべて } 4. \end{cases}$$

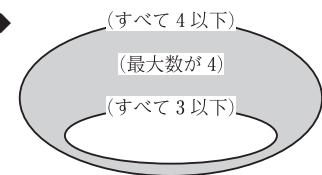
(ア) のとき。

a, b, c のうち 4 となるものは 1 つだけであるから、4

◆ $(6, b, c).$
 $\swarrow \quad \searrow$
 $1 \sim 5 \quad 1 \sim 5$
 の 5 通り。 の 5 通り。

◆ $\begin{cases} (6, b, c) \dots 25 \text{ 通り,} \\ (a, 6, c) \dots 25 \text{ 通り,} \\ (a, b, 6) \dots 25 \text{ 通り.} \end{cases}$
 よって、全部で、
 $3 \times 25 = 75 \text{ (通り).}$

◆ 反復試行の確率の考え方を利用して、
 $_3C_1 \left(\frac{1}{6}\right)^1 \left(\frac{5}{6}\right)^2 = \frac{25}{72}$
 と考えてもよい。



◆ (すべて 4 以下となる確率)
 -(すべて 3 以下となる確率)
 $= \left(\frac{4}{6}\right)^3 - \left(\frac{3}{6}\right)^3 = \frac{37}{216}$
 と計算してもよい。

◆ 最大数が 4 となる 3 つの数の組合せは、○を 3 以下の数とすると、次の 3 通り。
 (ア) 4, ○, ○,
 (イ) 4, 4, ○,
 (ウ) 4, 4, 4.

となるものの決め方は,

$${}_3C_1 = 3 \text{ (通り)}$$

ある.

たとえば, $a=4$, すなわち $(a, b, c) = (4, b, c)$ のとき, b, c はそれぞれ 3 以下であるから, b, c の決め方は,

$$3 \times 3 = 9 \text{ (通り)}.$$

よって, (ア)となる組 (a, b, c) は全部で,

$$3 \times 9 = 27 \text{ (通り)}$$

ある.

(イ)のとき.

a, b, c のうち 4 となるものが 2 つのとき, 4 となるものの決め方は,

$${}_3C_2 = 3 \text{ (通り)}$$

ある. このそれぞれの場合に, 残り 1 つの数は 3 以下であるから, (イ)となる組 (a, b, c) は全部で,

$$3 \times 3 = 9 \text{ (通り)}$$

ある.

(ウ)のとき.

$$(a, b, c) = (4, 4, 4) \text{ の } 1 \text{ 通り}.$$

以上(ア), (イ), (ウ)より (a, b, c) の組は全部で,

$$27 + 9 + 1 = 37 \text{ (通り)}$$

ある. よって, 求める確率は,

$$\frac{37}{216}. \quad \dots \text{(答)}$$

(2) 試行を 4 回繰り返したときの記録された数字の組 (a, b, c, d) は全部で,

$$6^4 = 1296 \text{ (通り)}$$

であり, これらは同様に確からしい.

(i)

道しるべ

余事象「 a, b, c, d のうち 5 以上となる数の個数が 0 または 1 である」の確率を考える.

a, b, c, d のうち 5 以上となる数の個数を X とすると, X のとり得る値は $X=0, 1, 2, 3, 4$.

a, b, c, d のうち少なくとも 2 つが 5 以上となるのは $X \geq 2$, すなわち $X=2, 3, 4$ のときである.

このとき, 余事象は $X < 2$, すなわち $X=0, 1$ のときであるから, 余事象を考える.

◆ $(4, b, c)$.

$$\begin{array}{ccc} \swarrow & & \searrow \\ 1 \sim 3 & & 1 \sim 3 \\ \text{の } 3 \text{ 通り.} & & \text{の } 3 \text{ 通り.} \end{array}$$

◆ $(a, 4, 4), (4, b, 4), (4, 4, c)$ の 3 通り.

◆ $(4, 4, c)$.

$$\begin{array}{c} \downarrow \\ 1 \sim 3 \\ \text{の } 3 \text{ 通り.} \end{array}$$

◆ a, b, c, d のうち少なくとも 2 つが 5 以上となるのは, 5 以上となる数が 2 つ, または 3 つ, または 4 つのときであり, その余事象は, 5 以上となる数が 1 つまたは存在しないときである.

(あ) $X=0$ のとき.

a, b, c, d がすべて 4 以下であるから,
 $4 \times 4 \times 4 \times 4 = 256$ (通り).

(い) $X=1$ のとき.

a, b, c, d のうち 5 以上となるものが 1 つのとき, その 5 以上となるものの決め方は,

$${}_4C_1 = 4 \text{ (通り)}$$

ある. たとえば, それが a の場合, (a, b, c, d) は次のようになる.

$$\begin{array}{c} (a, b, c, d) \\ \downarrow \\ \begin{array}{ll} 5 \text{ または } 6 & \text{それぞれ } 1 \sim 4 \\ \text{の } 2 \text{ 通り.} & \text{の } 4 \text{ 通りずつ.} \end{array} \end{array}$$

このとき, (a, b, c, d) の組は,

$$2 \times 4 \times 4 \times 4 = 128 \text{ (通り)}$$

ある.

よって, 5 以上となるものが b, c, d のときも, それぞれ 128 通りずつあるから, $X=1$ となる組 (a, b, c, d) は全部で,

$$4 \times 128 = 512 \text{ (通り).}$$

(あ), (い) より, 余事象の確率は,

$$\frac{256 + 512}{1296} = \frac{16}{27}.$$

したがって, 求める確率は,

$$1 - \frac{16}{27} = \frac{11}{27}. \quad \dots (\text{答})$$

(ii)

道しるべ

(i) で定めた X について, $X=2, 3, 4$ のときは, 和が 10 以上になる 2 数が必ず含まれるから, $X=0, 1$ のときを考える.

(i) で定めた X について, $X \geq 2$ のときは, a, b, c, d の中に, 和が 10 以上となる 2 つの数が必ず含まれる.

(i) の結果より, このときの確率は,

$$\frac{11}{27} \quad \dots \text{④}$$

である.

次に, $X=0, 1$ のときを考える.

(う) $X=0$ のとき.

a, b, c, d はすべて 4 以下であるから, どの 2 つの数の和も 8 以下であり, 和は 10 以上とはならない.

余事象の確率

ある事象 A に対して, 「 A でない」という事象を A の余事象といい, \bar{A} と書く. その確率は, 次のようにして求められる.
 $P(\bar{A}) = 1 - P(A)$.

◆ 5 以上の数を少なくとも 2 つ含むから, その中の 2 つの数の和は必ず 10 以上になる.

(え) $X=1$ のとき.

a, b, c, d のうち 5 以上となる数は 1 つだけである.

その数が 5 のときは、他の 4 以下の数との和は 9 以下であり、和は 10 以上とはならない。

その数が 6 のときは、他の 3 つの数の中に少なくとも 1 つ 4 があれば、和が 10 以上となる。

このとき、 a, b, c, d のうち 6 となるものは 1 つだけであるから、6 となるものの決め方は、

$${}_4C_1 = 4 \text{ (通り)}$$

ある。

たとえば、 $a=6$ 、すなわち $(a, b, c, d)=(6, b, c, d)$ のとき b, c, d はすべて 4 以下であり、さらに少なくとも 1 つは 4 であるから、(1)(iii) と同様に考えると、 b, c, d の決め方は、

$$4^3 - 3^3 = 37 \text{ (通り)}$$

ある。

よって、 $X=1$ のときに、和が 10 以上となる 2 数が含まれる組 (a, b, c, d) は全部で、

$$4 \times 37 = 148 \text{ (通り)}$$

ある。

これより、 $X=1$ かつ 2 つの数の和が 10 以上となる確率は、

$$\frac{148}{1296} = \frac{37}{324}. \quad \cdots \textcircled{5}$$

④、⑤ は互いに排反であるから、求める確率は、

$$\begin{aligned} \frac{11}{27} + \frac{37}{324} &= \frac{132+37}{324} \\ &= \frac{169}{324}. \end{aligned} \quad \cdots \text{(答)}$$

ポイントチェック

箱の中に、1 から 6 までの数字が書かれた 6 枚のカード $\boxed{1}, \boxed{2}, \boxed{3}, \boxed{4}, \boxed{5}, \boxed{6}$ が入っている。この箱から無作為に 1 枚のカードを取り出し、書かれている数字を記録して元に戻すことを 1 回の試行とする。

この試行を 3 回繰り返し、記録された数を順に a, b, c とするとき、

- (1) a, b, c がすべて 5 以下となる確率を求めよ。
- (2) a, b, c のうち 1 つだけが 5 である確率を求めよ。
- (3) a, b, c の最大数が 5 である確率を求めよ。

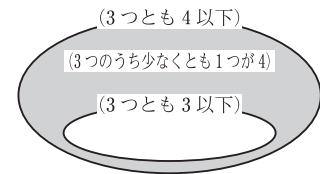
◆ $\{5, \underbrace{\circlearrowleft, \circlearrowright, \circlearrowuparrow, \circlearrowdownarrow}_{4 \text{ 以下}}$ のとき

どの 2 数の和も 10 以上にならない。

◆ $\{6, \underbrace{\circlearrowleft, \circlearrowright, \circlearrowuparrow, \circlearrowdownarrow}_{4 \text{ 以下}}$ のとき

\circlearrowleft のうち、少なくともどれか 1 つが 4 であれば、和が 10 となる 2 数が存在する。

◆ (1)(iii) で考えた「最大数が 4」となる場合と同じ考え方である。



(答)

(1) $\frac{125}{216}.$

(2) $\frac{25}{72}.$

(3) $\frac{61}{216}.$

うさを、「断腸」、また「断腸の思い」という。

問七 内容説明の問題。

◇解法のポイント

- 第三段落に記された話の内容を把握する。

傍線部⁹は「悪はつまり善のもとである」の意で、つづく「悪事善縁となる」も同じことを述べたものである。解答に当たっては、傍線部直前に「これを見て、弓矢を折り棄てて出家して貴き禪師となりけり」とあることに着目すればよい。指示代名詞の「これ」は、第三話に記される内容を踏まえていて、具体的には、子猿を射殺したところ、木に並んでいた母猿が、あまりの悲しみゆえに、続いて木から落ちて死んだことを指す。その結果、鄧隱峯は弓矢を折つて捨てて出家して立派な僧となつた、というのである。したがつて、②「善」は、鄧隱峯が出家して立派な僧となつたことをいい、その善縁、つまり、善のもととなつた①「悪」は、端的には、鄧隱峯が子猿を射殺したことをいう。これが、母猿を死なせる契機となつたのである。解答は、以上のことを踏まえ、それぞれ解答欄の形式に合うように制限字数内で記せばよい。

の修験者は、恐ろしい強盗などもいるのに」と尼公が怒ったことをいうので、4の主語は「尼公」である。「腹立ちはれども」と逆接表現になつてゐるが、これは後の「尼公、心地よろこばしくして（＝尼公は、うれしく満足して）」と照應する。

したがつて、正解はウである。

問四 古語の意味を問う問題。

◇解法のポイント

- 重要古語の意味を正しく理解し、覚えておく。
・「下知す」（動詞）……指図する。命令する。
・「やがて」（副詞）……そのまま。すぐに。そのまますぐに。

傍線部5 「下知して」は、サ行変格活用動詞「下知す」の連用形「下知し」に、接続助詞「て」の付いたもの。漢語の名詞「下知」は上から下への指図・命令の意、「下知す」は、それに「す」の付いた複合サ変動詞で、右記のポイントのように訳す。選択肢の中で、この語義に当てはまるのはイ「指図して」だけで、これが正解である。ここは、尼公の従者に対する指図を表している。

傍線部7 「やがて」は副詞。二つの動作や状態が変化せずそのまま引き続ぐさま、また、二つの動作や状態に時間的な隔たりのないさまを表し、右記のポイントのように訳す。選択肢の中で、この語義に当てはまるのはウ「そのまますぐに」だけで、これが正解である。ここは、子猿が射落とされて死んだのに続いて、母猿も木から落ちて死んだことを表している。

問五 内容説明の問題。

◇解法のポイント

- 傍線部を正確に逐語訳した上で、文脈からより具体的な内容を捉える。

傍線部6 が正確に逐語訳できれば正解の得られる問である。「いかなる孝養の子も」は「どんなに親に孝行を尽くす子も」の意である。「親を褒めむには、仮定・婉曲の「む」に留意して逐語訳すると「親を褒めるならばその時に」、また「親を褒めるような時に」などとなる。「これほどに喜ぶことあらじ」は、打消推量の「じ」に留意して逐語訳すると「これほどに喜ぶことはないだろう」となる。なお、「これほどに」は、【本文解説】にも記したが、子を褒められた時の、親馬鹿ともいえるほどの喜びようを表したものである。以上をまとめると、傍線部の逐語訳は「どんなに親に孝行を尽くす子も、親を褒めるならばその時に、これほどに喜ぶことはないだろう」となるが、この逐語訳に適う選択肢は、イ「親を褒められた時の子の喜びは、子を褒められた時の親の喜びには及ばない」で、これが正解である。

問六 知識（故事成語）を問う問題。

◇解法のポイント

- よく使用される故事成語を覚えておく。
・断腸の思い……はらわたがちぎれるほどの悲しさやつらさ。

傍線部8 は「母猿の腹を開けて見ると、腸がずたずたに切れていた」の意で、続いて「子を愛しむ心、切にして、腸の切れたるなるべし」とあるのは、母猿の腸がずたずたに切れていた理由を推し量つたもので、子猿を思う気持ちが痛切であったからだろうと述べている。

正解の「断腸」は、中国の後漢末から東晋末までの貴族や僧、文人たちの逸話を集めた『世説新語』に見える故事による。東晋の武将桓温が、揚子江上流の水運の難所である三峽を旅した時、従者が猿の子を捕らえる。すると、母猿は悲しんで岸を百余里も追い続け、とうとう船に飛び移るが、そのまま息絶える。そこで、その腹を割いてみると、腸がずたずたに断ち切れていたという。そこから、はらわたがちぎれるほどの悲しさやつ

悪はつまり善のもとであると言つて、悪事が善のよりどころとなることは、こういったことがあるからなのだ。

【設問解説】

問一 心情説明の問題。

◇解法のポイント

○傍線部の直前に記された母の心中思惟の内容を正確に捉える。

傍線部1は「家にも居られないで」の意。ここにうかがえる母的心情は、直前の「御坊の、この雪風にいかなるあやまちもやあるらむ」とひてに着目し、「あなたが、この雪や風の中でどんなひどい目に遭つていふことだらうかと思つて」と述べていることに留意して考へる。ここから、悪天候の中、比叡山に戻るわが子が無事かどうかと気を揉んでいることがわかる。この内容に適う選択肢は、アの「わが子の身上を案じて、気がかりに思う気持ち」で、これが正解である。

問二 空欄補充の問題。

◇解法のポイント

○空欄を含む会話部の意味と、その後に記された内容を丁寧に辿る。

2

空欄2は、説経師である山僧の母がわが子に対し「比叡山にあなたほどの〇〇の僧は、何人くらいいるか」と尋ねた言葉の中にある。この後で、説経師が聴聞の人々に対し「これほどにわろく候ふ面を、人の親のかたくななる心、かやうに申して候ひし」と述べていることに着目しよう。

「かたくななる心」の「かたくななる」は、ナリ活用形容動詞「かたくななり」の連体形。「かたくななり」は漢字を当てるとき「頑ななり」とな

るが、「かた」は「片」で、「不完全」の意、「くな」は曲がっていることを言い、「曲がる・すねる」意の動詞「くねる」と同語源である。そこから、考へが思わしくない方向に偏っている様子を表し、「偏屈で頑固だ・愚かで無教養だ・粗野で見苦しい」などと訳すことができる。

すると「これほどにわろく候ふ面を、人の親のかたくななる心、かやうに申して候ひし」は、不細工な説経師の顔を、親の偏った考へから、その不細工さとは正反対に捉えていたと述べていることがわかる。つまり、親馬鹿な母が不細工な説経師の顔を褒めちぎったと言つてはいるのである。「かたくななり」は、ここでは「愚かだ」の意で用いられている。

したがって、空欄には容貌のすぐれた様子を表す語を入れればよく、選択肢の中で当てはまるのは、アの「みめよき」で、これが正解である。なお、「みめ」は漢字を当てるとき「見目」で、「外見・容貌」の意である。

問三 主語判定の問題。

◇解法のポイント

○傍線部の前後に記された内容を丁寧に辿る。

傍線部3「あひしらひ給ふ」は「応対なさる」の意、ハ行四段活用動詞「あひしらふ」は「あへしらふ」の変化した形で、「あしらふ」の古形である。「あひしらふ」「あへしらふ」「あしらふ」はいずれも「応答する・相手をする」意を表すが、現代語の「あしらう」が相手よりも優位に立つて応対する意で用いられるのは異なり、単に応対する意で用いられる。これは、来訪した「山伏修行者」に応対することを表しているが、傍線部の少し前に「入道あひしらひ」とあることから、応対したのは「入道」とわかる。したがって、3の主語は「入道」である。

傍線部4「腹立ちけれども」は「怒ったが」の意、これは「入道」が「山伏修行者」に親身に応対したことに対する「尼公聞きて、「あれていの修行者は、おそらく強盗なんもあるに」と、すなわち「あんなざま

ことを知らなければ、仏の情け深さのありがたいこともわからないと説き、父母の情け深さのありがたいことを身に染ませて仏道修行に励めば、極楽往生がかなうものだと説いている。母猿や母鹿の子を思う気持ちの切実さに改心して仏門に入ったという中国の僧の逸話は、いかにも仏教説話らしい話であるが、最初の二話に見える親馬鹿ともいえる母の話も、単に愚かなものだと語るのではなく、実は、愚かしく見えるほどの母の愛情の強さを語つていて、それをありがたいと知ることこそが仏道修行において大切であると説くのである。

【全文解釈】

比叡山延暦寺の学僧で、仏の教えを説き聞かせる僧がいた。比叡山で法会があると、仏の教えを説き（人々を）仏道に導いて（いたが）、（ある時）母が、子を思うことは愚かなものであることを取り立てて申すことがあって、その時「愚僧（である私）の母は、都におりますので、（私から）申し上げなければならないことがあって（比叡山を下りて）都へ出ましたが、重大な用事ができて、雪の（降る）中で登山いたしましたところ、雪も風も激しくなりましたので、西坂本から都へ戻りましたが、そのうち雪は止んだ（のでした）。四条の橋で、婦人が、召し使いの少女を連れて西へ行つたので、（この雪の中）どのような人であろうかと（思つて）見ると、（なんとまあ、私の）母でございました。（母は）『ああうれしいことよなあ。お坊さま（＝あなた）が、この（激しい）雪や風の中でどんなひどい目に遭つていることだろうかと思つて、家にも居られないで、（せめて）比叡山の方角を見て心を落ち着かせようと思っていたところ（出会えて）、特別なことは（何も）なかつた（ようで安心した）』と言つて、連れ立つて（家に）帰つて、（私を）見上げたり見下したりあれやこれや世話を焼いてくれて、（母は）『比叡山にお坊さま（＝あなた）ほどの器量よしの僧は、何人くらいいるか』と尋ねました。（皆様）『ご覧くださいませ。これほどに不細工でござります顔を、人の親の（わが子を思う）愚かな思い（から）、このように（褒めちぎつて）

申しましたのですよ』と言つて、壇上に座つたままあちらこちら体をねじつて顔を向けて人に見せた。（その）顔を見ては笑う人がいる。（また）母の思いに感動しては泣く人もいた。（私が）直接説法を聞いた比叡山の僧の話である。

（下野国）宇都宮を拠点とする武士団で乙貫の新左衛門と申し上げた方は、有名な弓の名手である。（用いる）矢は（通常より長い）十三束三伏である。矢を巧みに射ました。その母が、縁があつて常陸國のある入道と共に暮らしていましたが、修驗者が（来て）「どんなものであつても（よいので）いただきましょう（＝お恵みください）」と言うので、入道が応対して、「どちらからおいでか」と言うと、「都の方から（です）」と答えた。尼公が聞いて、「あんなざまの修驗者は、恐ろしい強盗などもいるのに」と（言つて）、（入道が親身に）応対なさるということで手厳しく怒つたが、入道が（修驗者を）呼び入れて都の方のことを尋ねたところ、「宇都宮殿が、皇居の警備に当たる武士として都に上りましたのを、四の宮河原で見物しました。乙貫の新左衛門尉とか申しました方が、弓の技量にすぐれていること（この上なく）、（また）人柄も立派でございました。（それを、都の）人々が、目に見て驚き褒めて評判になりました」と言う時に、尼公は、うれしく満足して、「あのお坊さまに、僧をもてなす食膳は立派にして差し上げよ。お酒も差し上げよ」と指図して、单衣の衣を一枚与えた。（私は）近くにおりましたので、はつきりと聞いたことである。あの入道は（私の古くからの）知り合いである。どんなに親に孝行を尽くす子も、親を褒めるならばその時に、これほどに喜ぶことはないだろう。

獸までも、母が、子を思うこと（は同じである）。中国に鄧隱峯という僧がいた。（出家する前の）在俗の時に、猿の母子が、木に並んでいるのを、子猿を射落としたところ子猿が死んだ。母猿は、そのまますぐに続いて（木から）落ちて死んだ。（そこで）母猿の腹を開けて見ると、腸がずたずたに切れていた。子猿をいとしく思う気持ちが、痛切で、腸が切れたのだろう。（鄧隱峯は）これを見て、弓矢を折つて捨てて出家して立派な僧となつた。

一二二六、一三一一）。嘉元二年（一三〇四）に起筆し、翌年の嘉元三年（一三〇五）に成立した。同じ作者の手による『沙石集』（弘安六年（一二八三）成立）と同様に、数多くの逸話を引きながら、仏教の教えや処世訓をわかりやすく説いた、啓蒙的な書物である。

作者の無住は鎌倉で出生、鎌倉幕府の幕臣である梶原景時（かじわらかげとき）の孫（曾孫とも）とされるが、幼くして下野・常陸に転じて親族に養われ、十八歳で出家し、以後、京都・奈良・鎌倉の諸寺で、天台・真言の教えを学び、さらに臨済禅を修めている。弘長二年（一二二二）、三十七歳で尾張国木賀嶺（現在の名古屋市東区矢田町寺畠）の長母寺（ちょうぼじ）に身を置き、翌年の弘長三年（一二二三）に住職となり、後半生を送った。『沙石集』・『雜談集』を著したのも、この寺においてである。一宗一派に偏せず、行動半径も広く、また『沙石集』に「愚老、昔より物語を愛し好み侍りし故に、修行の暇をかけて、徒ら事を書き置き侍る。身ながらも、この癖やまざる故なり（＝私は、昔から物語を愛し好みでありますのである。）」と記す。『沙石集』は、たわいのないことを書き留めています。我ながら、この物語を愛する癖が止まらないからなのだ」と告白するように、生来の話好きで古今東西の説話・物語に通じていたとされる。そういうわけで、彼の著作からは、鎌倉仏教のあり方を知ることができるだけでなく、平明な語り口で描き出される中世庶民の様子から、地方の武士や庶民の世界をうかがい知ることができる。

本文は、「中世の文学」（三弥井書店刊）所収の同書によつたが、表記は適宜改めた。

【本文解説】

出題の本文には、「人の母、子を念ふ事」という表題にもとづく三つの話が収められている。第一話は、比叡山の学僧である説経師が、聴聞の人々に向かって、自分の母の親馬鹿ともいえる話を語り聞かせるもの。吹雪の中、比叡山へ戻るわが子を案じて、都の町中へ出て来た母が、山に登ることを断念して引き返してきたわが子と出会い、無事であったことに安堵して一緒に

家に帰り、あなたのようないいだろうと言つたという話をし、その後で、説経師は人々に自分の顔をよく見せて、不細工な自分をそこまで褒めちぎるのは、愚かとしか言いようがないと語る。そこで、ほほえましく思い笑う人もいれば、「母の愛情の強さに感動して泣く人もいたことを、「まあたり聽聞したる山僧の物語なり」と、この聽聞の場にいた作者の見聞として語つていて。

第二話は、乙貫の新左衛門という弓の名手を子に持つ、東国常陸で暮らす母（＝「尼公」）の話である。連れ添う人道が、物乞いに訪ねて来た修験者を追い返すことなく親身に応対することに立腹した尼公が、その修験者の口から思いがけず、皇居の警備に当たっているわが子の都でのすばらしい評判を聞くや、うつて変わって厚遇したと語る。子を褒められると、親はたいそう喜ぶものだという、こちらも親馬鹿ともいえる母の話であると結ぶ。「近く侍りしままに、確かに聞きしことなり。かの入道は知人なり」と語るように、この話も作者の見聞として語つていて。

第三話には鄧隱峯（とういんほう）という中国の僧の話を記すが、鄧は唐代の禪僧で、これは中国・北宋の高僧延壽（えんじゅ）の『萬善同歸集』（まんぜんどうきしゅう）に収める逸話を引いたものである。この話は、猿の母子の話を語るが、中国の逸話集『世說新語』（せせつしんご）に見える「斷腸」の故事を思い起こさせる（詳細は問八の【設問解説】に記す）。在俗時の鄧隱峯が、子猿を射殺すと、木に並んでいた母猿が矢で射てもいいのに落ちて死んだので、不審に思つて母猿の腹を開けて見ると腸がずたずたに切れていたという話である。人間でなくとも、母が子を思う気持ちとは、わがことのように痛切なものであることを語るものである。その結果、鄧隱峯は出家をして立派な僧になつたと結んでいる。

出題の本文では省略したが、「人の母、子を念ふ事」という表題にもとづく話として、さらにもう一つ、鹿の母子の話が載る。これも第三話と同じく中国の逸話で、やはり、母が子を思う気持ちの切実なことを語り、鹿を射た男が出家をして立派な僧になつたと結んでいる。

以上の四話を語り終えたところで、作者は、父母の情け深さのありがたい

とは、何だろうか。それは小役人の最後の発言から考へることになる。小役人の発言を逐語訳してみると、「さきほどはあなた様が『人』をお尋ねになつたと思い、『位』をお尋ねになつたのだとは思いませんでした」となる。これは「然則」(ラバチ)何以(ヲテ)但(タダ)称(スルミナルヤ)此(シ)二人(ヲ)」(それならばどうしてただこの二人の名前だけを言うのか)という問い合わせに対する答えなので、小役人の発言の趣旨は、王澄の「『人土』は誰か」という質問に対しても「人」を尋ねていると思ったから蔡子尼と江応元の二人の名だけを挙げたのであつて、「位」を尋ねているとわかれれば甲や乙などの名前を挙げたということになるだろう。ではここで言う「人」と「位」とは何か。「位」の方は「是時郡人多居大位者上」(当時郡には高い位に就いている人が大勢いた)から「高い地位」、あるいは「高い位に就いている人」の意味だとわかる。それに対する「人」は、「(身分・地位とは無関係な)優れた人格」あるいは「優れた人格を備えている人」という意味である。つまり小役人は「人土」という語を身分・地位の高い人間ではなく、優れた人格の持ち主のことだと理解したのだが、王澄はその返答を聞いて陳留郡が優れた人格の持ち主を敬う気風がある土地柄だということを改めて痛感したのである。したがつて、正解は才である。

問六 理由説明の問題。

◇解法のポイント5 《理由説明の問題の解き方》

- 傍線部を逐語訳して、どういうことの理由を問われているか正確に捉える。
- 指示語の指示内容を捉える。
- 本文から、理由の根拠となる記述を探し、逐語訳する。

「果然」(果シテリ)を逐語訳すると、「やはりその通りだ」である。「然り」(その通りだ)の指示内容が直前の「此郡有風俗」であることは、明らかだろう。また「果然」と判断した根拠は、直後の「小吏亦知如此事」

五 古文 【解答】

(小役人(でさえ)もまたこのように理解しているのだから)に述べられている。「如レ此」の内容は、問五の解説で詳述した通りで、結論だけ再認すれば、王澄が「人土」と言うのを聞いて、小役人は、身分・地位の高い人間のことを言っているのだと思わず、立派な人格の持ち主のことを言つてはいるのだと受け取った、ということであった。したがつて正解は、イ「小役人が、『人土』と聞いて、地位のある人のことではなくて、人徳のある人のことを言つてはいるのだと受け取ったから」である。

問一	ア
問二	ア
問三	ウ
問四	イ
問五	イ
問六	断腸
問七	ア

- ① 子猿を射殺した (7字)
② 出家して立派な僧となつた (12字)

【配点】 (40点)

問一	5点	問二	5点	問三	5点	問四	4点×2
問五	5点	問六	4点	問七	4点×2		

【出典】
『雜談集』第三卷ノ二「人の母、子を念佛事」。
『雜談集』は、鎌倉時代の仏教説話集。全十巻から成る。作者は無住(むじゅう)一

けることになる。したがつて正解は、「郡人多居大位者」となる。

問四 現代語訳の問題。

◇解法のポイント3 『現代語訳の問題の解き方』

- 重要語や基本句形に注意して、構文どおりに逐語訳する。
- 指示語が含まれている場合には指示する内容を明らかにする。
- 文脈を考慮して、省略されている主語・目的語など必要な語句を補う。

傍線部には、「何以——」という疑問形と、「但——」という限定形が含まれている（【重要語・基本句形】(2) 基本句形を参照）。これに注意して傍線部を逐語訳してみると、「どうしてただこの一人を称するだけなのか」となるから、つまり「どうしてこの二人だけを称するのか」という意味である。「この二人」が誰を指すのかを明らかにするためには、文脈をたどる必要がある。陳留郡に到着した王澄は、迎えに出た小役人に対して、「此の郡の人は誰と為す」（この郡の立派な人は誰か）と言つて、陳留郡の「人士」の名を挙げさせようとした。当時、陳留は有力者を輩出する郡であった。ところが小役人は、蔡子尼と江応元の名を挙げるばかりだったので、王澄は「甲乙等は君の郡の人に非ずや」（甲さんや乙さんはあなたのお郡の人ではないか）と言ってそれを確かめた上で、「何を以て……」と続けたのである。したがつて「称す」は小役人の行為であり、「この二人」とは「蔡子尼」と「江応元」を指すはずである。また「称す」の意味は、辞書には「称賛する」と「言う」「言及する」などが挙げられているが、ここでは、「甲や乙などの名前を挙げてもよさそうなものなのに、どうして蔡子尼と江応元の二人だけを」という文脈から、「この二人の名を）言う」という意味だとわかる。

以上から、解答は「あなたは）どうしてただ蔡子尼、江応元の二人の名前だけを言うのか」のようにまとめればよい。文末は、もちろん「言つたのか」としてもよい。

問五 内容説明の問題。

◇解法のポイント4 『内容説明の問題の解き方』

- 傍線部を含む一文を逐語訳する。
- 前後の文脈を加味して内容を決定する。

傍線部では「旧名」の意味が難しいので、「此郡有風俗」の部分だけを逐語訳してみると、「この郡には『風俗』がある」となる。

「旧名」の意味と「風俗」の意味は、選択肢を見ながら考えればよい。まずどの選択肢も「知られている」と結ばれていることに着目しよう。

「有名」という言葉から思い起こされるように「名」には評判という意味があるので、「知られている」が「名」の解釈であることがわかる。また、「旧」は「ふるくから」の意味で、「昔から」と理解すればよい。つまり、「旧名」の部分は「『で昔から知られている』と解釈できる。したがつて、「旧名」の解釈としては、ア、イ、オが適当である。

次に「有風俗」の意味を考え方。こここの王澄の言葉全体を逐語訳してみると、「この郡は風俗があることで昔から知られている。やはりその通りだ。小役人（でさえ）もまたこのように理解している（のだから）となる。つまり、小役人さえも「このように」（如_シ此）理解しているということから、この郡には「風俗」があると昔から言われていたことが本当だったのだと王澄が気づいたのである。以上を踏まえて各選択肢を見てみよう。ア「風潮」、ウ「風習」、オ「気風」は「風俗」の意味として適当だが、イ「立身出世の機会をつかみやすい」とエ「名所旧跡が数多くある」は「風俗」という言葉からは出てこないので、イ、エは不適当である。

したがつて、正解はアかオに絞られる。

では王澄が「有風俗」と改めて思い知る原因となつた小役人の理解

(2) 基本句形

AにBさせる [使役形] (「遣」||「使」)

○遣しム Aヲシテ (セ) B一
○一ハ 為なス 誰タレト

○非アラズ 二ニ や
○非アラズ 二ニ や

○何ナニ ロもつテ
○何ナニ ルノミ

○但タダ 一スル

○何ナニ ロもつテ
○何ナニ ルノミ

○但タダ 一スル

どうして——するのか／どうやって——するの
か [疑問形]
——ではないか [疑問形]

ただ——だけだ [限定形]

※(一) 内は、サ変動詞で用言の活用を示している。(セ)は未然形、
(スル)は連体形をそれぞれ表す。

【設問解説】

問一 語の読みの問題。

a 「然則」は、「しからばすなはち」と読み、意味は「それならば」である

(重要語・基本句形) (1) 重要語を参照。

b 「向」は、動詞としては「むく」「むかふ」と読むが、副詞として用

いらされている時には「さきに」と読み、「さきほど」「前に」の意味を表

す。ここは「謂」という動詞の直前に置かれているので、副詞として「さ

きに」と読む (重要語・基本句形) (1) 重要語を参照。

c 「亦」は、「また」と読む。「(～も) また」「(～も) 同様に」の意味である。同じく「また」と読んでも、「復」は「ふたたび」という反復の意味を表し、「又」は「そのうえ」「さらに」という添加の意味である

(重要語・基本句形) (1) 重要語を参照。

問一 書き下し文の問題。

◇解法のポイント1 《書き下し文に改める時の注意》

○返り点にもとづいて、漢字を読む順序を確かめる。

○重要語・基本句形に注意しながら、読み方を決める。

○助詞・助動詞として読む漢字は、平仮名で書く。

返り点によれば、漢字を読む順序は、「吏→之→迎→遣」である。

「遣ム Aヲシテ (セ) B一」は【重要語・基本句形】(2) 基本句形にあるとおり使役形で、「AをしてB(セ)しむ」と読む。Aが使役の対象を表し、BがAに行わせる動作を表すので、ここではそれぞれAが「吏」、Bが「迎」之」ということになる。Bの「迎」之は「之を迎ふ」と読むが、「しむ」に接続させるために、未然形に活用させる必要がある。「迎ふ」はハ行下二段活用の動詞なので、未然形は「迎へ」である。また「しむ」は助動詞であるから、書き下し文にする時には「遣」を仮名書きにする。以上をまとめれば、「吏をして之を迎へしむ」となる。

問三 返り点の問題。

◇解法のポイント2 《返り点の決まり》

○一字返る場合は、レ点。

○二字以上返る場合は、一・二(・三……)点。

○一・二(・三……)点を挟んで返る場合は、上(・中)・下点。

「郡の人に大位に居る者多し」という与えられた読み方に従うと、漢字を読む順序は、「郡→人→大→位→居→者→多」である。このとき返って読むことになるのは、「位→居」と「者→多」である。このうち「位→居」は二字以上返っているので「位」の左下に一点、「居」の左下に二点をそれぞれ付ける。また「者→多」は、「位→居」のところに付けた一・二点を挟んで返るので、「者」の左下に上点、「多」の左下に下点をそれぞれ付

りきたりな価値観に染まりきついて、気高い「風俗」を失ってしまっていると言うべきか。いや、今の日本だけではない。いつの時代も、どこの国でも、そうした世俗の価値観を抜け出して生きることは容易ではない。それは晋の時代の中国でも同じ事だったのである。

【書き下し文】

陳留時に大郡たり、号して士多しと称す。琅邪の王澄行きて其の界を経たり。太守の呂予吏をして之を迎へしむ。澄境に入り、吏に問ひて曰く、「此の郡の人士は誰が為す」と。吏曰く、「蔡子尼、江応元有り」と。是の時郡の人に大位に居る者多し。澄其の姓名を以て問ひて曰く、「甲乙等は君の人に非ずや」と。吏曰く、「是なり」と。曰く、「然らば則ち何を以て但此の二人を称するのみなるや」と。吏曰く、「向に君侯人を問ふと謂ひ、位を問ふと謂はず」と。澄笑ひて止む。郡に到り、吏の言を以て予に謂ひて曰く、「旧きより名あり此の郡風俗有りと。果して然り。小吏も亦知る」と此のごとし」と。

【現代語訳】

陳留は当時大きい郡であり、立派な人が多いと言っていた。琅邪郡の王澄が陳留郡の中を通つていった（時のことである）。郡の長官であった呂予は小役人を遣わして王澄を出迎えさせた。王澄は陳留郡に入ると、小役人に尋ねて言った、「この郡の立派な人は誰か」と。小役人は言った、「蔡子尼と江応元がいます」と。当時郡には（政府の）高い位に就いている人が大勢いた。王澄はそれらの高官の姓名を挙げて尋ねて言った、「甲さんや乙さんなどはあなたの郡の人ではないか」と。小役人は言った、「そうです」と。（王澄は）言った、「それならばどうしてただこの二人の名前だけを言うのか」と。小役人は言った、「さきほどはあなた様が（優れた徳のある）人をお尋ねになつたのだと思ひ、（高い）位（に就いている人）をお尋ねになつたのだとは思いませんでした」と。王澄は笑つて（それだけで）終わつた。郡の

役所に到着して、（王澄は）小役人の言った言葉を呂予に話して言った、「この郡は人格を重んじる優れた氣風があるので昔から知られている。やはりその通りだ。小役人（でさえ）もまたこのように理解している（のだから）」と。

【重要語・基本句形】

(1) 重要語

○時 ○号

（～と）呼ぶ

立派な人（もとは支配階層の最も下の位の名）

――を（目的）――によって（手段）

――なので（理由）

○士

（～と）

○以

一

○甲乙

一

○是

（～と）

○然

則

（～と）

○然

則

（～と）

○向

（～と）

○然

則

（～と）

○然

則

（～と）

○向

（～と）

○然

則

（～と）

○如

レ

（～と）

此

直前の「東国北国の源氏ども、蜂のごとくに起りあひ、ただ今都へ攻めのばらむとするに（＝東国や北国の源氏たちが、蜂のように一斉に蜂起し、今にも都へ攻め上るうとするのに）」という状況を指すと考えられる。したがって、傍線部5は源氏と対立している平家一門の人々の様子だとわかる。したがって、平家一門が、源氏の動向に無関心でいることを示す表現を探してみると、最終段落の始めに、「都には平家これをば事ともし給はず（＝都では平家はこのことを問題にもなさらない）」という記述がある。「これ」とは、前段落に示された、城四郎長茂の軍勢が、東国で源義仲の軍勢に大敗したことを指すので、解答は、この部分から問の要求に答える内容を制限字数内で過不足なく抜き出せばよい。

四 漢文

【解答】

- 問一 a しか（らば）すなは（ち） b さき（に） c また
問二 吏をして之を迎へしむ。
問三 郡人 多居_二大位_一者_上
問四 （あなたは）どうしてただ蔡子尼、江応元の二人の名前だけを言うのか。
問五 オ
問六 イ

【配点】 (40点)

- 問一 2点×3 問二 6点 問三 5点 問四 8点
問五 7点 問六 8点

【出典】

房玄齡・李延寿編『晋書』は唐の太宗の勅命で房玄齡・李延寿らが編纂した晋王朝の歴史を記した書で、正史（王朝の公式の歴史書）の一つである。本文は、卷七十七「蔡謨列伝」から採った。

【本文解説】

琅邪郡の王澄が陳留郡に行つた時、長官の呂予に派遣されて迎えに出た小役人は、王澄から陳留郡の「人土」には誰がいるかと尋ねられて、蔡子尼、江応元の二人の名を挙げただけであった。当時陳留郡は政府の高官を輩出する有力な郡であったので、小役人の答えに不審を抱いた王澄は、有力者の名を数え上げつつ（本文では「甲乙」と表されている）、どうしてその二人しか答えないのかと尋ねた。すると小役人は、「人土」というのは人物（＝優れた徳のある人。有徳者）のことだと思ったから、あの二人の名を挙げたのであって、地位のことだけは思わなかつたからだと答えた。王澄は郡の役所に到着すると、小役人でさえ「人土」と聞いて有徳者ことを言つていると思ふくらいだから、陳留郡には昔からの評判通り徳のある人を敬う氣風（＝風俗）があるというのは本当だ、と長官の呂予に告げたのであった。

本文中で話題になつてゐる「士」とか「人土」という言葉は「立派な人」に当たる言葉で、身分や地位が世間で高く評価されるような、有名な人をして用いるのが一般的であり、王澄も初めはそのような意味で何気なく「人土」を尋ねた。しかし、本文に登場する小役人は「人土」と聞いて優れた徳のある人のことだと受け取つた。出迎えを命じられる下級役人でさえも道德にもとづいて人物を評価する考え方を持っていたこと、それが王澄にとつていかに驚くべきことであったかを読み取れないと、本文の理解は難しい。

「立派な人」と聞いて、諸君はどんな人を思い浮かべるだろうか。有能な政治家？ 一流企業のトップ？ 学問・芸術などの大家？ 身分や地位とは無関係に、優れた徳のある人こそ「立派な人」だと考えた人は、恐らく諸君のうちにほんんどいなかつたはずだ。ことほど左様に、今の日本は世俗のあ

品格を失ったことを語る文脈ではないのでふさわしくない。なお、「色を失ふ」とは、驚きや恐れのために顔色が青くなることを示す慣用的な表現である。

問五 内容説明の問題。

◇解法のポイント

- 傍線部が対象としている内容がどこなのかを把握し、正確に理解する。

傍線部2の直前に「まことには山門大衆、平家を追討せむといふこともなし。平家、山攻めむといふこともなし。これ跡形なきことどもなり（＝実は延暦寺の僧たちが、平家を追討しようということもない。平家が、比叡山を攻めるだろうということもない。これは証拠のないことである）」（本文8～9行目）という記述があり、傍線部2はこれに対する世間の人々の感想を示していることに注目しよう。つまりここでは、まったく事実無根の流言によって、都も比叡山も大騒動になってしまったという、普通では考えられない状況について、まるで人心を惑わせるという魔物である「天魔」が荒れ狂ったようだ、と言っているのである。この状況を示すのにふさわしい選択肢はウである。アは、後白河法皇が延暦寺の僧に平家追討を命じたとというのは事実無根の噂なのでふさわしくないし、イは、後白河法皇を警護する武士が動搖したのは、都も比叡山も大騒動になつてしまつたためであつて、延暦寺の僧が攻めて来るという噂を聞いたからではないのでふさわしくない。また、エは、「かくのみあらむには、御物詣なんども、今は御心にまかすまじきことやらん（＝このようではかりあるとしたら、御物詣でなども、今はお思いのままにはならないのだろうか）」（本文7～8行目）という法皇の懸念を重衡が制限を加えたものと誤読しているのでふさわしくない。したがつて、正解はウ。

問六 心情説明の問題。

◇解法のポイント

- 傍線部を正確に解釈する。
- 傍線部の前に記された内容を丁寧に辿る。たど

傍線部3「力付きぬ」は、名詞「力」に力行四段活用動詞「付く」の連用形が接続しさらに完了の助動詞「ぬ」の終止形が付いたもので、直訳すると「力が付いた」となる。

力が付いた理由は、傍線部3の直前に「あはやこの国にも、平家の方人する人ありけり（＝ああこの国にも、平家の味方をする人がいたのだなあ」とあることから、源氏を討伐するためにやつて来た信濃国にも、自分たち平家軍の味方をする者がいたことを知つためだとわかる。さらに、味方がいると思った根拠については、その前の「あそこの峰、ここの洞より、赤旗ども手々にさしあげて寄せければ、城四郎これを見て（＝あちらの峰、こちらの谷から、赤旗を手に手に差し上げて近寄せると、城四郎がこれを見て）」という記述から、近寄つて来る軍勢が、赤い旗を掲げているのを見たからだとわかる。注にも示しているように、赤旗は平家の印であった。

解答は、以上の内容をふまえて制限字数内でまとめればよい。

問七 比喩的な表現の具体的な内容を問う問題。

◇解法のポイント

- 傍線部及び前に記された内容を丁寧に辿り、その状況を具体的に示す表現を探す。

傍線部5「波の立つやらん風の吹くやらんも知らぬ体（＝波が立つのだろうか風が吹くのだろうかも知らない様子）」とは、周囲でどのような波風が立とも無関心でいる状態であるが、この場合の「波」「風」は、

る。

「二重傍線部B」「少なう」は、ク活用の形容詞「少なし」の連用形「少なく」のウ音便で、右記のポイントの②のIIに当たる。したがって、音便を含まないもとの形を、すべてひらがなで記すと「すくなく」となる。

問三 古語の意味を問う問題。

◇解法のポイント

- 重要な古語の意味を的確に理解して、記憶しておく。
「なのめなり」（形容動詞）……①並一通りだ。普通だ。②いいかげんだ。
・「聞こゆる」（連体詞）……有名な。名高い。評判の。
・「なかなか」（副詞）……①かえつて。むしろ。②なまじつか。中途半端に。

傍線部1の「なのめならず」は、ナリ活用の形容動詞「なのめなり」の未然形「なのめなら」に打消の助動詞「ず」の終止形が付いたものである。「なのめなり」は本来、ゆるやかな傾斜を表すという。これは、垂直でもない、水平でもないという、どっちつかずの状態であることから、「いかげん・中途半端・とくにすぐれたところがなく」並一通りだ等の意味を表すようになり、右記のポイントのように訳す。「なのめならず」は、「なのめなり」を否定する文脈になるので、「並一通りではない・格別だ」等の意味になる。選択肢の中で、この語義に適うのはウ「普通ではない」だけである。したがって、正解はウ。

傍線部4の「聞こゆる」は、ヤ行下二段活用動詞「聞こゆ」の連体形が固定して連体詞となつたものである。「聞こゆ」はカ行四段活用動詞「聞く」の未然形に、自然にそのようになるの意の上代の助動詞「ゆ」が付いた「きかゆ」が転じたもので、本来は「聞く」の自発・受身・可能を示し、音声が自然と耳に入る状態を表す。そこから、多くの人の耳に入つて

一般的に知られた結果、噂され、評判になる意を表すようになった。したがって、連体詞「聞こゆる」も、本来は「世間に広く知られている」の意となり、右記のポイントのように訳す。選択肢の中で、この語義に適うのはイ「評判の」だけである。したがって、正解はイ。

傍線部6の「なかなか」は、名詞「なか（中）」を重ねた形である。

「中」は「大・中・小」あるいは「上・中・下」のように、大きくも小さくもない、あるいは上でも下でもないところを指す。これを繰り返す「なかなか」は、「中途半端・どっちつかず」の意となり、さらに、何かを行った結果が中途半端だったと思われると、そのくらいならばむしろしない方がよかつたと感じる気持ちから、右記のポイントのように訳す。選択肢の中で、この語義に適うのはエ「かえつて」だけである。したがって、正解はエ。

問四 空所補充の問題。

◇解法のポイント

- 空欄の前後に記された内容から具体的な状況を把握し、ふさわしい語を入れる。

まず、空欄の前後の内容を手がかりに、どのような状況を示す文脈なんかを考えてみよう。

最初の空欄（本文6行目）では、前に「騒動のめならず（＝騒動は普通ではない）」、後に「あまりにあわて騒いで」とあり、また、後の空欄（本文19行目）では、前に味方だと思っていた軍勢が実は敵であったことが判明したことが語られ、後に「あわてふためき」とあることから、「□」を失ひとは、思いがけない事態に出会つて動搖する様子を表現であると理解できる。このような状況を示すのにふさわしいのは、「顔色」の意を持つア「色」である。イの「時」は、何かの時機を失つたわけではないのでふさわしくないし、ウの「名」やエの「品」も、名誉や

e 「るる」という形を持つ助動詞は、受身・自発・可能・尊敬の意を表す助動詞「る」だけである。これは四段活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用の動詞の未然形に接続し、次のように活用する。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
る	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
れる	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
れる	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
れる	れ	れ	る	るる	るれ	れよ

選択肢の中で「る」の意味に当たるのは、イ「自発」・オ「受身」・ク「尊敬」だが、ここは、敵に「討たれる」と訳せる。したがって、正解はオ「受身」。

問二 用言の音便を問う問題。

◇解法のポイント

①動詞の音便の種類

I イ音便

力行・ガ行・サ行の四段活用動詞の連用形活用語尾がイ音になる。

(例) 書きて→書いて・漕ぎて→漕いで・おぼして→おぼいて

II ウ音便

ハ行・バ行・マ行の四段活用動詞の連用形活用語尾がウ音になる。

(例) 思ひて→思ひて・給びて→給うで・飲みて→飲うで

III 撥音便

i ハ行・バ行・マ行の四段活用動詞の連用形活用語尾が撥音になる。

(例) 呼びて→呼んで・住みて→住んで

ii ナ行変格活用動詞の連用形活用語尾が撥音になる。

(例) 死にて→死んで

iii ラ行変格活用動詞の連体形活用語尾が撥音になる。

(例) あるなり→あんなり

*この場合、撥音は表記されないこともある。

(例) あんなり→あたり

IV 促音便

i タ行・ハ行・ラ行の四段活用動詞の連用形活用語尾が促音

(例) 「ツ」、古文では「つ」と表記)になる。

(例) 持ちて→持つて・言ひて→言つて・渡りて→渡つて

ii ラ行変格活用動詞の連用形活用語尾が促音になる。

(例) はべりて→はべつて

②形容詞と形容動詞の音便の種類

I イ音便

形容詞の連体形末尾がイ音になる。

(例) 良き→良い・美しき→美しい

II ウ音便

形容詞の連用形末尾がウ音になる。

(例) 良くなる→良うなる・美しくなる→美しいなる

III 撥音便

i 形容詞のカリ系列の活用の連体形末尾が撥音になる。

(例) 良かるなり→良かんなり・美しかかるめり→美しかんめり

*この場合、撥音は表記されないことがある。

(例) 良かんなり→良かなり・美しかんめり→美しかめり

ii ナリ活用形容動詞の活用の連体形末尾が撥音になる。

(例) 静かなるなり→静かなんなり

*この場合、撥音は表記されないことがある。

(例) 静かなんなり→静かなり

二重傍線部A 「あつて」の「あつ」は、ラ行変格活用動詞「あり」の連用形「あり」の促音便で、右記のポイントの①のIVに当たる。したがって、音便を含まないもの形を、すべてひらがなで記すと「ありて」とな

とは、かえってふがいなく見えた。

【設問解説】

問一 助動詞の意味と活用形に関する問題。

◇解法のポイント

- 助動詞の意味→①どんな品詞・活用形に接続しているか。
②どんな活用をするかに注意する。

- 二つ以上の意味を持つ助動詞→文脈から意味を判断する。

a 「たり」という形を持つ助動詞は次の二つである。

- I 完了・存続の意を表す助動詞「たり」。これは連用形に接続し、次のように活用する。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ
	と			たる	たれ	たれ
					たれ	

- II 断定の意を表す助動詞「たり」。これは体言に接続し、次のように活用する。

らる	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
られ						
られ						
らる						
らる						

選択肢の中で「らる」の意味に当たるのは、イ「自発」・オ「受身」・ケ「尊敬」だが、ここは、「一院(=法皇)」という高貴な人物が主語となり、彼が延暦寺の僧たちに命令して平家を「追討なさる」という文脈である。したがって、正解はク「尊敬」。

き	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
(せ)		○	き	し	しか	○

したがって、正解はカ「過去」。

- d 「なれ」という形を持つ助動詞は次の二つである。

- I 断定・存在の意を表す助動詞「なり」。これは体言または活用語の連体形に接続し、次のように活用する。

なり	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	なら	なり	なり	なる	なれ	なれ
	に					

- II 伝聞推定の意を表す助動詞「なり」。これは活用語の終止形(ラ変型の語には連体形)に接続し、次のように活用する。

なり	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
○	(なり)	なり	なる	なれ	なれ	○

波線部aの上にある「申し出だし」は、サ行四段活用動詞「申し出だす」の連用形なので、右のIに該当する。選択肢の中でこの「たり」の意味に当たるのは、ア「完了」だけである。したがって、正解はア「完了」。

b 「らる」という活用を持つ助動詞は、受身・自発・可能・尊敬の意を表す助動詞「らる」だけである。これは四段活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用以外の動詞の未然形に接続し、次のように活用する。

波線部dの上にある「勅命」は体言なので、右のIに該当する。選択肢の中でこの「なり」の意味に当たるのはキ「存在」・ケ「断定」だが、ここは、「勅命である」と訳せる。したがって、正解はケ「断定」。

いる。この問題文の直後の部分で、諸国の寺社が平家に背いて源氏に心を寄せ、源氏追討の院宣も宣言も、すべて平家の命令と思つてしたがわなかつたという記述で卷第六が閉じられ、続く卷第七では、木曾義仲の京都侵攻と平家一門の都落ちが描かれるごとに目的を射た感想といえよう。

【全文解釈】

(養和二年)三月十日、除目が行われて、平家の人々は、ほとんどが昇進なさる。四月十五日、前権少僧都顕真が日吉神社において形式通りに法華経一万部を転説することがあつた。ご結縁のために、後白河法皇も(日吉神社に)お出かけになる。(ところが)何者が申し上げ始めたのだろうか、後白河法皇は、比叡山延暦寺の僧たちにご命令なさつて、平家を追討なさるつもりだと噂されたので、軍兵が内裏に参上して、四方の衛士の詰め所の前を警護する。平氏の一族は、皆六波羅へ大急ぎで集まる。本三位中将重衡卿は、法皇のお迎えに、その軍勢三千余騎で、日吉神社へ参上する。(一方で)比叡山延暦寺でまた噂されたのは、「平家が、比叡山を攻めようとして、数百騎の軍勢を率いて山に登つてくる」と噂されたので、僧たちは皆、東坂本へ降り下つて、「これはどうしたものか」と評議する。比叡山の上と都の中の騒動は普通ではない。(法皇の)お供の公卿や殿上人は顔色が青くなり、北面の者の中には、あまりにも慌て騒いで、黄水を吐く者も多かった。本三位中将重衡卿は、六太の辺りで後白河法皇を迎えて取り申し上げて、(都へ)お帰し申し上げる。(法皇は)「このようではかりあるとしたら、御物詣でなども、今は(私の)お思いのままにはならないのだろうか」とおっしゃつた。実は延暦寺の僧たちが、(法皇の命令によって)平家を追討しようといふこともない。(また)平家が、比叡山を攻めるだろうということもない。これは証拠のないことである。「天魔がひどく荒れたことだ」と(世間の)人は申し上げた。同じ四月二十日、臨時に二十二社へ供物を奉納する。これは飢饉や疫病(を封じる祈願)のためである。

五月二十四日、改元があつて、寿永と号する。その日また、越後国の住人、城四郎助茂を、越後守に任命する。兄の助長が(越後の守になつてすぐ)逝去したために、不吉であるといつて何度も辞退申し上げたが、勅命なのでどうしようもない。(この機会に)助茂を長茂と改名する。

同(年)九月二日、城四郎長茂は、木曾(義仲)追討のために、越後、出羽、会津四郡の武士たちを引率して、合計その軍勢四万余騎で、木曾追討のために信濃国へ出発する。同(月)九日、当(信濃)国の横田河原に陣を張る。木曾(義仲)は依田城にいたが、これを聞いて依田城を出て三千余騎で急ぎ向かう。信濃源氏、井上九郎光盛の計略で、急いで赤旗を七本作つて、三千余騎を七手に分け、あちらの峰、こちらの谷から、赤旗を手に手に差し上げて(平家の軍勢に)近寄せると、城四郎がこれを見て、「ああこの國にも、平家の味方をする人がいたのだなあと(思うと)、勇気付いた」といつて、勇み大声を上げるところに、(源氏軍は)次第に(平家軍に)近くなつたので、合図を決めて、七手が一つになり、一度に鬨の声をどつとあげた。(そして、赤旗を捨て)用意していた白旗をさつと差し上げた。越後の軍勢たちはこれを見て、「敵は何十万騎いるのだろうか。どうしようか」と顔色が青くなり、慌てふためき、ある者は川に追い落とされ、ある者は陥しい所へ追い落とされて、助かる者は少なく、討たれる者が多かった。城四郎が信頼しきっていた越後の山の太郎や、会津の乗丹房などという評判の武士たちは、そこで皆討たれてしまつた。自分自身は負傷し(ながらも)、かろうじて命は助かり、川を伝つて越後国に退却する。

同(年同月の)十六日、都では平家(の人々)はこのことを問題にもなさらない。前右大将宗盛卿が、大納言に復任して、十月三日、内大臣におなりになる。同(月)七日、天皇に任官のお札を申し上げるために宮中に参上する儀式がある。当(平)家の公卿十二人がお供なさる。藏人頭以下の殿上人十六人が先払いをする。東国や北国の中の源氏たちが、蜂の(飛び立つ)ように一斉に蜂起し、今にも都へ攻め上ろうとするのに、このように波が立つのだろくか風が吹くのだろうかも知らない様子で、(平家が)華やかであつたこ

このように騒然とした情勢の中で、清盛は熱病にかかり悶死する。清盛亡き後平家打倒の動きはますます活発になり、平家方は各地に追討軍を派遣するとともに、反乱鎮圧のための祈禱を行つた。

問題文は、このような状況下でも、平家一門の官位^{もんし}がなおも昇進し続いていることを語る場面から始まる。

養和二年（一一八二）三月十日、除目が行われて、平家一門の人々は大部が昇進した。月が変わって四月十五日、後白河法皇が日吉神社で行われる法華経の転読に御幸になつた。この時、いつたい誰が言い出したものか、法皇が比叡山延暦寺の僧たちに、平家追討の命令を下したという噂が立つた。このため、平家方では軍兵に内裏の警護を固めさせた上で、一族が平家の本拠地ともいべき六波羅に集まり、さらには、平重衡が三千騎の軍勢を率いて法皇を迎えて向かうという大騒ぎになつてしまつた。重衡が法皇を迎えて行つたというのは、法皇が比叡山に行くのを阻止するためである。

一方、比叡山は比叡山で、平家が数百騎の軍勢で比叡山を攻めようとしているという噂を聞きつけ、やはり大騒ぎとなつてゐた。しかし、実際のところは、法皇が延暦寺の僧たちに、平家追討を命じたというのも、平家が比叡山を攻めようとしているというのも、まったく事実無根の噂であつた。世間の人々は、この事件について、「天魔が暴れ回つたのだ」と評したというが、ここには、流言がすぐさま騒動に発展するという、清盛亡き後の不安定な世情が反映されていよう。また、この直後に飢饉・疫病を鎮めるために、二十二の格式高い神社に供物を捧げたことが語られているように、この事件の背景には前年以来続いている大飢饉（養和の飢饉）という深刻な社会問題もあつた。なお、この飢饉の惨状については、『方丈記』に詳しい記述がある。このような状況を打開しようとしてか（改元は、天災地変などの凶兆を打開するために行われることが多い）、五月二十四日（史実では二十七日）、改元が行われ、年号は寿永と改められた。改元の同日、この直後に源義仲追討のために信濃国に遣わされる越後国の武士、城四郎助茂が越後守に任じられており、平家の人々がまったく気にもとめぬ様子で、相変わらず華やかに暮らしている様子について、語り手は、かえつてふがいないことに見えたと言つて

れる。実は、助茂は、兄の助長が前年に越後守に任命されてすぐに亡くなつてゐるため、越後守就任は不吉だと何度も辞退したのだが、勅命に逆らうことではできずにこれを受け、この機会に長茂と名を改めた。

九月二日になって、城四郎長茂は、四万騎余りの軍勢を率いて、義仲追討のため信濃国に向かい、九日に到着 横田河原に陣を張つた。この時義仲は依田城にいたが、これを聞いて三千騎余りで城を出て、横田河原に向かつた。この時、源氏方は、信濃源氏である井上九郎光盛の計略によつて、急いで平家方の印である赤旗を七本作り、軍勢を七手に分け、あちらこちらの峰や谷から、それぞれが赤旗を掲げて、平家の軍勢に向かつて押し寄せた。つまり、平家軍の目印である赤旗を掲げて押し寄せることで、敵を油断させようとしたのである。光盛の狙い通り、長茂は赤旗を見て、この国にも平家の味方をする者がいたのだと頼もしく思つて勇み立つたところに、十分に平家軍との距離を縮めた源氏軍は、合図と共に七手に別れた軍勢が一つに集まり、鬨の声を上げるとともに、準備しておいた白旗を差し上げたのであつた。これを見た平家軍は、ようやく計略にはまつたことに気づき、動転のあまり、わずか三千騎余りの源氏軍に対して、敵は何十万騎いるのかと錯覚し、真っ青になつて慌てふためいた挙げ句、ある者は追われて川へ落ち、ある者は陥しい所に落ち、長茂が全幅の信頼を置いていた乗丹坊などという評判の武士をはじめとして、多くの者が討ち死にしてしまつた。長茂自身は、負傷はしたものの、なんとか生き延びて川を伝つて、自國の越後へと逃げ帰つたのであつた。

このように、東国で平家の軍勢が大敗したにもかかわらず、都では、同じ九月十六日に、平宗盛が治承二年（一一七八）に一日辞していた大納言に復任し、引き続いて十月三日には内大臣に昇進、同七日には、一門の公卿を十二人、殿上人を十六人引き連れて任官のお礼を奏上するため参内した。東国や北国の源氏が一齊に蜂起し、今にも都に攻め上ろうとしているというのに、平家の人々がまったく気にもとめぬ様子で、相変わらず華やかに暮らしている様子について、語り手は、かえつてふがいないことに見えたと言つて

だけでは養えない天賦の（天から与えられた、生まれつきの）ものである」というのは、筆者の母親の「文才」に対する考え方に対するすぎず（第10段落）、本文ではこうした考え方は正しいものとはされていない。

オ選択肢前半の「行為と不可分な言語である英語」とは、筆者があげている英語の第一の特徴であり、第4段落の「英語という言葉はアクション（＝行為）に即している」という箇所以降、繰り返し主張されている。後半の「英語では会話ばかりでなく読み書きにおいても身体のリズムとの同調が重要になる」に関しては、読むことについて第11段落で、書くことについては第12段落の「タイプライター」の例で説明されている。したがって、この選択肢は本文の内容に合致しており、正解である。

〔解答〕 古文

- 問一 a ア b ク c 力 d ケ e オ
問二 A ありて B すくなく
問三 1 ウ 4 イ 6 エ
問四 ア
問五 ウ

問六 平家の目印である赤旗を掲げて近寄つて来る軍勢を見て、信濃国にも味方がいたのだと頼もしく思う気持ち。（49字）
問七 平家これをば事ともし給はず（13字）

- 〔配点〕（50点）
問一 2点×5
問二 2点×2
問三 4点×3
問四 4点
問五 6点
問六 8点
問七 6点

【出典】

『平家物語』卷第六「横田河原合戦」。

『平家物語』は、鎌倉前期の軍記物語である。作者・成立年とともに諸説あるが、「徒然草」には、十三世紀初頭の後鳥羽院の時代に、信濃前司行長なる人物が本文を作り、生仏という盲目の法師に語らせたという伝承が記されている。

平盛を中心とする平家一門の興隆と滅亡を、治承四年（一一八〇）から元暦元年（一一八四）の間にくり広げられた源平の合戦の描写を軸として、仏教的な無常観を背景に流麗な和漢混交文で描いている。

『平家物語』には多くの伝本があり、卷数や本文の内容、構成がそれぞれ異なるが、もつとも広く流布しているのは、十二巻で、巻末に「灌頂卷」を添えたものである。その構成は、卷第一～卷第六で平家の榮華を、卷第七～卷第十二で平家の滅亡に至る過程を、そして「灌頂卷」では、清盛の娘で高倉天皇の中宮となり、安徳天皇を生んだ建礼門院徳子の、平家滅亡後の大原遁世から死去するまでのを記している。琵琶の演奏とともに語る「平曲」として広まり、謡曲や淨瑠璃、歌舞伎にも取り入れられ、後世の文学に大きな影響を与えた。

本文は、「新編日本古典文学全集」『平家物語』（小学館刊）によつたが、読解の便宜のため、表記等を改めた箇所がある。

【本文解説】

平盛の父・忠盛が昇殿を許されたことによって宮廷社会に地盤を築いた平家は、清盛の時代になつて大きく飛躍し、政権を掌握して栄華を極めるが、平家一門はやがて、俗に「平家にあらずんば人にあらず」と言われるような悪行の限りを尽くすようになる。このようなふるまいは人々の反発を招き、やがて平家打倒の計画を生むことになる。これらの多くは事前に発覚し、失敗に終わつたが、源頼政が奉じた以仁王の令旨（＝皇族が出す命令書）が諸国の源氏の決起を促し、源頼朝や源義仲らの挙兵へとつながつた。

た、言いあらわしかたは「その言語を自分のものとして使う人たち全員にとっての、暗黙の了解というもののなかに隠れている」。こうした内容をもとに、傍線部の「こういうもの」の内容をまとめるところになる。

a 個々の言語にはその言語特有の世界のとらえかた、言いあらわしかたがあり、それはその言語を母語とする人たちの間で暗黙の了解として共に有されている。

それでは、「外国語の学習者は、こういうもの（＝a）を相手にしなくてはいけない」とはどういうことか。aにもとづいて考えれば、日本語には日本語特有の世界のとらえかた、言いあらわしかたがあり、英語には英語特有のそれがあるということになる。だとすれば、たとえば日本語を母語としている者が英語を学習しようとするとき、たとえば日本語を母語としている者が英語を学習しようとすれば、それぞれの言語ごとの世界のとらえかた、言いあらわしかたの違いといつた問題を意識せざるを得なくなるのである。これをまとめると、次のようになる。

b 外国語を学習する者は、自分の母語特有の世界のとらえかた、言いあらわしかた（世界を言語でどう認識するかということ）と、学習する外国语のそれとの違いといつた問題に、直面することになる。

英語と日本語という「言語の二重性」のなかで育った筆者は、右のようないろいろな問題を絶えず実感する環境にあつたと言える。だからこそ筆者は、英語と日本語の違いといった問題について自覺的になつたのだろう。

以上 a・b の内容が的確にまとめられているのが正解となる。

他の選択肢についても検討しておこう。

ア 「外国語を習得しようとすると、その外国語によって育まれた歴史や文化についても理解を深めていかなければならぬ」という内容が間違っている。傍線部で問題にされていることは、〈世界をどうとらえてどのよう

に言いあらわすか〉という、その外国語に固有の世界観についてである。

イ これも世界観の問題を「社会的規範」だけに限定している点が間違っている。また、そうした規範が「暗黙の了解」であることは事実だとしても、それを「暗黙の了解のよくなものでしかない」などと否定的に捉えている点で、傍線部の趣旨に即していない。

エ 「あらゆる言語に共通する世界のとらえかた」が、言語によつて世界のとらえかたが違うとする本文の論旨と矛盾している。

オ 「そうしたこと（＝外國語に特有の思考方法）が習得できる者は現実にはほとんどいない」が間違い。外國語の習得はたしかに難しいことがかもしれないが、筆者はここで、それを習得することがほとんどの人にとつて不可能だということを言おうとしているわけではない。

問七

個々の選択肢について、本文を参考しながら、順に検討していこう。

ア 「そこ（＝敗戦後の占領下の日本）ではすべての日本人が被占領民という屈辱感を抱いていた」が、本文に述べられていない内容。日本が占領下に置かれていたことは事実だが、そのときの日本人が「屈辱感」を抱いていたかどうかといつた話題は、本文では取り上げられていない。

イ 選択肢前半と後半とのつながり（因果関係）がおかしい。たしかに筆者は「日本語には言葉が人それぞれの個人的な体験と結びつくことによる直接性が常にある」と述べているが（第7段落冒頭）、それは筆者が英語との比較において感じたことであり、「母親の言葉が個性的だったこと」が原因となつて筆者がそうしたことを感じたわけではない。

ウ 「そのこと（＝戦後社会の劇的な転換）は幼い筆者にも少なからぬ衝撃を与えた」が間違っている。筆者は、敗戦によって生じた「日常の二重性」を「二重性があるならあつたでいっこうに構わない、どちらでもいい」と、「子供の気楽さ」で受け入れている（第3段落）。

エ 「日本語で文章を書くためには特別な才能が必要であり、それは努力

また「本文読解のポイント」では、第11・12段落で説明されている英語の読み書きとリズムの関係についても取り上げたが、これは「実用」性と直接には関係はないので、解答に盛り込む必要はない。

問五 傍線部には母親が「読解力の大切さを強調していた」ということが述べられているが、選択肢を見ると、問われているのは、「僕（＝筆者）」がそのことをどのように捉えているかということだとわかる。「日本語をめぐる母親からの教え」について説明されているのは第8～10段落なので、この部分の内容を確認していこう。

第8段落には、母親の教えは「きわめて主観的」で、「自分が思つたこと」や「そのときふと頭に浮かんだこと」などを「とりとめなく、一貫性もないままに」喋つたものだったと述べられている（→a）。彼女の教えは「いいとき」もあつたが、「反面教師」（＝見習つてはいけないもの、真似てはいけないもの）として筆者に作用することも多かつたのである。第9段落では、「読解力の大切さを強調していた」母親の言葉が具体的に書かれているが、これを読むと、母親が「読解力」というものに対しても個人的な思い入れをもつていたらしいということがうかがえる（→c）。また、こうした母親の言葉は筆者にとって「呪文」のように感じられるものだつたが、筆者は、こうした「読解力の呪文」は「いまだも僕のどこかで残響している」と述べている（→d）。

第10段落では、母親は「いつもおなじ忠告を繰り返していた」だけで、彼女の言葉に「全体性」や「見とおし」はなかつたことが説明されている（→b）。

以上の内容を整理してみよう。

- a 母親の言葉は、主観的で、とりとめもなく、一貫性のないものだつた。
- b また、全体性のようなものも、見とおしもなかつた。

c 母親は「読解力」というものに強い個人的な思い入れをもつっているようだつた。

d そんな母親の言葉は「呪文」のようなもので、それはいまでも筆者の心のどこかで響きつづけている。

以上の内容に矛盾していない選択肢はイであり、これが正解である。他の選択肢についても検討しておこう。

ア 母親の教えを「日本の伝統的な価値観を何の疑いもなく押しつけるもの」としている点が間違い。母親の教えは彼女自身の思いつきであり、そのような価値観にもとづくものではない。

ウ 母親の言葉を筆者が「短絡的」だと感じていたというのも、本文に述べられていない内容である。

エ 筆者が母親の言葉に「反発」し、「かえつて読書と疎遠になつてしまつた」というようなことは、本文に述べられていない。

オ 子供の頃の筆者が母親の言葉に「反発していた」といったことは、本文に述べられていない。また、「成長するにつれてその（＝母親の言葉の）重要性が実感され」たというのも、本文からは確定できない内容である。

問六 傍線部は本文末にあるが、それは最終段落の内容を踏まえて述べられている。まず、最終段落の内容を整理しておこう。

段落冒頭に「自分のものとして使う言語によってその人の思考がきまつていく」という考えが示されており、最終段落全体はそれを説明したものであると言える。この考えは「その言語が世界をどのようにとらえ、それをどんなふうに言いあらわす能力を持っているのか」という問題が、そつくりそのまま、その言語を使う人の世界のとらえかたと言いあらわしかたになっていく」と説明される。そして、こうした言語による世界のとらえか

が二重性をさほど問題なく受け入れていたのは、「父親が英語、母親が日本語」という環境のなかで「言葉の習得能力」をごく普通に働かせていたからにすぎないと述べられている。このことと、筆者が子供だから順応できたという選択肢の説明とは、ぴたり重なり合うものではない。

ウ 「社会の一重性と言語の一重性とは、似たような問題に見えて実は別種の問題にすぎなかった」が明らかに間違い。「日常の一重性」など「あらゆること」の「根底」には、「言葉の一重性」があつたのである（第3段落）。

オ 「日常生活の一重性はあくまで大人社会の問題であり、子供であつた『僕』の生活に影響を及ぼすようなものではなかつた」が、本文に述べられていない内容である。

問四 筆者にとって「英語のどういうところが『実用的』だったのか」を説明する問題。本文で触れられている英語の特徴については「本文読解のポイント」で整理したとおりだが、その内容をすべて制限字数内にまとめることはできない。この設問で問われているのは、筆者が「実用的」と感じた英語の特徴であるから、その点に解答の内容を絞り込んでいく必要がある。

英語の特徴について説明されている部分をたどっていくと、第6段落の末尾に「だから子供の僕にとって英語は使いやすい言葉だつた」という表現がある。「使いやすい」＝「実用的」と考えれば、この部分が解答と大きく関わっていると考えられる。

では、英語のどういうところが「使いやすい」のか。その直前の部分を見ると、英語には「抽象性をおびたことや、間接性のあることなどについて、驚くべき語りやすさがある」（→d）と述べられている。これが、英語が使いやすく「実用的」であることの理由の一つである。

さらにその直前にある「言葉の汎用性がきわめて高い」（→c）という

ことも、英語が使いやすく「実用的」であることの理由である。「汎用」とは、「広くさまざまな方面に用いることができる」という意味。つまり、英語は応用力を持った言語だといふうことなのだろう。

では、なぜ英語には右のような使いやすさがあるのだろうか。その理由として、第5段落の冒頭には、「**具体的な事実関係に即して、そのことだけについて述べる言葉**、という性格が英語には強くある」（→a）ということがあげられている。筆者は「ここに、根源的なと言つていいほどの共感を覚えた」と述べているのだから、これが、筆者にとって英語が「実用的」だと感じられたことの大きな理由になつてゐるといえるだろう。

さらに第5段落には、「事実関係だけを述べる」英語においては、「相手は単なる相手でしかなくな」り、「相手の属性をすべて削ぎ落すこと」ができる（→b）と述べられている。【本文解説】の[2]でも説明した通り、これは、相手がどういう人物かという「属性」に合わせて、敬語を使うなど言葉を変えなければならない日本語に対し、英語では相手の「属性」に関係なく同じ言葉を使って話すことができるということである。もちろんこうしたことでも、英語が「実用的」だと感じられることの理由だといえるだろう。

以上の内容を文脈に即して整理し直してみよう。

- a 英語は具体的な事実関係に即した言葉である。
- b 相手の属性をすべて削ぎ落とすことができる。
- c 言葉の汎用性がきわめて高い。
- d 抽象性や間接性のある事柄が容易に表現できる。

これらの内容を制限字数内にまとめればよい。本文には「水平面での広がりは大きく滑らかとなる」「世界を広く見渡すことが出来る」などの感覚的・比喩的表現も多用されているが、そうした表現に頼らず、できるだけわかりやすい答えを書くことを心がけてほしい。

う意味の言葉である「黙読」が正解になる。母親の勧める日本語の読書が「黙読」で、英語の文章を読む際には「黙読」よりも「音読」がいい、という論旨になるので、文脈的にも違和感がない。

B 「森羅」で始まる四字熟語は「森羅万象」。この言葉は、(この世界に存在するすべてのもの)という意味である。こうした四字熟語などは、意味も含めてしっかりと覚えておきたい。

問三 傍線部の「こうしたことすべて」とは、端的にいえば、直前の「日常の二重性」を指している。敗戦によって「戦前から続いていた日本」の上に「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」という性質の日本」が覆いかぶさってきたが、それは、「日本そのものが二重になった」ということだつた（第1段落）。しかも筆者の場合、父親が「GHQ民生局の現地雇いの職員」となったせいで、日本での日常生活のなかに「オキュパイ（＝占領）する側」の要素が大きく入りこんできたのである（第2段落）。ところが子供の頃の筆者にとっては、そうした「日常の二重性」も「なんともなかつた」。これは、筆者が「二重性があるならあつたでいっこうに構わない、どちらでもいい」というふうに、「二重性」を「気楽」に受け入れていたということである。この設問で問われているのは、筆者がそのようにして「日常の二重性」を「ぐく自然に受け入れることができていた、その理由である。

傍線部の少し後で、筆者は、「あらゆることの根底にあったのは言葉の二重性」であり、「他のことすべてがそれ（＝言葉の二重性）に準じた」と述べている。つまり、日常のすべてのことの前提には「言葉の二重性」があつたのである（→a）。

そして筆者は、「父親が英語、母親が日本語」という環境で育つたため、そうした「言語の二重性」を子供の頃から「身近」なものにしていた（第1段落）。つまり、子供時代の筆者は、「言葉の二重性」を問題なく受け入れていたため、敗戦によって生じた「日常の二重性」も問題なく受け入れ

ることができたのである（→b）。

さらに、第4段落には、筆者がどのように「言葉の二重性」を受容していたかが書かれている。筆者は、二つの言語の「どちらでもよかつた」のだが、そこにはやはり「軸足」があった。「二重性」を「対等」なものとして受け入れていた筆者ではあつたが（第3段落）、軸足になっていたのは英語の方であり、英語が筆者の「核心に、より深く届いていた」のである（→c）。

以上の内容を整理すると、解答のポイントは次のようになる。

- a 日常の二重性の根底に言葉の二重性があつた。
b そうした言葉の二重性を、問題なく受け入れていた。
c 日本語も英語も対等なものとして受け入れていたが、軸足は英語のほうにあつた。

これらのポイントが的確にまとめられている選択肢はエであり、これが正解となる。

他の選択肢についても検討しておこう。

ア 「言語の二重性に向き合いつつ生きるしかなかつた」というふうに、「言語の二重性」を否定的に捉えている点がよくない。筆者にとってそれは、むしろ「ぐく自然で当然のものであつたのだ。さらに「社会の二重性は、むしろ歓迎すべきことのように感じられた」も、本文から読み取れない内容である。そもそも選択肢全体が（言語の二重性は強制的に受容させられたが、社会の二重性は積極的に受容した）という趣旨になっているが、そうしたことは本文に述べられていない。

イ まず「多くの大人がそれ（＝社会の二重性）に翻弄されていた」ということが、本文から明確には読み取れない。また、「子供であり言語の二重性にもすぐに順応できたため、社会に存在した二重性についてもさほど深刻だとは感じなかつた」というのも、正確な説明ではない。筆者

は、「森羅万象」（＝ここでは、この世界に存在するすべてのものの総体、といった意味）を最小単位にまで切り分けて、それらを「単語」として表現するが、その切り分け方は、言語によって異なる。そして、個々の言語がどう世界をとらえ、切り分けるかは、その言語を母語として使う人たちの間で「暗黙の了解」になっているのだ。

通常、一つの言語のみを母語として身につけた者は、その言語の世界のとらえかたを自明のものとしてしまい、右のような問題を意識しにくい。しかし、生まれたときから「言語の二重性」という環境のなかで育った筆者は、子供の頃からこの問題に直面してきたといえる。「外国语の学習者は、こういうものを相手にしなくてはいけない」という本文末の言葉は、こうした筆者の経験にもとづく実感を言いあらわしたものだと考えられる。

〔本文読解のポイント〕

本文における中心的な話題は、英語と日本語の違いである。父親の英語と母親の日本語という「言語の二重性」のなかで生まれ育った筆者が、幼い頃に二つの言語をどう捉えていたのかをしっかりと読み取りたい。右の解説では、本文の流れに即して説明してきたが、あらためて筆者が二つの言語の違いをどのように考えているかを整理しなおしてみよう。

英語

- ・抽象性や間接性のあることを語りやすい。
- ・アクセションに即している。
- ・読み、書き、喋る際のリズムが重要である。

日本語

- ・個人的な体験と結びつく直接性が常にある。
- ・その直接性によって、言葉の汎用性が邪魔される。
- ・世界は言葉ごとに限定を受け、見とおしが悪くなる。
- ・読むことは默読である。

〔設問解説〕

問一 今回は漢字の訓読みを出題した。訓読みを知つておくことは、漢字の意味を知ることにもつながるので、しっかりと確認しておいてほしい。

a 「削」は、「そ（ぐ）」と読む。「削」には「けず（る）」という訓読みもある。このように訓読みでは、送りがなや文中での意味で読みが変わるものがあるので注意したい。b 「怠」は、「おこた（る）」と読む。これにも「なま（ける）」という別の読みがある。c 「綴」は、「つづ（る）」と読んで、「文字を連ねて、文章を作る」という意味である。

- 問二 空欄に熟語を補う問題。設問にあるヒントだけでなく、空欄前後の文脈も踏まえて答えてほしい。
- A 問われているのは「音読」の対義語。「音読」は〈声に出して読む〉という意味なので、それとは正反対の〈声に出さず、黙って読む〉とい

うした事実に気づき、英語を「使いやすい言葉」として受け入れたのではないかと考えている（第5・6段落）。

一方、子供の頃の筆者にとって日本語は、「言葉が人それぞれの個人的な体験と結びつくことによる直接性」が常にあり、「言葉の汎用性がその直接性によつて、ことあるごとに邪魔される」ものだと感じられた。言葉は個別の体験の表現に限定され、たとえ同様の事実であろうとも、異なつた状況では使えない。そのような日本語では、「世界は言葉ごとに限定を受け」、世界を水平的に広く見渡すことができない。

このように英語と日本語の違いを感じ取つていた筆者にとって、英語は「アクションとその準備のための言葉」だった。父親との会話を例にとれば、「父親のアクションは言葉であり、言葉はそのままアクションだった」つまり、英語の会話においては、「言葉と行為（事実）」はまさに一体化したものだつたのだ。まず信頼すべきは事実を伝える言葉であり、それを裏付けるのが事実に基づく「アクション」だったというのである（第7段落）。

③ 日本語と母親をめぐる思い出（第8～10段落）

一方、幼い筆者が母親から受けた日本語をめぐる教えは、「きわめて主観的なもの」だった。そのとき思ったことをとりとめもなく、命令するかのように喋る母親の言葉は、その時々の状況に即したものでしかなく、一貫性の感じられないものだった。そのなかには、もちろん良いものもあつたが、多くは「反面教師」として筆者に作用した。つまり、見習つてはいけないもの、真似てはいけないものと感じられたというのである（第8段落）。

そうした母親は、ことあるごとに「読解力」が大切だと言い、「本を読め」と筆者に命じた。そこには、本を読むことで「自分で作つていけ」という意味が含まれてもいた。「読解力」ということに限つていえば母親の言葉は一貫していたが、そこには「全体性のようなもの」ではなく、「見とおし」もなかつた。それは「読む」ということだけで完結しており、たとえば、「書く」ということにつながるようなものではなかつたのである（第9・10段落）。

④ 英語におけるアクションとリズム（第11・12段落）

母親の教えにある日本語の「読む」ことが「黙読」であつたのに對して、英語は「音読」すべきものだと、筆者は考えている。英語そのものが「アクション」だからである。したがつて、声を發するというアクションを伴つていたほうが「英語として正しい」ものであり、「のちのち自分のためになる」というのだ。そして、声に出すだけではなく、「身ぶり手ぶりが加わると、さらに好ましい」。しかも、「こうしたアクションは英語のリズムと連結している」。正しいリズムで声を發し、体を動かしながら読んだことは、体が覚えている。読むときだけでなく喋るときでも、それにアクションが同調すれば、内容がより伝わりやすくなる（第11段落）。

さらに英語では、「読む」ことや「喋る」ことばかりでなく「書く」ことにもリズムがかかわる。それを筆者は、父親が「常に打つっていたタイプライターの音とリズム」から感じていた。ちなみにタイプライターとは、パソコンが普及する以前に使われていた英文の印字機械で、アルファベットの記されたキーを押すとそれに直結しているハンマーが紙を打つて印字するという仕組みになつており、一文字打つごとに音がする。慣れた者が打つているとその音は、ある種のリズムになつているようにも感じられるのである。その音は現在から考へると「ご苦労さんなアナログ機械の音」であるが、当時はそれが「アメリカの音」として仕上がつていた。「英語の人」がタイプライターを打つと「その音のリズムは英語のリズム」になる。それは機械で英語の文章を綴つていくときに生じる音ではあるが、「そのリズムは英語の文章が内蔵しているリズム」だったというのである（第12段落）。

⑤ 個々の言語が持つ独自の世界観（最終段落）

「自分のものとして使う言語によつてその人の思考がきまつていく」ということが言われる。「世界をどのようにとらえ、それをどんなふうに言いあらわす」からは、言語によつて異なる。だとすれば、「人の世界のとらえかた」は、その人の使う言語によつて規定されるということになる。言葉

という体験をする。それは、「戦前から続いていた日本」の上に「オキュパイ・ジャパン（占領下の日本）という性質の日本」が覆いかぶさるという形で生じた「二重性」であった（第1段落）。

敗戦によって日本は、アメリカを中心としたGHQ（連合国軍総司令部）の管理下に置かれた。すると、アメリカで生まれ育ち、合衆国の国籍を持つ筆者の父親は、GHQ民生局の「現地雇いの職員」として採用された。当時、一般的日本人は占領される側という立場にあつたが、筆者の日常生活は「オキュパイ（＝占領）する側へと大きく傾いた」のである。生まれた時から、英語と日本語という「言語の二重性」のなかで育つた筆者は、この時期に「日常生活」の面でも「オキュパイする側」と占領される側の、二重の立場に立つことになったのである（第2段落）。

筆者はこのような「二重性」のなかで暮らすことになるが、こうした状況を「二重性があるならあつたでいこうに構わない」と受け止めていた。筆者の中では、占領する側も占領される側も、基本的には「対等のもの」として受け入れられていたのである。そうした感覚の根底には、「言葉の二重性」があつた。「言葉の習得能力」は人間が遺伝的に持つ自然なものであり、それが英語と日本語という二重の言語環境のなかでも「ごく普通に働いた」ことで、「言語の二重性」を混乱もなく簡単に受け入れることができた。そうした筆者にとって、突然生じた「日常の二重性」も難なく受容できるものだつた、というのである（第3段落）。

② 英語と日本語の二重性（第4～7段落）

このように筆者は、幼い頃、英語と日本語の二重性のなかにいたが、そのことで「混乱はしなかった」。ただし、対等ではあっても「軸足」を置く側があつた。筆者にとってそれは英語であつた。それは当時の筆者にとって、英語のほうが「実用的」で「アクション（＝行為）に即している」言葉だつたからであり、また「考える」ために使う言葉が「圧倒的な優位を保つて英語だったから」である。幼い頃の筆者にとって、自らの「核心」に「より深く届く」言葉は、英語だったのである（第4段落）。

子供だった自分にとって英語が優位なものとなっていた理由について、筆者は、英語は「具体的な事実関係に即して、そのことだけについて述べる言葉」であり、そこに根源的な「共感を覚えた」のではないかと考察する。事実関係だけを述べるという特徴は、相手が誰であろうが同じ事柄であれば表現を変える必要がないということになる。すなわち、「相手の属性をすべて削ぎ落とすことが自動的に可能」になるのだ。これはどういうことだろうか。

たとえば、「〇〇が言った」という表現を考えた場合、日本語では「〇〇が誰であるのかに応じて表現を変えなければならない。相手が友だちであれば「あいつが言った」でよいが、先生であれば「先生がおっしゃった」としなければならない。これは、友だちか先生かという相手の「属性」によつて、言葉を変えなければならないということだ。しかし、英語では基本的にそのような言いいかえをする必要はない。おそらく筆者は、このような違いを言つているのだろう。

英語では、同じ事実は同じ言葉で表現すればよいのだから、事実にだけ即して喋ればよい。こうした表現の心地よさが自分の「アクションのしやすさ」にもつながつたのだと、筆者は子供の頃の自分を振り返っている。相手との間にあつた「上下」方向の関係性を考慮する必要がないため、表現の世界には「水平さだけが残る」。事実にのみ即した言葉は「アクション」と直結し、その「アクションに際して」、「上下へのぶれ」を考える必要がないぶん、「水平面での広がりは大きく滑らかとなる」。そして、「世界を広く見渡すことが出来る」というのだ。

また、同じ事柄には同じ言葉を使えばよいということは、一つの言葉の「汎用性」（＝広く多方面に用いることが出来るという性質）がきわめて高いことになる。すると、個別の具体的な事例を離れた「抽象性をおびたこと」や、直接的な事実を離れた「間接性のあること」などについて、「驚くべき語りやすさ」が生じる。そして筆者は、当時の自分が「子供だからこそ」そ

工 現代の若者が「自己について考え悩むということ」を「ほとんどしないくなってしまった」というのが誤り。若者たちが「自分にはなにもない」とか「自分を根拠づけるリアルな拠り所が何もない」とかいった思いを抱き（第17・18段落）、「適応」や「不適応」といったことを繰り返しているのは（最終段落）、もちろん「自己」とは何かといった問題について考え悩んでいるからである。

オ 若者が「一人前」意識を得にくくなっていることの背景に「自立」の問題があるという趣旨の選択肢だが、そうしたことは本文には述べられていない。「自立」とは「自分の力で判断したり生活をしていったりすること」という意味だが、現代の若者が「一人前」意識を持ちにくくなっている理由は、問六でも確認したとおり、産業構造の変化にあるのであり、「自立」ができなくなつたからというわけではない。かりに「自立」という言葉を〈実用的スキルを身につけること〉という意味にとつたとしても、現代の若者がそうしたことできなくなつたのは親の「過保護」のせいだというのは間違いである。

〔三〕 現代文 【解答】

問一 a そ b おこた c つづ
問二 A 黙読 B 万象
問三 工
問四

具体的な事実関係に即しており、対話の相手の属性が削ぎ落とされるため、言葉の汎用性が高く、抽象性や間接性のある事柄も容易に表現できるところ。（69字）

問五 イ
問六 ウ
問七 オ

【配点】（50点）

問一 2点×3 問一 2点×2 問三 7点 問四 12点
問五 7点 問六 7点 問七 7点

【出典】

片岡義男『言葉を生きる』（二〇一二年 岩波書店）による。

片岡義男（かたおか・よしお）は、一九四〇年、東京生まれの小説家、翻訳家、エッセイスト、写真家。日系アメリカ人の父と日本人の母との間に生まれ、本文にあるように、家庭内では日本語と英語が使われるという環境で育つた。早稲田大学在学中に翻訳の仕事を始め、卒業後は小説やエッセイの執筆に携わる。一九七〇年代には都会の若者の風俗を描いた小説が人気を博し、その後、多くの作品が映画化されるなどして流行作家となつた。代表作には、『スローなズギにしてくれ』『彼のオートバイ、彼女の島』『メイン・テーマ』などがある。

【本文解説】

本文は、日本語と英語という二重言語の環境（いわゆるバイリンガル環境）で育つた筆者が、自らの少年期の言語意識を振り返り、英語と日本語の違いを考察した文章である。言語学者などによる比較言語論のような学問的な実証性や客觀性を欠く部分はあるが、実体験した者だけが感じ取ることができる両言語の感覚的な違いが描き出されている。本文は、十三の形式段落で構成されているが、できれば段落番号を振つてから、この解説を読んでほしい。

① 敗戦によって生じた日常の二重性（第1～3段落）

日系アメリカ人の父と日本人の母との間に生まれた筆者は、「父親が英語、母親が日本語」という「言語の二重性」のなかで育つた。そして、アジア太平洋戦争の敗戦を迎えると、幼かつた筆者は「日本そのものが二重」になる

これらの内容を制限字数内にまとめれば正解になるが、ここで注意してほしいのは、②だけではなく①もきちんと答えるということである。そもそも「一人前」意識とはどのようにして獲得するものだったのかということ（＝①）を明らかにしておかないと、なぜ現代の若者にとって「一人前」意識の獲得が難しいことなのかということ（＝②）は説明できない。

記述問題では、すじの通つた完結性のある解答を書くということを心がけてほしい。

問七 傍線部には「アイデンティティ」という言葉があるが、これは、（自己の存在証明）とか（自分が自分である証）とかいった意味をもつ言葉である。

現代日本の若者は、そうした「アイデンティティ」を求める過程のなかで、あるときには社会や学校にそれなりに「適応」し、あるときには「適応」できずに苦しんだりする。そうしたことを繰り返しているさまは、あたかもゲームのようである。——筆者は傍線部を含む部分で、こんなことを言おうとしているのだろう。

そして設問で要求されているのは、「適応」しているときの子どもや若者の様子を示した表現を抜き出せということである。そこで、若者が「適応」したりしなかつたりするという話題が述べられている箇所はないかと探してみると、第18段落（斎藤環の文章を引用した部分）がそれに該当するとのわかる。この部分には、「適応」しているときの若者は「さまざまな対象に器用に同一化できる」ようになっているが、それに失敗して「適応」ができなくなると、たとえば「ひきこもり」といったかたちで「全面撤退」することを余儀なくされるということが述べられている。

ここでは「適応」できているときの若者の様子が「比喩的に」言い表されている言葉を抜き出せと指示されているのだから、「さまざまな対象に器用に同一化できる」ということが「比喩的に」言い換えられている箇所を探せばよい。こう考えれば、引用文の最初の一文にある「カメレオン的な多様さ」（10字）という表現が見つかるだろう。「適応」できているとき

の若者は、あたかもカメレオンが周囲の環境に合わせて体の色を変えているように「さまざまな対象に器用に同一化」して、「アイデンティティ」を確保しているというのである。

問八 一つ一つの選択肢を本文と丁寧に照合し、消去法も使って正解を選ぶようにしてみよう。

ア 「学校で教えられた実用的な知識」というのが誤り。学校で主に教えられるものは「実用的」なスキルなどではないということが、第14・15段落で述べられている。

イ 選択肢前半と後半の因果関係が逆になつていて、筆者は、若者たちの持つ「自分にはなにもない」という感覚は「子ども期の引き延ばし」という状況のなかで生じたものだとし、そうした状況の生じた「要因」として、「脱社会化」を含む四つのことをあげている。つまり、「脱社会化」が原因となって、「自分にはなにもない」という感覚が生まれたのである。ところがこの選択肢では、「自分にはなにもない」という感覚が原因となつて「脱社会化」が生じたという順序になつていてのだ。

ウ 「現代の若者は確固としたアイデンティティを持ちにくくなつていて」ということは、本文③の部分（第17段落以降）で繰り返し述べられている。そして筆者は、そうしたことが生じた「要因」には、「子ども期」つまり「思春期」の「引き延ばし」という現象があると指摘する（第2段落冒頭）。では、なぜ思春期は長くなるのか。それは、第1段落の最後にあるように、思春期が「大人社会のシステムや大人たちの時代的な共通了解によって作られる」という面を持つていてからである。この選択肢は以上の内容に合致しており、これが正解となる。現代日本では、「思春期は延長されてもよい」ということが大人たちの間で「共通了解」になつており、そうして生じた長い思春期のなかで、若者たちは「自分を根拠づけるリアルな拠り所が何もない」（第18段落）というように、アイデンティティの問題に悩み続けることになるのである。

が、空欄を含む段落では述べられているのである。

D 空欄を含む段落の最初の一文には、現代の大学生の多くは「自分からほんとうに『勉強』に身をあずける気などない」と述べられている。つまり、彼らの多くは、「勉強」に仕方なく「参加している」のである。したがって、空欄にはイ「消極的」を入れればよい。

問四 慣用的な表現の意味を答える知識問題である。

X 「論を俟たない」とは、〈議論をするまでもない、論ずるまでもなく明白である〉という意味。したがって、正解はア「言うまでもない」である。「論を俟つまでもない」といった言い方もある。

Y 傍線部を単語に分けると、「けだし」+「むべ」+「なる」+「かな」となる。ここで重要な単語は「むべ」。これは、漢字では「宜」と書き、「うべ」とも読む。意味は（もつともである、本当に、なるほど）など。そして「むべなるかな」という慣用表現は、この「むべ」に、断定の助動詞「なり」と詠嘆の終助詞「かな」が付いたもの。したがって（もつともなことであるな）という意味になる。正解はウである。なお「けだし」は漢字では「蓋し」と書き、（まさしく、本当に、たしかに）といつた意味である。

問五 「本文読解のポイント」でも説明したとおり、この問題に答えるためには、本文全体の論の流れや構造に着目するということが必要である。本文②の部分（第2～16段落）で筆者は、「子ども期の引き延ばし」という現象が生じた要因を、四つ挙げている。そして、空欄E・Fを含む第19段落では、それらの四つの要因のことをもう一度まとめているのだ。つまり、空欄の前後にある「第一に」「第二に」「第三に」「第四に」という表現は、本文②の(i)～(iv)にそれぞれ対応しているのである。

したがって、まず空欄Eには、(i)の内容を集約的に表現した言葉を入れればよい。設問には「単語」を抜き出せとあるのだから、正解は、第2段

落にある「豊かさ」である。

そして、空欄Fには、(iii)の内容に関連する単語が入る。「家庭環境の脱社会化」を生じさせた原因だというのだから、それはもちろん、第11段落冒頭にある「少子化」である。

問六 これも右の問五と同様、本文全体の論の流れや構造に着目する。傍線

部は「子ども期の引き延ばし」という現象を生じさせた「第二の」要因なのだから、解答に当たる内容は、本文②の(ii)の部分（第2段落末～第9段落）に述べられているということがわかるだろう。そこでこの部分の内容を簡略にまとめてみると、次のようになる。

・第一次産業や第二次産業が主流だった時代には、若者は、「モノ」を相手にして何かを作るという行為を通じて、「力」や「技術」を習得し、「一人前」意識を身につけることができた。

←

・しかし、産業構造が高度化して第三次産業が中心となつた現代社会においては、「人の心」というつかみ所のはつきりしないものを相手にする労働が主流になっているため、若者は、かつてのように「一人前」意識を身につけることが困難になってしまった。

以上の内容を、設問の問い合わせに対応する形式でまとめ直すと、次のようになる。

- ① 「一人前」意識を持つには実用的な技術の習得が必要であり、それはモノを相手にする労働によって可能になる。
- ② しかし、産業構造が高度化した現代では、人というあいまいな存在を相手にする労働が主流となつていているため、実用的な技術が習得されにくい。

までいる若者が増加しているということは事実なのである。

【本文読解のポイント】

現代文の読解において重要なのは、**本文全体をひとつのまとまつたものと捉え、その構造を意識する**ということである。

今回の本文で筆者は、「子ども期の引き延ばし」という問題を取り上げており、その要因として四つの問題を指摘している。そして、その四つの要因について第2～16段落で説明し、第19段落でそれらをもう一度まとめている。問五や問六といった設問に答えるためには、こうした本文全体の構造をつかむことが必要なのである。

【設問解説】

問一 漢字の書き取り問題である。漢字を覚えるときには、その字がどういふ意味をもつてゐるのかと、いふことも確認するようにしよう。

aは〈細かい、規模が小さい〉という意味の「零細」。〔零細企業〕といつた言葉をニュースなどで見ることも多いだろう。bは〈弟子〉という意味の「徒弟」。親方から弟子へと技術を受け継いでいく制度のことを、「徒弟制度」という。c「克服」は、〈努力して困難にうちかつ〉という意味である。d「浮遊」は、〈安定せず、ふわふわと漂う〉という意味である。

問二 慣用表現の一部を空欄に補う問題。「微に入り」で始まる言葉には、「微に入り細をうがつ」という慣用句があるので、正解は「細」である。「微に入り細をうがつ」とは、〈細かい点にまで気を配る〉といった意味。「うがつ」は漢字では「穿つ」と書き、〈穴を開ける、突つつく、物事の見えにくいところや細かいところなどを鋭く突く〉などの意味をもつ言葉である。

問三 こうした空欄補充問題では、空欄前後の文脈だけでなく、選択肢の語の意味・用法なども考慮し、意味的にも語感的にも不自然ではない言葉を空欄に補うようにしよう。

A 「○○的には十分成長をとげている個体」を「社会的」には「子ども」と見なす、という文脈。したがって、「社会的」と「対」になるような言葉を選べばよい。そのため、オ「社会的」はまず除外される。また、人間が〈抽象的に成長する〉とか〈消極的に成長する〉とか〈能動的に成長する〉とかいった表現は不自然なので、ア～ウも正解にはならない。正解は、残ったエ「肉体的」。現代日本の若者は、教育課程が引き延ばされているため、身体の大きさといった肉体的な面で十分に成長した年齢になつても、「社会」的な立場や地位といった面では「子ども」と見なされてしまうということである。

B モノ作りのスキル（＝技術）を身につけた若者は、「一人前」の「大人」と見なされるようになる。それは、若者が「○○的な成長」をとげたということだ。では、どんな「成長」なのか。もちろん、単に「肉体的に成長した」ということではない。また、〈抽象的に成長する〉とか〈消極的に成長する〉とかいった言い方も、表現として不自然である。そして、「一人前」になることは周囲から認められることでもある。ということを考えれば、オ「社会的」が正解として適切だとわかるだろ。実際、本文では、「一人前」になり「大人」になることは「社会」に入っていくことだという趣旨のことが述べられている（最終段落など）。

C 現代の高等教育において教えられているものはどういうものかを考える。空欄の少し前に、教育課程のなかでは「実用的スキル」がなかなか身につかないという趣旨のことが述べられているから、空欄には「実用的」と反対の意味になるような言葉が入るということがわかる。したがって、正解はア「抽象的」である。高等教育で学ぶことは、サラリーマンになるための具体的で実用的な知識には結びつきにくいということ

それに対しても、現代は、サービス業に代表される第三次産業を中心になつてゐる時代である。そこでは、「モノ」を直接の相手とする仕事よりも「人」を相手とする「仕事が主流となつており、とくに「人の心」をつかむ」ことが要求される仕事が多くなっている（第5・6段落）。

しかし、「人の心」ほどつかみ所のはつきりしないものはない。そのため現代の若い労働者は、「自分の労働そのものに対する不安」を感じることが多くなってしまう。だから現代の若者は、仕事をすることを通じて「一人前」意識を獲得するということが困難になつているのだ（第7～9段落）。

(iii) 少子化（第10～12段落）

次に筆者があげているのは、「少子化」によって子どもたちが社会性を身につけにくくなっているという問題である。

かつては、家庭のなかに数人の兄弟姉妹がいるということが多かった。そうした家庭においては、上の子は、下の子のめんどうをみたりすることを通じて一種の責任意識を身につけることができたし、下の子は、上の子の姿を自分の将来の姿と重ね合わせたりすることができた。また、兄弟姉妹は、互いの間の葛藤の克服といった経験を通して、「社会的自我を鍛えること」もできたのである（第11段落）。

しかし現代の家族の場合は、子どもは「一人っ子か、せいぜい二人っ子」ということが多い。右に見たように、兄弟姉妹の関係というのは社会的な人間関係のミニチュアのようなものだから、「一人っ子」や「二人っ子」は、社会性を身につける機会を持ちにくいということになる。こうした事情も、現代日本の若者を「大人」と成長させることの障害になつていているというのが、筆者の意見であろう（第12段落）。

(iv) 高等教育の期間の延長（第13～16段落）

さらに筆者は、現代日本における「子ども期の引き延ばし」の要因として、高等教育の期間がいたずらに長くなっているということをあげ、しかも

多くの若者がその期間中にアイデンティティを確立することができずにいるという問題を指摘している。

現代の若者は、義務教育を終えたのち、かなり長い高等教育期間を経てから「大人」になる場合が多い。ところが、その長い教育課程のなかで教わることは、「サラリーマン的なサービス仕事に必要な実用的スキル」とはさほど関係のないものに感じられることが多い（第14段落）。そのため多くの学生たちは、学校で学ぶことに充実感を持てずにいる。彼らは、「人生の修業期をいつまでも『子ども』として留め置く」という現在の社会システム」をとりあえず受け入れて、長い高等教育期間をただ時間を費やすようにして過ごしているにすぎないのだ（第15段落）。こうしたこともあるって、現代の若者は、思うようにアイデンティティを確立できず、自己を持て余すといったことになるのである（第16段落）。

[3] 現代日本の若者は、「大人」というイメージをわがものにすることが困難になつていて（第17～最終段落）

筆者は、精神科医の斎藤環の言葉を引用しながら、いまの三十代以下の人たちの心のなかには「自分にはなにもない」という世代感覚」や、「自分を根拠づけるリアルな拠り所が何もない」という確信」があると述べる（第17・18段落）。そして第19段落で、若者たちのなかにそうした感覚が生じることになった要因を、あらためてまとめ直す。その要因とは右の[2]の(i)～(iv)なのである。そして筆者は、この四つの要因は「共犯関係」（＝ここでは、互いに影響を与え合い状況をより悪化させていくような関係のこと）にあるということを指摘している（第20段落）。

最終段落で筆者は、右の四つの要因のなかでもとくに(iv)は現代の親たちによつて作られた部分が大きいということを指摘している（これと同様の指摘は第1段落末にもあった）。親たちが現代の社会システムを作ってきたことは自身は、「非難すべきことではない」。しかし、その結果として「社会への突破口を見出せず、なかなか「大人」というイメージをわがものにできない」

若者は、どのような「大人」にどのようにしてなればよいのか、わからないままである。そんな若者の悩みの背景にはどんな社会状況があるのかといったことを、筆者は考察しようとしているのだろう。

以上のことを見たうえで、本文を見ていく。なお、本文は全部で二十一の形式段落から成っているが（斎藤環の文章の引用も独立した一つの段落と数える）、できれば各段落に番号を振つてから、この解説を読んでみてほしい。

① 現代日本の若者は、長い思春期・子ども期を生きなければならなくなつていてる（第1段落）

「思春期」とは、子どもが大人へと変化していく過渡期のことである。そして、それは「社会のあり方しだいで短くもなれば引き延ばされもする」。ちょっと考えてみればわかると思うが、近代以前の伝統的・社会では、思春期というものがあったとしても、それはきわめて短かった。たとえばかつての日本では、武家社会の男の子は十代前半になると元服という儀式を経て、大人と見なされるようになる。そして一般に、男性も女性も多くの者が、十代のうちに結婚していた。つまり、かつての社会においては、人はごく短い思春期を経るだけで、まもなく大人になつていたのである。

これに対して現代の日本では、一般に中学生になるあたりから思春期が始まるとされ、それは、人によつて違いはあるものの、かなりのあいだ続く。現代日本では、思春期が長くなつているのだ。そして、思春期の間は親に経済的に依存せざるをえないから、そこで若者は「子ども」と見なされることになる。つまり、現代日本における「思春期」とは「子ども期」の別名といふこともできるのであり、そこで若者は長い「子ども期」を生きなければならなくなつていているのだ。

では、なぜ子ども期は長くなつたり短くなつたりするのか？ それは、子ども期が「大人社会のシステムや大人たちの時代的な共通了解」によって作ら

れる」という性質を持っているからである。つまり、現代日本においては、大人たちの間に「子ども期は長くなつてもよい」という「共通了解」があるということなのである。

② 子ども期が長くなつてることの要因として、以下の(i)～(iv)の四つがあげられる（第2～16段落）

ここで筆者は、現代日本において子ども期が引き延ばされたのはなぜかと、いうことを説明していく。理由としてあげられているのは、以下の(i)～(iv)の四点である。

(i) 豊かさの実現（第2段落前半）

まず筆者は、「子ども期の引き延ばし」の「最大の要因」として、現代日本の社会が経済的な「豊かさ」を実現したということをあげている。親が豊かになったことで、「働かないでも親に依存して食つていける若年層が大量に発生した」。このことによつて、若者は長い間「子ども」でいられるようになったのである。

(ii) 産業構造の高度化（第2段落末～第9段落）

次に筆者が指摘するのは、「産業構造の高度化」という問題である。これは端的にいえば、「モノ」を相手にする仕事が主流だった時代から「人」を相手にする仕事が主流となる時代へと変化したことで、若者が「一人前」意識を獲得しにくくなつたということである。

農業や漁業といった第一次産業が主力であったかつての社会においては、若者たちは、「自然の「モノ」」を相手にすることを通じて「実用的な「力」や「技術」」を習得し、自身を「一人前」の存在へと成長させていくことができた（第3段落）。また、製造業などの第二次産業が主流となつていた社会においても、何らかの「モノ作り」の技術を身につけることを通じて、やはり若者たちは「一人前」の存在になることができた（第4段落）。

【国語】

□ 現代文 【解答】

問一 a 零細 b 徒弟 c 克服 d 浮遊

問二 細

問三 A 工 B オ C ア D イ

問四 X ア Y ウ

問五 E 豊かさ F 少子化

問六

「二人前」意識をもつのに必要な実用的技術の習得は、モノと向き合う労働によって可能になるが、高度な産業社会では人というあいまいな存在を相手にする労働が主流となるため、そうした技術が習得されにくいから。(99字)

問七 カメレオン的な多様さ(10字)

問八 ウ

【配点】(60点)

問一 2点×4 問二 3点 問三 2点×4 問四 3点×2
問五 5点×2 問六 14点 問七 4点 問八 7点

【出典】

小浜逸郎『男』という不安(二〇〇一年 PHP新書)より、第2章「いつ『男』になるのか」の一節。途中、一部省略した箇所がある。

小浜逸郎(こはま・いつお)は、一九四七年生まれ。哲学・思想をはじめ、家族論・教育論など、幅広い領域で批評活動を行っている。『学校の現象学のために』『大人への条件』『弱者』とはだれか』『人はなぜ働くかなくてはならないのか』『責任』はだれにあるのか』など、著書多数。観念論を排し、生活人としての実感を尊重した議論で、多くの読者を獲得している。

【本文解説】

最初に断つておくが、本文には、一読すると学校教育を批判しているかのように見える箇所がある。しかし筆者は、とくに学校を批判しようとして本文を書いているわけではないはずだ。また、「男」という不安」というタイトルもある意味では誤解を招きやすいものだが、筆者は、単に「男とはこうでなくてはならない」といったことを訴えようとしているわけではないだろう。筆者が本文を書いたことの背景には、おそらく次ののような事情があると考えられる。

現代日本の社会は、たとえば男女雇用機会均等法といったものがあることからもわかるとおり、男女の平等を理念として掲げている。しかしその一方で、「二人前の男」に価値を認めるような考え方がある存在しているのも事実だ。したがって男の子は、周囲から「二人前の男になりなさい」などと言われ、それに重圧を感じたりするということにもなる。

しかし、「二人前の男」になれと言われても、それがどういうものかは曖昧であり、どうすれば「二人前の男」になれるのかとすることもわからないう。かりに「二人前の男」というのが(しっかりと稼いで家族を食べさせていくことでのける男)だとすると、とりあえず男の子は、稼ぐ手立てを身につけなければならないということになる。ところが学校では、稼ぐ方法などを教えてくれない(実際に学校でもそうしたことを間接的なかたちで教えてくれているのだが、そのことに気づかない)。こうして現代の男の子は、どうすれば自分が「二人前」になれるのかわからず、アイデンティティが確立できないという不安を抱えてしまうことになるのだ。

そして筆者は、右のような問題を真摯に見つめ直そうとしている。現代の

自己採点シート

第3回 全統高1模試

自己採点シートの使い方

①まずは自己採点

「学習の手引き」の【解答】に従つて自己採点してみましょう。論述問題の配点が大きい問題については【設問解説】を読んでおよその点数を予想してみましょう。

②設問ごとにチェック

満点に対してどれだけ得点できたか、得点率を計算し、設問ごとに比較してみましょう。得点率が最も低い設問には、「特に克服・補強すべき分野」として、☆に色を塗りましょう。

③何ができるなかつたのか確認しよう

②でチェックした設問を中心にして何をできないかつたのか確認し、具体的に何をどの程度のペースで学習していくのか、「今後の課題と学習プラン」を記入してみましょう。

④成績返却時には統計集を確認しよう

個人成績表と同時に返却されるANTENNA(成績統計資料)には「見直しシート」が付いています。自分の結果と比較し、ANTENNA成績統計資料に載っている「学習対策」を使って復習するともに、次回へ向けて具体的な目標得点をたててみましょう。

総合計

教科・科目	設問ごとの得点						合計	今後の課題と学習プラン
	1	2	3	4	英作文	長文総合講解		
英語	リスニング /20 (得点率)	語彙・熟語 /20 (得点率)	文法 /20 (得点率)	英作文 /40 (得点率)	長文総合講解 /60 (得点率)	長文総合講解 /40 (得点率)	/200	〈例〉基本的な文法・語法の知識を整理する。
数学	数学Ⅰ 小問集合 /30 (得点率)	〔1〕数学Ⅰ 〔2〕数学Ⅰ 場合の数 2次関数 /70 (得点率)	数学Ⅰ 2次関数 /50 (得点率)	図形と計量 /50 (得点率)	数学A 確率 /50 (得点率)	数学A 確率 /50 (得点率)	/200	〈例〉不得意分野、不安な分野を集中的に学習する。
国語	現代文・評論 /60 (得点率)	現代文・隨筆 /50 (得点率)	古文一軍記物語 /50 (得点率)	漢文一説話 /40 (得点率)	古文一説話 /40 (得点率)	古文一説話 /40 (得点率)	/200	〈例〉思ったより漢字が書けなかったので、ドリルで練習する。

※選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にしておきましょう。

学力アップ・志望校合格のための復習法

効率よく学力を伸ばすうえで、受験した模試を繰り返し復習することは非常に大切です。全統模試受験後には学習の手引き（解答・解説集）を読むだけでなく、下記のアイテムを積極的に活用して学力アップ・志望校合格につなげましょう。

STEP 1 模試受験後

【学習の手引き】

解答・解説をしっかりと読み、自己採点シート（巻末掲載）で克服・補強すべき分野を明確にしましょう。

【英語問題音声】

出題された音声問題の音源をダウンロードできます。繰り返し聴くことで、確実な復習を行いましょう。詳細はホームページをご参照ください。

<http://www.keinet.ne.jp/onsei.html>

※Kei-Net会員の登録（無料）が必要です。

STEP 2 成績資料返却後

【個人成績表】

現在の自分の学力状況を確認し、弱点分野については学習アドバイスを参考に今後の学習に活かしましょう。

【ANTENNA（生徒用成績統計資料）】

個人成績表の見方や各データの確認とあわせて、見直しシートや学習対策（教科科目別）も利用しましょう。

- ・見直しシート

今回の反省点とこれからの課題をチェックし、今後の対策を立てましょう。

- ・学習対策（教科科目別）

総評・設問別講評・学習アドバイスなどを読み、復習のポイントをつかみましょう。

STEP 3 長期休み中

STEP 1・2に再度必ず取り組み、確実な学力向上につなげましょう。